

2023年度 病院年報

独立行政法人国立病院機構

岩国医療センター



巻頭言

国立病院機構岩国医療センター
病院長 田中屋 宏爾

この度、2023年度の岩国医療センターにおける各診療科、部門毎の活動実績と、論文や学会発表などの研究業績をまとめ、病院年報として皆様にお届けできますことを大変嬉しく思っております。

当院は救命救急センターを持つ医療機関として山口県東部の医療圏における高度急性期医療を担うとともに、地域周産期母子医療センターとして、市民の方々が安心して暮らし、出産や子育てができる環境を地域医療機関や行政と連携しながら支えてまいりました。

やっとコロナ禍前の日常が戻ってきた一方で、診療報酬の改訂や働き方改革など、医療を取り巻く環境は急激かつ大きく変化しつつありますが、これまで以上に、治療効果が高く、かつ低侵襲な医療を提供することを目指して、PET-CT装置、ロボット支援手術の「ダビンチ Xi」、3D画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」、放射線治療機器など、最新型への更新や新規導入を進めているところです。さらに、臨床研究、次世代を担う医療人の育成や、公開市民講座などにも積極的に取り組んでおります。

地域住民の方々のより良い生活に貢献できるよう努めてまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

■ 2023 年度病院年報

診療科紹介

内科	2
消化器内科	3
肝臓内科	4
呼吸器内科	5
循環器内科	6
小児科	7
小児循環器科	8
外科	9
胸部外科	10
整形外科	11
形成外科	12
脳神経外科	13
心臓血管外科	14
皮膚科	15
泌尿器科	16
産科	17
婦人科	18
耳鼻咽喉科	19
救急科	20
放射線科	21
麻酔科	22
病理診断科	23
腎臓内科	24

各部門活動報告

薬剤部	26
臨床検査科	29
放射線科	34
リハビリテーション科	37
栄養管理室	39

看護部

5階西病棟	4 1
5階東病棟	4 2
6階西病棟	4 3
7階西病棟	4 4
7階東病棟	4 5
8階西病棟	4 6
8階東病棟	4 7
9階西病棟	4 8
9階東病棟	4 9
10階西病棟	5 0
10階東病棟	5 1
ICU	5 2
外来	5 3
手術室	5 4
地域医療連携室	5 5
入退院センター	5 6

研究活動業績

学術論文	5 8
学会発表等	6 4

研究一覧

特定臨床研究	8 1
臨床研究	8 3
院内研究	8 5
治験	8 7
特定使用成績調査	8 8
使用成績調査	8 9
副作用報告	9 0
その他の研究	9 1

【診療科紹介】

診療科名： 内科

当院の総合内科を担当する医師は全員がいずれかの臓器専門医である。難解な病気を名探偵のごとく解明するドクターGはいない(残念だが)、プライマリケアの段階から継続したケアを調整してゆく家庭医の役割も果たしていない。

混成部隊とはいえ、各領域だけの専門的知識のみに頼ってはその領域すらきちんと理解できない時代であることをしつかりと心に留めている。さらに、臓器の視点だけから見た専門領域はすでに時代遅れとなりつつあり、たとえば、腫瘍、免疫、栄養、緩和などといった総合的で新しい専門的切り口が益々重視されてきている。このこともこれからの総合内科の存在価値といえるのではなかろうか。すなわち、"総合内科的"とは、極論、質の高い専門医診療であろう。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	4,993	1,441	284
平均患者数	13.6	3.9	0.8
平均在院日数	5.8	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
徐脈性不整脈	31
腎臓又は尿路の感染症	22
肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)	15
誤嚥性肺炎	11
敗血症	10
その他の感染症(真菌を除く。)	9
肺炎等	7
肝硬変(胆汁性肝硬変を含む。)	7
大動脈解離	7
てんかん	7
全体	283

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	3
胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)	2
関節内骨折観血の手術(膝)	1
経皮的脳血栓回収術	1
鼻腔粘膜焼灼術	1
血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等)(止血術)	1
血管塞栓術(頭部、胸腔、腹腔内血管等)(選択的動脈化学塞栓術)	1
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
219	64	283	77.4%	141	49.8%

診療科名： 消化器内科

当科においては、内視鏡を用いた消化管及び胆膵疾患の診断・治療を少数精鋭(7名)で行っています。
 全例NBI拡大機能を搭載した最新スコープシステムによる検査、EMR/ESD、ステント留置、胆管結石除去、止血、PEGなど基本的な内視鏡的診断・治療のみならず、EUS-FNAを応用したEUS-BDや十二指腸腫瘍に対するUEMR、外科医と共同のLECS等、最新の治療手技にも取り組んでいます。
 とくに胆膵関連は山口県下ではトップクラスの症例数(年間約800件)をこなしています。
 また、当院は山口県東部の中核病院であり、救命救急センターも有しているため、緊急内視鏡の件数が多く、年間約200件を24時間体制でこなしています。
 胃内視鏡は、ほぼ全例に鎮静+炭酸ガス送気で行っており、患者さんに優しい、苦痛のない内視鏡を心がけています。
 また当科は日本消化器病学会ならびに日本消化器内視鏡学会の認定指導施設として今後も必要性が高まる内視鏡医の育成にも力を入れています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	14,165	888	1,345
平均患者数	38.7	2.4	3.7
平均在院日数	12.7	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
胆管(肝内外)結石、胆管炎	199
膵臓、脾臓の腫瘍	103
胃の悪性腫瘍	99
小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)	98
胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	84
穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	78
食道、胃、十二指腸、他腸の炎症(その他良性疾患)	65
結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍	57
直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	40
ヘルニアの記載のない腸閉塞	37
全体	1,375

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
内視鏡的胆道ステント留置術	133
内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のもの	112
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル未満	78
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術	63
小腸結腸内視鏡的止血術	39
内視鏡的膵管ステント留置術	35
超音波内視鏡下瘻孔形成術(腹腔内膿瘍)	30
内視鏡的消化管止血術	29
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	28
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル以上	24

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1,164	211	1,375	84.7%	162	11.8%

診療科名： 肝臓内科

国立病院機構岩国医療センターは山口県東部に位置した基幹病院です。我々肝臓内科は肝臓専門医2人の常駐勤務医のみではありますが、毎週水曜日に岡山大学からも肝疾患専門医師を招き、肝疾患を担当させていただいております。

以前はC型慢性肝炎の治療のご相談がよく見られておりましたが、近年は原因不明の肝機能異常の精査目的にご紹介を受ける比率が多くなりました。CT・MRIや腹部超音波検査といった画像検査や血液検査はもちろん、入院が必要ですがエコー下肝生検を行って病理診断学的に診断を行い、診断をつけて治療を行っております。しかし以前に比べて少なくなってきたB型・C型肝炎の治療だけでなく、ほかに近年問題になってきているMASLD(metabolic dysfunction associated steatotic liver disease) / MASH(metabolic dysfunction associated steatohepatitis)などの精査も行っております。

そのほか肝臓癌の治療として腹部血管造影検査やラジオ波焼灼術だけでなく、近年発表された化学療法も行っております。そのほか、肝臓癌としては非典型的な肝腫瘍も肝腫瘍生検をして確定診断をつけて、外科や消化器内科などの他科とも連携を取りながら検査を進めていくことも行っております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	844	35	51
平均患者数	2.3	0.1	0.1
平均在院日数	19.6	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	19
腎臓又は尿路の感染症	11
肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	4
アルコール性肝障害	2
慢性C型肝炎	2
敗血症	2
慢性肝炎（慢性C型肝炎を除く。）	2
肝膿瘍（細菌性・寄生虫性疾患を含む。）	2
劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	2
誤嚥性肺炎	1
全体	52

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等） （選択的動脈化学塞栓術）	7
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	2
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等） （その他）	1
リンパ節摘出術（長径3cm未満）	1
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
48	4	52	92.3%	11	21.2%

診療科名： 呼吸器内科

呼吸器内科は2024年9月末日に西井医師が退職しアメリカのMDアンダーソンがんセンターへ留学いたしました。10月より西達也医師が赴任しております。また後期レジデントとして4月からは白羽慶祐医師が、10月からは山下真弘医師が入職しております。

診療面では入院患者の半数は肺癌となっており、その他に肺炎、胸膜炎、誤嚥性肺炎、非結核性抗酸菌症、肉腫等の治療を行っております。

肺癌に対して細胞障害性抗がん薬、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬、単剤または併用での化学療法を行っております。周術期の治療として免疫チェックポイント阻害薬や、分子標的薬の使用が可能になり、抗がん薬の適応範囲が広がっております。肺癌の分野では毎年のように新規抗がん剤が発売され、新規治療レジメンが増えております。これらの新規治療をいち早く患者様にお届けできるように準備を整えております。

研究面では国立がん研究センター東病院のLC-SCRUM Asia研究に積極的に参加しており、また新規抗がん剤の治験も実施しております。その成果として多数の論文は発表しております。

また地域の癌ゲノム診療連携病院として、包括的がんゲノムプロファイリング検査を行っております。

今後とも宜しくお願いいたします。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	19,935	980	1,298
平均患者数	54.5	2.7	3.5
平均在院日数	17.5	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
肺の悪性腫瘍	613
間質性肺炎	144
肺炎等	134
誤嚥性肺炎	73
その他の感染症（真菌を除く。）	68
胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	40
慢性閉塞性肺疾患	37
抗酸菌関連疾患（肺結核以外）	21
喘息	14
非ホジキンリンパ腫	12
全体	1,331

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（四肢）	5
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（止血術）	2
静脈形成術、吻合術（胸腔内静脈）	2
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみ）	2
骨折観血的手術（大腿）	1
人工骨頭挿入術（股）	1
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方又は後側方固定）	1
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	1
頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	1
経皮的脳血栓回収術	1

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1,130	201	1,331	84.9%	194	14.6%

診療科名： 循環器内科

[診療体制] 2024年度の循環器内科は、診療部長：片山、医長：田中屋、川本、和田、大塚、および、有須田、今村、越智、平原、松尾、村田の11名の診療体制となっています。夜間休日を含めて循環器内科医師が常駐していますので、24時間365日の循環器救急に対応しています。また、内科、循環器、カテーテル治療、不整脈のそれぞれ研修施設として、各専門医の取得が可能となっています。

[診療の特色]2023年度の循環器内科の全入院患者数1600人のうち、救急搬送後の緊急入院は430人（全入院の26.9%）でした。入院上位の疾患（手術）としては、心不全、虚血性心疾患および急性心筋梗塞（冠動脈カテーテル治療）、不整脈（アブレーション、ペースメーカー）、閉塞性動脈疾患（血管内治療）となっており、各手術件数もそれぞれ前年と比較して同程度となっています。また、2024年6月より経皮的左心耳閉鎖術（WATCHMAN）を開始しました。心不全患者については、積極的な原因精査・治療とともに、最新の治療薬（治験薬を含めて）の導入、心臓リハビリ、心不全カンファレンスなど、包括的マネジメントによって再発予防を行っております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	17,236	1,494	1,597
平均患者数	47.1	4.1	4.4
平均在院日数	11.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
心不全	341
頻脈性不整脈	313
狭心症、慢性虚血性心疾患	264
急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	107
睡眠時無呼吸	99
徐脈性不整脈	68
閉塞性動脈疾患	63
脳梗塞	56
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	50
その他の循環器の障害	22
全体	1,600

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
経皮的カテーテル心筋焼灼術 心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの	195
経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞に対するもの	83
経皮的冠動脈ステント留置術 その他のもの	74
四肢の血管拡張術・血栓除去術	60
経皮的カテーテル心筋焼灼術 その他のもの	59
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	53
経皮的シャント拡張術・血栓除去術 初回	29
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） 高速回転式経皮経管アテレクトミー	28
経皮的冠動脈形成術 その他のもの	17
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） エキシマレーザー血管形成用カテー	15

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
1,411	189	1,600	88.2%	430	26.9%

診療科名： 小児科

小児科の診療地域は岩国市・和木町・広島県大竹市が基本で、柳井市の一部、周防大島町の一部からも受診されます。岩国市・和木町は乳幼児から小児までの福祉医療の充実を図っている地域で、小児科医が行う2週間健診、1か月健診、1歳健診、おたふく予防接種2回公費助成のもと積極的に予防接種にも取り組んでいます。

外来は成長障害、内分泌、骨系統疾患、てんかんなどの慢性疾患、小児循環器疾患（先天性心疾患、川崎病、不整脈の治療）を行っています。発達障害/神経発達症の診療に関しては、心理検査、脳波・MRIなどの検査と、外来リハビリで作業・音楽・言語療法を施行しています。

1年間の入院は、1型糖尿病発症1名含む糖代謝異常9名、白血病悪性新生物2名、骨・内分泌疾患2名、急性脳症6名、髄膜炎2名、他けいれん性疾患39名、急性腹症虫垂炎8名、腸重積2名 川崎病40名、腎疾患18名、入院を要するアナフィラキシー15名、酸素・呼吸管理を要するRSウイルス感染52名、溶連菌感染症7名、Covid-19感染9名、インフルエンザ16名、マイコプラズマ感染症7名、その他肺炎呼吸器疾患104名、NICU入院は107名、早産児など必要な症例は生後早期からリハビリ介入しています。出産後NICUの母児面会も感染対策に留意し持続して行っています。脳低体温療法が必要な新生児例は総合周産母子センターと、外科的/集中管理が必要な心疾患は小児心臓血管外科専門施設と連携して診療を行っています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	4,677	566	567
平均患者数	12.8	1.5	1.5
平均在院日数	8.3	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	118
急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	47
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	45
その他の感染症（真菌を除く。）	39
川崎病	38
熱性けいれん	35
肺炎等	35
喘息	32
ウイルス性腸炎	20
腎臓又は尿路の感染症	15
全体	567

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
腸重積症整復術 非観血的なもの	2
腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの	2
新生児仮死蘇生術 仮死第1度のもの	2
新生児仮死蘇生術 仮死第2度のもの	2
皮膚切開術 長径10センチメートル未満	1
膀胱瘻造設術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
299	268	567	52.7%	31	5.5%

診療科名： 小児循環器科

小児循環器科は、重症先天性心疾患児の手術までの管理、新生児～学童期の先天性・後天性心疾患児のフォロー、不整脈の診断と保存的治療、産科から紹介される胎児心エコー等に携わっています。小児科スタッフの教育とともに、心エコー診断、呼吸循環管理、薬物療法、手術適応の判断などを行います。なかでも川崎病は、毎年20名余りが当科に入院しますが、小児科と協同して、主にエコーにて冠動脈病変を正確に評価し治療方針を決定します。退院後のフォローは小児循環器科が担います。また、毎年、学校心臓検診の2次精査にも当たり、定期的な検査や治療を行います。

なお、当院では、心疾患合併の重症の基礎疾患症例においては、積極的に、できるだけ長く家族とともに過ごして頂く方針をとっています。その際には、在宅サポートを中心にお手伝いさせていただきます。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数			
平均患者数			
平均在院日数			

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合

診療科名： 外科

外科は今年もスタッフ10名外科専攻医2名で診療に当たっており時に3列並列で手術を行っております。2023年の手術件数は乳腺を含めて671件と過去最高となり、内視鏡手術も410件と最多でその割合も61.1%と過去最高となりました。本年は肝臓で内視鏡技術認定を1名取得し、4名となっております。本年は胃切除もロボットを導入し、特に高齢者で成績向上に寄与していると考えております。なお、大腸ではロボットの症例を重ね、1名プロクターの資格を取得しております。更にDaVintiもSiからXiへと進化して更なるロボット手術の普及を目指しております。学会活動も依然として多数行っており、2023年の発表数は51回に上っております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	11,992	1,055	1,140
平均患者数	32.8	2.9	3.1
平均在院日数	10.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
乳房の悪性腫瘍	164
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	136
胆嚢炎等	118
直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍	85
食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	83
虫垂炎	82
胃の悪性腫瘍	81
鼠径ヘルニア	72
ヘルニアの記載のない腸閉塞	65
肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	38
全体	1,165

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
腹腔鏡下胆嚢摘出術	140
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	59
腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの	50
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	43
乳腺悪性腫瘍手術 乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	34
ヘルニア手術 鼠径ヘルニア	28
乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）	21
腹腔鏡下直腸切除・切断術 低位前方切除術	18
内視鏡的胆道ステント留置術	16
腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	13

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
947	217	1,164	81.4%	60	5.2%

診療科名： 胸部外科

胸部外科では、肺悪性腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸などの呼吸器に関する疾患に対して、手術を中心とした診療を行っています。今年度は昨年度と同様に呼吸器外科専門医2名と、レジデント1名の3人体制です。昨年度の手術件数は185件で、例年と比較してやや減少しました。しかしながら、新たな取り組みとして単孔式の胸腔鏡下手術および肺悪性腫瘍に対するロボット支援下手術を導入しております。引き続き、より低侵襲な治療を心がけてまいります。

手術だけでなく学術活動も両立しており、1年間で23件の学会発表と3報の英語論文発表もいたしました。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	2,311	273	275
平均患者数	6.3	0.7	0.8
平均在院日数	8.4	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
肺の悪性腫瘍	160
気胸	45
肺・縦隔の感染、膿瘍形成	9
肺・胸部気管・気管支損傷	8
呼吸器系の良性腫瘍	7
胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	6
縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	6
肺炎等	4
非ホジキンリンパ腫	4
胸郭・横隔膜損傷	3
全体	277

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	35
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 区域切除	34
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 部分切除	27
胸腔鏡下肺切除術 肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの）	16
胸腔鏡下肺切除術 部分切除	10
胸腔鏡下試験切除術	9
肺悪性腫瘍手術 肺葉切除又は1肺葉を超えるもの	7
胸腔鏡下膿胸腔搔爬術	6
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	5
胸腔鏡下肺縫縮術	4

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
252	25	277	91.0%	18	6.5%

診療科名： 整形外科

整形外科は6名で診療を行っています。外来診療は月曜、火曜、木曜日で水曜日、金曜日は手術日となっています。平日夜間や休日は呼び出し担当医を決めて24時間、整形外科疾患に対応できるようにしています。毎朝急患、手術症例など整形外科カンファレンスを行い適切な治療が行えるよう検討しています。毎週火曜日には他業種を含めて全体でカンファレンスを行い情報を共有しています。

手術は外傷から膝、股関節の人工関節、脊椎手術と広範囲に渡り行っており2023年度は年間880例程度で年々増加傾向にあります。3次救急施設であるため重症の外傷も多く手術症例の約8割が外傷となっています。近年高齢者の大腿骨近位部骨折が人口の高齢化と共に増加傾向であり、早期手術が予後に影響するため他科と連携してできるだけ受傷後48時間以内に手術を行うように努めています。また手術後は急性期を過ぎて状態が安定しリハビリ治療が継続して必要な場合はご家族と相談の上、転院先を決めて治療を継続していきます。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	18,785	924	936
平均患者数	51.3	2.5	2.6
平均在院日数	20.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
股関節・大腿近位の骨折	223
胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	97
前腕の骨折	64
脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎	63
肩関節周辺の骨折・脱臼	42
骨盤損傷	41
足関節・足部の骨折・脱臼	40
膝関節周辺の骨折・脱臼	28
肘関節周辺の骨折・脱臼	27
椎間板変性、ヘルニア	27
全体	936

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
骨折観血的手術（大腿）	167
骨折観血的手術（下腿）	86
人工骨頭挿入術（股）	81
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方又は後側方固定）	60
人工関節置換術（肩）	42
骨折観血的手術（足）	36
骨内異物（挿入物を含む）除去術（前腕）	35
骨内異物（挿入物を含む）除去術（指）	26
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）	21
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定）（1椎間）	14

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
712	224	936	76.1%	212	22.6%

診療科名： 形成外科

当科は平成19年に開設され、眼瞼疾患（眼瞼下垂・眼瞼内反/外反など）、小児先天異常（耳介変形・多指症など）、外傷（顔面骨折・切断指再接着・熱傷など）、皮膚良/悪性腫瘍、癌切除後再建（頭頸部癌・乳癌・皮膚癌など）、瘢痕（肥厚性瘢痕・拘縮・ケロイド）、難治性潰瘍（術後創治癒遅延・足壊疽・褥瘡など）、その他（リンパ浮腫、顔面神経麻痺静的再建など）の治療を行っています。

特に岡山大学形成再建外科の特色であるマイクロサージャリーを受け継ぎ、他科の先生方と連携して悪性腫瘍や外傷、慢性創傷に伴う軟部組織欠損に対する再建手術や外傷などに伴う末梢神経・血管損傷の修復手術などに力を入れております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,620	142	147
平均患者数	4.4	0.4	0.4
平均在院日数	11.2	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
眼瞼下垂	22
顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	14
皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	12
骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	12
熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	11
その他の新生物	8
皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	7
膿皮症	6
糖尿病足病変	6
エクリン汗腺の障害、アポクリン汗腺の障害	6
全体	147

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
眼瞼下垂症手術（眼瞼挙筋前転法）	20
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	9
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）長径2センチメートル以上4センチメートル未満	6
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（大腿）	6
腋臭症手術 皮弁法	5
分層植皮術（100cm ² 以上 200cm ² 未満）	5
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）長径4センチメートル以上	4
分層植皮術（200cm ² 以上）	4
断端形成術（骨形成を要するもの）指（手、足）	4
眼窩骨折観血的手術	4

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
123	24	147	83.7%	11	7.5%

診療科名： 脳神経外科

当科は脳神経外科医師9名（日本脳神経外科学会専門医6名、後期研修医3名）の体制で日々の診療にあたっています。山口県東部のみならず広島県西部から島根県南部の広域において24時間365日脳神経外科の救急患者さんに対応できる唯一の施設です。年間入院患者数は約900人、年間手術件数は約400件あり中国四国地方において有数の施設になっています。常時1名以上が緊急の呼び出しに対応出来る様に待機し、診断から治療までを円滑に行える体制を整えています。また当科医師9名による週4回のカンファレンスにおいて個々の患者さんの病状を十分検討したうえで治療方針や手術方法を決定しています。専門医6名は脳神経外科全般の診療に加えて、それぞれが得意とする専門分野を持っており、各分野で安心安全な医療が提供できるように日々研鑽を積んでおります。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	17,563	907	914
平均患者数	48.0	2.5	2.5
平均在院日数	19.3	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
脳梗塞	234
頭蓋・頭蓋内損傷	153
非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	129
未破裂脳動脈瘤	64
脳血管障害	62
脳腫瘍	35
てんかん	34
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	34
頸椎頸髄損傷	31
胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	26
全体	914

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	68
経皮的脳血栓回収術	33
脳血管内手術 1箇所	32
頭蓋内血腫除去術（開頭して行うもの） 脳内のもの	18
脳動脈瘤頸部クリッピング 1箇所	18
経皮的脳血管形成術	16
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 椎弓切除	15
経皮的頸動脈ステント留置術	15
頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの	14
水頭症手術 シヤント手術	11

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
657	257	914	71.9%	362	39.6%

診療科名： 心臓血管外科

当科では岩国市を含む山口県東部を中心に、広島県西部、島根県南部と幅広い地域からの患者さんを受け入れています。近年高齢化に伴い大動脈弁狭窄症や僧帽弁閉鎖不全症等の弁膜症が増加しており、安全な医療が提供できるよう日々努力しています。手術室に据置型の血管造影装置を結合させたハイブリッド手術室を有し、手術中に血管造影検査を行うことが可能で、胸部大動脈瘤・腹部大動脈瘤に対し従来型手術はもちろんのこと、より低侵襲なステントグラフト治療も行っています。

2023年は年間243例の手術を行いました。うち心臓・胸部大血管手術は107例で、腹部大動脈瘤に対する人工血管置換術は27例、ステントグラフト治療は胸部・腹部あわせて22例行いました。また下肢閉塞性動脈硬化症に対する血行再建術や急性動脈閉塞に対する緊急血栓除去手術、透析で用いる内シャント造設術も行なっています。下肢静脈瘤に関しては血管内高周波カテーテル治療を導入しており、ストリッピング術・結紮術とともに適応に合わせて治療を行っています。

全ての患者さんに対し、理学療法士、薬剤師、栄養士、臨床心理士等、循環器診療に携わるスタッフが連携して総合的かつ包括的な医療を提供することで、手術を安全に受けただけでなく、退院後も質の高い生活が維持できる体制をとっています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	5,700	312	326
平均患者数	15.6	0.9	0.9
平均在院日数	17.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	82
狭心症、慢性虚血性心疾患	60
大動脈解離	43
弁膜症（連合弁膜症を含む。）	38
徐脈性不整脈	34
静脈・リンパ管疾患	25
閉塞性動脈疾患	9
手術・処置等の合併症	8
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	7
破裂性大動脈瘤	5
全体	326

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
ペースメーカー交換術	28
ステントグラフト内挿術 1以外の場合 腹部大動脈	24
大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）腹部大動脈（その他のもの）	21
弁置換術 1弁のもの	19
冠動脈、大動脈バイパス移植術（2吻合以上）	14
大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）弓部大動脈	13
大動脈瘤切除術（吻合又は移植を含む。）上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術 その	12
大伏在静脈除去術	12
下肢静脈瘤血管内焼灼術	12
ステントグラフト内挿術 1以外の場合 胸部大動脈	8

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
304	22	326	93.3%	42	12.9%

診療科名： 皮膚科

皮膚科では皮膚に関連する疾患全般の診療を行っています。湿疹や水虫など皆様もご存じの疾患から、細菌感染症やウイルス感染症など時に入院も必要となる疾患、皮膚腫瘍など手術の必要な疾患、乾癬や自己免疫性水疱症といった皮膚科特有の疾患など様々です。アトピー性皮膚炎や乾癬、円形脱毛症などの特定の皮膚疾患では近年分子標的薬が注目を集めています。当院は承認施設となっており最新の治療を受けることが可能です。まずはお気軽にお問い合わせください。患者様のお悩みに寄り添った医療を目指しています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,203	76	85
平均患者数	3.3	0.2	0.2
平均在院日数	14.9	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
膿皮症	30
皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	18
糖尿病足病変	5
帯状疱疹	4
皮膚の良性新生物	4
静脈・リンパ管疾患	4
熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	3
水疱症	2
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	2
薬物中毒（その他の中毒）	2
全体	85

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
皮膚悪性腫瘍切除術 単純切除	16
全層植皮術（25cm ² 未満）	4
四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（躯幹）	2
皮膚切開術（長径10cm未満）	1
皮膚切開術 長径10センチメートル以上20センチメートル未満	1
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上6cm未満）	1
皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）長径12センチメートル以上	1
瘢痕拘縮形成手術（その他）	1
分層植皮術（25cm ² 以上100cm ² 未満）	1
全層植皮術（25cm ² 以上100cm ² 未満）	1

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
70	15	85	82.4%	14	16.5%

診療科名： 泌尿器科

山口県東部地域および近郊医療圏域の患者さんに対して、個々の要望や価値観を取り入れながら都市部と遜色のない診療レベルの確保を目指しています。診療範囲は尿路悪性腫瘍を中心に手術療法およびがん薬物療法、終末期緩和医療を行っています。また、良性疾患に対しては尿路結石症、尿路感染症、骨盤臓器脱に対しても治療を行っています。泌尿器科スタッフは5名で、外来・入院ともにチーム主治医制による診療を行っています。【2023年実績】ホルミウムヤグレーザー手術 83 件、ロボット支援手術 111件。【これからの目標】病診連携の充実、逆紹介の向上。低侵襲手術の提供による市民へのより良い医療の提供。スタッフの技術レベル向上と後期研修医への教育の充実を目標にしています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	7,711	710	757
平均患者数	21.1	1.9	2.1
平均在院日数	10.5	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
膀胱腫瘍	179
前立腺の悪性腫瘍	156
上部尿路疾患	86
腎盂・尿管の悪性腫瘍	84
腎腫瘍	36
前立腺肥大症等	33
腎臓又は尿路の感染症	62
下部尿路疾患	26
男性生殖器疾患	11
生殖器脱出症	23
全体	765

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	116
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	68
経尿道的尿路結石除去術 レーザーによるもの	56
経尿道的尿管ステント留置術	43
経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術 ホルミウムレーザー又は倍周波数レーザーを用い	32
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	23
腹腔鏡下仙骨腔固定術（内視鏡手術用支援機器使用）	23
膀胱内凝血除去術	22
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 全摘（回腸又は結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）	9
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	7

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
699	66	765	91.4%	34	4.4%

診療科名： 産科

令和5年の分娩数は270例と令和4年の297件と比べさらに減少しました。そのうち帝王切開分娩は75件（28%）と昨年度に比べ上昇しました。双胎分娩は6件でそのうち3件が経膈分娩、2件が帝王切開、1件が1人目が経膈分娩、2人目が帝王切開分娩となりました。帝王切開後の経膈分娩は8例あり7例が経膈分娩（VBAC）、1件が緊急帝王切開となりました。骨盤位は18例ありましたが全例帝王切開分娩でした。当科では妊婦の希望があった際、医学的に問題がなければ帝王切開後の経膈分娩（TOLAC）、経産婦の骨盤位分娩を行っておりますが年々希望者は減少傾向です。希望があれば無痛分娩にも対応しておりますが、人手の関係上平日昼間のみに対応で、休日、夜間に対応できておりません。周産期管理については、地域周産期医療センターの指定を受けており小児科の先生の御協力のもと妊娠32週以上、推定体重1500g以上の児であれば管理が可能です。母体保護法指定医が在籍しており人工妊娠中絶にも対応可能です。医師数は4名で常勤医3名、専攻医1名ですべて婦人科と兼任です。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	2,014	310	314
平均患者数	5.5	0.8	0.9
平均在院日数	6.5	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
胎児及び胎児付属物の異常	61
分娩の異常	50
早産、切迫早産	36
妊娠中の糖尿病	18
妊娠高血圧症候群関連疾患	12
妊娠合併症等	11
産褥期を中心とするその他の疾患	10
流産	8
前置胎盤及び低置胎盤	4
妊娠早期の出血	3
全体	217

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
帝王切開術 緊急帝王切開	40
帝王切開術 選択帝王切開	37
吸引娩出術	7
子宮双手圧迫術（大動脈圧迫術を含む。）	7
胎盤用手剥離術	3
流産手術 妊娠11週までの場合 手動真空吸引法によるもの	3
乳腺膿瘍切開術	1
外陰・膣血腫除去術	1
子宮頸管ポリープ切除術	1
会陰（膣壁）裂創縫合術（分娩時） 肛門に及ぶもの	1

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
279	35	314	88.9%	1	0.3%

診療科名： 婦人科

令和5年の手術件数は243件で令和4年と比べて減少しました。そのうち腹腔鏡手術件数は36件と減少はしましたが割合は増加しました。悪性腫瘍は子宮頸がん23件でそのうち子宮頸部前がん病変（CIN3）が20例、Ⅰ期が2例、Ⅳ期が1例でした。当科では放射線治療装置がないため、放射線治療が必要となる症例は他院への紹介としております。子宮体癌は18例、卵巣癌は9例でした。癌に関しては手術、化学療法治療が中心です。良性疾患に対しては腹腔鏡手術が可能なものは腹腔鏡手術を選択するようしております。また子宮鏡の設備もあり適応症例に対しては子宮小手術も行っております。現在医師4名で診療にあたっており3名が常勤医、1名が専攻医ですべて産科と兼任です。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,625	223	234
平均患者数	4.4	0.6	0.6
平均在院日数	7.1	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
子宮頸・体部の悪性腫瘍	77
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	39
卵巣の良性腫瘍	33
子宮の良性腫瘍	16
流産	11
子宮内膜症	10
女性性器のポリープ	9
生殖器脱出症	8
ヘルニアの記載のない腸閉塞	5
子宮・子宮附属器の炎症性疾患	4
全体	242

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 腹腔鏡によるもの	29
子宮全摘術	21
子宮頸部（腔部）切除術	18
子宮悪性腫瘍手術	12
子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術、子宮内膜ポリープ切除術 その他のもの	10
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	10
流産手術 妊娠11週までの場合 手動真空吸引法によるもの	10
子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 開腹によるもの	9
子宮脱手術 腔壁形成手術及び子宮全摘術（腔式、腹式）	7
子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	7

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合

診療科名： 耳鼻咽喉科

1) 頭頸部腫瘍の手術 及び 放射線化学療法
 喉頭癌、咽頭癌、舌癌、口腔癌、鼻副鼻腔癌、甲状腺癌、唾液腺癌などの頭頸部癌 その他の頭頸部良性腫瘍に対する手術

2) 慢性副鼻腔炎・好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡下手術 (ESS: Endoscopic Sinus Surgery)

3) 慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎に対する耳科手術鼓室形成術や鼓膜形成術

4) 慢性扁桃炎・アデノイド肥大、声帯ポリープなどに対する咽頭・喉頭手術

5) 末梢性顔面神経麻痺(側頭骨内顔面神経減荷術)・突発性難聴

6) 急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍、深頸部膿瘍などの重症感染症

7) 嚥下機能の評価(嚥下内視鏡)・嚥下改善手術・誤嚥防止手術

以上の様な耳鼻咽喉科領域の幅広い疾患に対応しているが、特に頭頸部悪性腫瘍や好酸球性副鼻腔炎などの鼻科領域の症例を多く扱っている。

鼻科手術では磁場式ナビゲーションシステムを活用し手術合併症をおこさず安全な手術を行っている。

難病指定の好酸球副鼻腔炎に対しては副鼻腔単洞化手術の施行、抗体製剤(デュピクセント)等を適切に行いQOLの改善を目指している。

頭頸部腫瘍では良性疾患では術中の神経モニタリングを行って神経温存等に留意しより安全な手術を行い、悪性腫瘍症例では切除再建をふくむ手術や術後補助療法を組み合わせ治療成績の向上をはかるようにしている。

また、再発転移症例でも免疫チェックポイント阻害剤と抗がん剤を組み合わせた化学療法や分子標的剤を適切に使用しQOLおよび予後改善を目指している。さらに近年、甲状腺乳頭癌でBRAF遺伝子変異陽性例にたいするダブラフェニブ+タフィンラー内服治療なども適応拡大となっており使用例も増加しつつある。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	4,414	402	438
平均患者数	12.1	1.1	1.2
平均在院日数	10.5	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
頭頸部悪性腫瘍	86
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	44
扁桃、アデノイドの慢性疾患	37
前庭機能障害	33
慢性副鼻腔炎	30
耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	28
甲状腺の悪性腫瘍	24
顔面神経障害	14
声帯の疾患(その他)	14
滲出性中耳炎、耳管炎、耳管閉塞	14
全体	439

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
口蓋扁桃手術(摘出)	43
内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型(汎副鼻腔手術)	32
喉頭腫瘍摘出術 直達鏡によるもの	18
甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術 片葉のみの場合	17
鼓膜(排液、換気)チューブ挿入術	13
扁桃周囲膿瘍切開術	12
耳下腺腫瘍摘出術 耳下腺浅葉摘出術	11
内視鏡下鼻・副鼻腔手術III型(選択的(複数洞)副鼻腔手術)	10
鼻中隔矯正術	9
鼓膜形成手術	6

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
405	34	439	92.3%	13	3.0%

診療科名： 救急科

救急科は2017年4月に発足しました。現在、医師2名、診療看護師1名の3名のスタッフで活動しており、平日の時間内診療は医師1名と診療看護師1名が救急外来を担当し、医師1名が救命救急センター専従として勤務する体制となっています。救急外来は多数の診療科が使用し、研修医の教育の場にもなっております。多くの救急車、ワークイン患者を受け入れるため、各科の医師がスムーズに診療、教育できる環境と体制を作っていくことを目標に、日々改善に取り組んでいます。各科の協力により、救急車受け入れ台数は山口県内ではトップクラスを維持しております。救急医療に加えて、当科では災害医療にも取り組んでいます。地震をはじめとする自然災害は地域や時間を選ばず、突然発生します。岩国地域も例外ではなく、地域の基幹病院である当院は、災害時には拠点となる医療機関です。災害マニュアルを定期的に見直し、平時からDMAT訓練や院内の災害訓練などに積極的に参加して災害に備えています。今後も継続して災害に対する準備を継続していきたいと思っております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,015	68	83
平均患者数	2.8	0.2	0.2
平均在院日数	13.4	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
薬物中毒（その他の中毒）	20
体温異常	16
詳細不明の損傷等	9
脳の障害（その他）	6
四肢筋腱損傷	5
誤嚥性肺炎	4
その他の感染症（真菌を除く。）	3
急性腎不全	2
胸郭・横隔膜損傷	2
敗血症	2
全体	83

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
29	54	83	34.9%	64	77.1%

診療科名： 放射線科

放射線科は、読影（画像診断）・IVR・放射線治療の3部門の診療を行っています。
 現在、常勤医3名（IVR/読影1名、読影1名、治療1名）・非常勤医1名（読影）となっています。

読影は、CT・MRI・RI・PET・単純撮影の所見を、可能な範囲で作成しています。

2023年度はCT 7840件・MRI 2945件・RI 255件・PET 671件・単純撮影 918件で、合計 12629件レポートを作成しています。
 休日・時間外は待機当番制をひき、随時読影依頼に対応しています。上部消化管透視の手技・読影も行っています（2023年度は2件）。

IVR は、2023年度は109件施行しています。出血の止血、肝TACE、末梢動脈瘤の塞栓、AVFの塞栓、BAE、SVCステント留置、BRTO、腎AMLの塞栓、各種生検・ドレナージ、VATSマーカー挿入など、胸腹部領域の手技を幅広く手掛けています。緊急の際は随時対応しています。

治療は、岩国市では唯一の放射線治療施設であり、岩国市内のみならず山口県東部・広島県西部からも広く患者様をご紹介いただき治療しています。2023年度は171人の新規患者様をご紹介いただき、再治療の患者様を合わせると計199件の症例を治療しています。対象となる疾患は癌・肉腫および一部の良性疾患（甲状腺眼症、ケロイドなど）です。今年度は、治療機械更新のため約半年間治療を行うことができず、ご迷惑をおかけしております。12月から治療を順次再開し、さらに脳・脊椎への定位放射線治療といった今まで行っていなかった新たな治療も開始していく予定です。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数			
平均患者数			
平均在院日数			

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合

診療科名： 麻酔科

2023年度の総手術件数は3864症例、その内、麻酔科管理症例は2997症例件でした。2023年5月より伊藤侑子先生が勤務となっております。常勤7人と関連病院から診療支援を頂いて臨床を支えています。研究面では、学会発表3演題、和文論文1編です。教育面では、初期研修医1年目は、14人、2年目は1人の麻酔科研修を担当致しました。救急救命士の気管挿管病院実習は4人を、ビデオ喉頭鏡実習は6人を担当しました。初期研修医教育、地域医療に貢献しております。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数			
平均患者数			
平均在院日数			

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合

診療科名： 病理診断科

2023年度、病理診断科は常勤医師2名、臨床検査技師4名の体制で業務を行っている。件数は組織診断が5375件(うち迅速診断403件)、細胞診断3747件、剖検数8体である。

当院は平成30年に癌ゲノム医療連携病院に指定された。病理検体から遺伝子情報を抽出し治療に活かす癌ゲノム医療が全国で始まっており、当科においても体制整備を整え、岡山大学病院とのウェブミーティング(エキスパートパネル)に定期的に参加し、がん診療に貢献している。病理検体を使って行う検査のうち、治療薬につながる検査が年々増加しており、スムーズに正確な結果を得られるように努力している。

臨床検査科では、国際規格「ISO 15189」認定を取得し高いレベルの精度管理を行っている。ISO認定の継続更新も行われ、精度の高い診断が行えるように努力している。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数			
平均患者数			
平均在院日数			

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
以下、余白	以下、余白
全体	

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合

診療科名： 腎臓内科

慢性腎臓病は慢性糸球体腎炎のような腎臓に限局した疾患のみならず高血圧症や糖尿病、全身性エリテマトーデス、ACPKD（常染色体優性多発性嚢胞腎）といった全身疾患にも続発します。最近では睡眠時無呼吸症候群に続発した腎機能低下症例も多数経験し、ますます総合内科的な診療対応の重要性を認識しています。2024年10月から水曜日のみの非常勤にて外来対応のみを行っています。

【医事患者統計】

項目	入院患者	新入院患者	退院患者
延べ患者数	1,258	115	128
平均患者数	3.4	0.3	0.3
平均在院日数	10.4	-	-

【DPC統計】

(1) 取扱疾患 上位10項目

疾患名	件数
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	72
敗血症	8
睡眠時無呼吸	7
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	6
急性腎不全	5
虚血性腸炎	4
その他の副腎皮質機能低下症	4
腎臓又は尿路の感染症	2
肺炎等	2
膿皮症	2
全体	128

(2) 手術実績 上位10項目

手術名	件数
末梢動静脈瘻造設術 内シャント造設術 単純なもの	2
皮膚切開術 長径10センチメートル未満	1
化膿性又は結核性関節炎搔爬術（足）	1
体外ペースメーカー術	1
連続携帯式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	1
内視鏡的消化管止血術	1
以下、余白	以下、余白

(3) 入院経路

紹介患者数	一般患者数	計	紹介患者割合	全体のうち、救急搬送数	救急搬送割合
114	14	128	89.1%	18	14.1%

【各部門活動報告】

2023年度年報（薬剤部）

薬剤部長 西澤 修一

1) 薬剤部の紹介、特徴

常勤薬剤師23名（定員26名）、非常勤薬剤師2名、薬剤助手5名

薬剤部内での業務（調剤業務、製剤業務、抗がん剤やTPNの無菌調製業務）とは別に、各病棟に専任の薬剤師を配置して病棟薬剤業務を展開し、安全で安心な薬物療法の実践に取り組んでいる。

また薬学部長期実務実習の受入施設として、2023年には8名の実習生を受け入れて、後進の育成に努めている。

2) 令和5年度の実績

		2021年度	2022年度	2023年度
注射処方せん枚数	入院枚数	227,275	233,443	225,292
	外来枚数	20,604	21,484	21,975
処方せん枚数	入院	116,328	117,152	127,393
	外来院内	1,562	1,170	1,208
	外来院外	55,126	56,128	57,272
院外処方せん発行率		97.2%	98.0%	98.0%
薬剤管理指導料	請求件数内訳1. ハイリスク薬管理	3,387	4,608	6,161
	請求件数内訳2. 1以外	7,114	9,453	10,925
	請求件数(上記合計)	10,501	14,061	17,086
	麻薬加算件数	263	302	369
	薬剤師1人当請求数	64.8	67.9	79.1
入院時支援加算請求件数		139	363	349
退院時薬剤情報管理指導料件数		1,262	1,420	1,948
病棟薬剤業務	病棟薬剤業務実施加算1件数	19,647	22,230	26,815
	持参薬確認数	3142	13,106	13,347
	処方支援・診療支援数	1,618	867	2,002
	薬剤師のレジメンチェックによる処方変更件数	1,034	375	932
無菌製剤処理料1、2	1の閉鎖式接続器具を使用した請求件数	211	113	238
	1の上記以外の請求件数	6,932	6,176	5,682
	2 請求件数	56	25	401
薬剤情報提供料	請求件数	659	447	475
外来化学療法加算	外来腫瘍化学療法診療料1(抗悪性腫瘍剤投与)	4,725	4,621	4,141
	連携充実加算 請求件数	0	0	22
外来患者服薬指導等	自己注射等指導件数	54	49	36
	サリドマイド及びその誘導体登録等指導件数	183	14	6
	上記以外	3,472	3,669	3,264
プレアボイド報告数		8	25	0

3) 認定薬剤師数 (令和5年7月1日現在)

- ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師 1名
- ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師 3名
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師 2名
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 2名
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師 5名
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士 1名
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 2名
- ・厚生労働省 日本DMAT登録 1名
- ・日本医療福祉検定協会 医療環境管理士 1名
- ・日本アンチ・ドーピング機構 スポーツファーマシスト3名

4) 学会・講演会発表

- ・荒神 一博 膝がんの薬物療法
薬剤師連携セミナーin 岩国 2023.5.23
- ・武良 卓哉 AE マネジメントにおける薬剤師の関わり
irAE management Seminar in Iwakuni 2023.5.26
- ・荒神 一博 当院における G-CSF 製剤の使用状況について(第7報)
G-CSF 講演会～発熱性好中球減少症について考える～ 2023.6.15
- ・荒神 一博 カペシタビンによる手足症候群発現に及ぼすプロトンポンプ阻害薬の影響について
第 61 回中国四国地区国立病院薬学研究会 2023.9.2
- ・武良 卓哉 がん化学療法のきほん
令和5年度山口県病院薬剤師研修会新人研修会 2023.9.3
- ・竹口 真央 TAZ/PIPC 投与における PT-INR 値に対する影響についての調査
第 77 回国立病院総合医学会 2023.10.21
- ・梶原 敬悟 高齢者における CKD ステージ G4~5 患者に対するアンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB)の適正使用調査
第 17 回日本腎臓病薬物療法学会 2023.10.28
- ・河田 武志 持続的血液濾過透析(CHDF)導入下での VCM における投与設計支援
第 17 回日本腎臓病薬物療法学会 2023.10.29
- ・佃 美穂 免疫チェックポイント阻害薬投与患者における好中球・リンパ球比及び血小板・リンパ球比と免疫関連有害事象発現の関連性調査
第 33 回日本医療薬学会 2023.11.3
- ・荒神 一博 カペシタビンによる手足症候群発現に及ぼすプロトンポンプ阻害薬の影響について
第 33 回日本医療薬学会 2023.11.4
- ・竹口 真央 TAZ/PIPC 投与における PT-INR 値に対する影響についての調査
第 33 回日本医療薬学会 2023.11.4
- ・小倉 千奈 化学療法センターでの薬剤師の関わり-連携充実加算の取り組み-
山口県病院薬剤師会学術講演会 2023.11.7

- ・小倉 千奈 吐き気をなくそう！CINV のマネジメントについて
 薬剤師連携セミナーin 岩国 2023.12.7
- ・荒神 一博 カペシタビンによる手足症候群発現に及ぼすプロトンポンプ阻害薬の影響について
 第 208 回山口県病院薬剤師会薬学研究会 2023.12.10
- ・荒神 一博 エンハーツの副作用モニタリング～当院の胃がん、乳がんの症例を通して～
 薬剤師連携セミナーin 岩国 2024.2.14
- ・武良 卓哉 irAE について
 岩国医療センターがん化学療法研修会 2024.3.1
- ・山本 将司 消化器内科病棟で経験した 3 症例の報告
 薬剤師連携セミナー in 岩国 2024.3.14

臨床検査科

<スタッフ>

臨床検査科長・・・木村 宣彦

臨床検査技師長・・・黒田 和彦

副臨床検査技師長・・・後藤 象悟、西村 武俊

主任臨床検査技師・・・6名

常勤臨床検査技師・・・16名、非常勤臨床検査技師・・・2名、事務・・・2名

<2023年度臨床検査科目標>

1. 品質システムの運用・維持・改善を行い顧客ニーズに合った質の高い臨床検査サービスを提供する。
2. 業務の標準化・効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスを向上させる。
3. コミュニケーションを密にし、意見のでやすい職場環境をつくる。
4. スキルマップによる教育状況の監視。

<臨床検査科紹介>

臨床検査科は臨床検査科長を頂点に、その直下の臨床検査技師長が主な運営のかじ取りを担い、副臨床検査技師長2名がその補佐を行っている。また、各分野の主任臨床検査技師が6名、常勤臨床検査技師16名、非常勤臨床検査技師2名、事務員2名の合計30名で構成されている。検査体制としては平日時間内のルーチン業務と時間外の緊急検査および緊急心臓カテーテル検査補助に365日、24時間の体制で検査を行っている。また、今年度は臨床検査技師等に関する法律施行令、臨床検査技師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の交付（令和3年）並びに臨床検査技師養成所指導ガイドラインが発出（令和3年）され、初めての臨地実習指導者の要件を満たした施設として山陽女子短期大学の臨地実習生を2名受入れ、指導を行った。

臨床検査科は病理診断科と連携し運営を行っており、組織図的には複雑ではあるが、良好なコミュニケーションにより、運営に支障はなく適正に管理されている。（病理診断科の紹介は別途）また、当院はISO 15189の認定取得病院で、検体検査、病理検査、生理検査（一部）のすべての分野の認定を受けており、臨床検査室の品質管理を十分な能力を持ったスタッフが適正に行っている。

<各種認定技師>

細胞検査士3名、認定輸血検査技師1名、超音波検査士4名（循環器4名、消化器1名）、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師1名、二級臨床検査士4名（血液学、病理学、生理、臨床化学、免疫血清学、微生物学）、緊急検査士5名、認定サイトメトリー技術者1名、有機溶剤作業主任者3名、特定化学物質取扱主任者2名が在籍し、日夜研鑽を行っている。

< 検査実績 (2023 年度) >

施設名: 岩国医療センター

2023年度 合計

	区分	院内検査件数				外部委託 検査件数 (別掲)		
		入院	外来	請求外件数	総件数			
件数統計	合計	1~8	801,866	1,172,731	12,124	1,986,721	26,441	
	検体検査	尿・便等検査	1A、1B	14,478	33,774	1,860	50,112	0
		髄液・精液等	1C、1Z	252	162	0	414	0
		血液学的検査	2A~2C・2Z	107,155	130,270	2,700	240,125	435
		生化学的検査	3A~3M・3Z	583,506	805,380	4,603	1,393,489	7,423
		内分泌学的検査	4A~4H・4Z	9,256	28,235	0	37,491	1,320
		免疫学的検査	5A~5K	65,543	151,014	2,538	219,095	15,980
		微生物学的検査	6A~6C・6Z	16,396	16,592	0	32,988	426
		病理組織検査	7B・7C・7D	4,301	3,751	423	8,475	51
		細胞診検査	7A	884	3,000	0	3,884	0
		機能検査	8A	95	553	0	648	0
		染色体検査	8B	0	0	0	0	273
		遺伝子検査	8C・8Z・7Z	0	0	0	0	533
生理機能検査	合計	9	臨床検査技師実施件数				技師以外 実施件数 (別掲)	出張件数 (再掲)
			入院	外来	請求外件数	総件数		
			5,393	20,466	473	26,332	13,188	32
	心電図検査等	9A	2,559	11,774	472	14,805	11,538	30
	脳波検査等	9B	462	843	0	1,305	0	2
	呼吸機能検査等	9C	430	3,942	0	4,372	0	0
	前庭・聴力機能検査等	9D	0	0	0	0	477	0
	眼科関連機能検査等	9E	0	0	0	0	0	0
	超音波検査等	9F	1,936	3,906	1	5,843	1,173	0
	その他	9I・9G・9Z	6	1	0	7	0	0
穿刺・採取料等	9J	418	175	0	593	0	0	
		総数	*****	*****	計上内容等			
MRI件数		0	臨床検査技師が実施したMRI件数					
内視鏡件数		0	臨床検査技師が介助した件数					
病理解剖件数	7Z	全身	6 脳解剖を含む病理解剖数					
		一部のみ	4 脳解剖を含まない、または脳解剖のみの病理解剖数。ただし、屍検は含まない。					
輸血管理部門の取扱い状況		*****						
入庫数	製剤数	5,513	入庫した血液製剤バッグ数					
出庫数	製剤数	5,476	輸血管理室から出庫した血液製剤バッグ数					
輸血済み血液製剤数	製剤数	5,353	輸血が実施された血液製剤バッグ数					
血液製剤廃棄率	%	0.40	自己血を除く血液製剤廃棄率 (年度通算)					
病理組織ブロック数	個	17,252	病理解剖を除くブロック数					
免疫染色枚数 (病理)	枚	3,819	のべ染色枚数(組織および細胞)					
特殊染色枚数 (病理)	枚	2,349	のべ染色枚数(組織および細胞)					
医療機器保守点検件数	件数	552	検査部門内外の医療機器点検件数					
各種チーム医療連携業務	件数	888.50	チーム医療連携業務の件数およびタスク・シフト/シェア業務の時間数					
各種指導・教室等実施状況	件数	0	DM教室、新人職員または臨地実習などのオリエンテーション					
治験取扱い患者人数	患者数	1,040	採血、生理機能検査、検体前処理等の回数に関係なく1患者1件					
臨床研究取扱い患者人数	患者数	84	院内の倫理委員会で承認された研究に関する扱い患者数					
実習・研修等受入れ状況	単位	132	計算式 = 受け入れ日数 (1日を8時間として) × 人数					
		入院	外来	総件数				
ルタ-心電図等解析件数	件数	241	549	790		ルタ-ECG・血圧計、PSG、SASなどの解析件数		
超音波検査等所見記載件数	件数	1,805	3,943	5,748		計測、解析や超音波検査や脳波検査などの所見を記載した件数		
小児・重心・筋ジス・精神患者検査件数	患者数	369	831	1,200		小児 (14歳以下)、重心・筋ジス・精神患者を検査した件数 (項目限定)		
検査説明・相談件数	件数	0	0	0		説明あるいは相談に5分以上を要した件数		
鼻腔ぬぐい液等検体採取件数	件数	0	0	0		臨床検査技師が採取した件数		
採血管準備患者数	患者数	24,669	4,597	29,266		検査部門で採血管準備した患者数。(職員健診分は除く)		
静脈採血患者数	患者数	0	1,376	1,376		検査技師が静脈採血した患者数。(職員健診や接触者健診分は除く)		

<2023 年度新規導入機器>

生理検査部門

2023 年 4 月 聴覚検査装置 AABR (ネイタスアルゴ 3i) 更新

2023 年 8 月 腹部超音波検査装置 (LOGIQ E10s) 更新

2023 年 9 月 心電計 2 台 (ECG-2450) 更新



ネイタスアルゴ 3i



LOGIQ E10s



ECG-2450

血液検査部門

2023 年 9 月 血液凝固線溶検査機器 2 台 (CN-6000) 課金方式にて更新



CN-6000

病理検査部門

2023年10月 顕微鏡 (BX-43) 更新

2024年3月 カセットプリンタ (MCP-L1) 寄付金にて新設

2024年3月 スライドプリンタ (ESPO) 寄付金にて新設

2024年3月 ラベルプリンター (ZD621T) 寄付金にて新設



MCP-L1



ESPO



ZD621T

<業績 (2023年度)>

学会発表・講演会

村本将太	検査前工程の見直しと工夫	国立病院臨床検査技師協会中国 四国支部 2023年病理分野研修 会	2023/5/27
------	--------------	---	-----------

黒田和彦	岩国医療センターの新人教育	令和 5 年度中国四国グループ内 医二・福祉職合同マネジメント研 修（臨床検査技師分科会）	2023/8/5
村本将太	膵管癌における Foamy gland pattern を示す細胞の 診断意義と細胞学的特徴	第 11 回国立病院臨床検査技師協 会 中国四国支部学会	2023/9/2
齋藤真奈美	腺癌様の細胞成分を伴う子宮 頸部乳頭状扁平上皮癌の一例	第 77 回国立病院総合医学会	2023/10/21
村本将太	穿刺吸引細胞診 症例検討 5、6	令和 5 年度中国四国グループ内 臨床検査技師実習技能研修Ⅲ （細胞診）	2023/11/25
瀧口淳子	検体検査に関わる精度保証 講演Ⅳ：施設紹介	令和 5 年度中国四国グループ内 臨床検査技師実習技能研修Ⅲ （検体）	2023/11/25
村本将太	細胞診コース講師	倉敷芸術科学大学 細胞診コース講師	2023/11/28
後藤象悟	実習 2：不規則抗体・交差適 合試験 検体解説	令和 5 年度中国四国グループ内 臨床検査技師実習技能研修 （輸血）	2023/12/16
村本将太	スライドカンファレンス 1 症例 4	第 22 回泌尿器細胞診（別府）カ ンファレンス・学術集会	2024/2/17

<2023 年度の取り組み>

2022 年 4 月に日本適合性認定協会の ISO 15189 認定を取得後、2023 年 2 月に第 1 回定期サーベイランスでの認定継続の承認を受けた。その後、1 年を通じ品質マネジメントの維持に努め、その状況を 2024 年 2 月に第 2 回定期サーベイランスを受審し、審査を受けた。その結果、不適合は 5 件であったが、速やかに是正処置に取り組み、2024 年 3 月中に是正処置報告を終え、2024 年 4 月に無事、認定継続が承認された。

（文責：黒田和彦）

放射線科 令和5年度年報

放射線科の紹介

放射線科は画像診断部門と放射線治療部門で構成され、診療放射線技師 23 名、事務助手 2 名が所属しています。画像診断部門では高度な診断機器を使用し有用な画像を提供し、放射線治療部門ではがん治療として根治的な治療から緩和を目的とした治療まで行っています、診療放射線技師においても認定資格取得など自己研鑽し日々技術を高めています

人員構成

診療放射線技師長 (1 名)
副診療放射線技師長 (2 名)
主任診療放射線技師 (6 名)
診療放射線技師 (14 名)
事務助手 (2 名)

主な保有機器

一般撮影装置 (4 台)
乳房撮影装置 (1 台)
透視撮影装置 (2 台)
CT 撮影装置 (80 列 1 台、320 列 1 台)
MRI 撮影装置 (1.5T1 台、3.0T1 台)
血管撮影装置 (バイプレーン 3 台、手術室ハイブリッド 1 台)
PET/CT 装置 (1 台)
SPECT 装置 (1 台)
骨密度測定装置 (1 台)
放射線治療装置 (1 台)

放射線関連有資格数

第一種放射線取扱主任者 (1 名)
衛生工学衛生管理者 (1 名)
放射線治療専門放射線技師 (2 名)
医学物理士 (1 名)
検診マンモグラフィ撮影認定技師 (2 名)
肺がん CT 検診認定技師 (1 名)
X 線 CT 認定技師 (3 名)
超音波検査士 (2 名)
医療情報技師 (4 名)

医用画像情報専門技師 (2名)

放射線管理士 (3名)

令和5年度放射線部門目標

1. 質の高い放射線医療の提供として画質を担保しつつ医療ひばく低減、医療安全対策の推進
2. ハラスメントのない快適な職場環境づくりとしてコミュニケーションの活性化
部署内でのチーム医療の推進
3. 地域医療への貢献として地域連携室との連携強化、地域研修会等への積極的参加
4. 働き方改革の推進、仕事の質・生産性の向上として年次休暇の取得推進
チーム医療、多職種連携による負担軽減

これら部門目標の下に医療被ばくの低減から線量管理、自己研鑽として専門資格の取得を推進し、より質の高い医療を提供いたします

2021年10月1日から施行された診療放射線技師法改正による業務拡大の研修を積極的に受講し、RI検査においては診療放射線技師が静脈路確保等の手技を行っています

更新に伴い9月から新DSA装置が稼働しています、今まで以上に、円滑な検査、画質向上、被ばく低減を実践しています。

業務実績(令和5年度)

総件数	一般撮影	乳房撮影	透視撮影	血管造影
91415	47608	938	977	1875

CT	MRI	RI	PET	放射線治療
24845	8466	450	674	4675

学術実績

- 2023/7/22 令和5年度 放射線治療専門放射線技師会認定試験対策講習会
「模擬試験 計算問題」 石脇 清史
- 2023/8/5 令和5年度 中国四国グループ内医二・福祉職共同マネジメント研修
「診療放射線技師の業務拡大におけるタスク・シフト/シェアについて」 大下 毅
- 2023/9/9 第43回 山口県放射線治療研究会
「乳房温存放射線治療の概要と当院での照射について」 石脇 清史
- 2023/11/18 第36回 ひろしま核医学技術検討会
「タスク・シフト/シェア」 木村 浩二
- 2023/11/27 第1回 岩国地域講習会
「画像等手術支援診療放射線技師認定試験について」 木村 浩二
「放射線測定器の点検・校正について」 八木 駿明
- 2023/12/14 令和5年度 診療放射線部門における新型コロナウイルス感染症対応セミナー
「CT部門におけるCOVID-19対応の変遷」 定岡 大祐

- 2024/1/20 第 39 回 広島県医療情報技師会
「JOIN 導入における当院の脳卒中治療のワークフローの改善」 一ノ瀬 拓実
- 2024/1/25 福島第一原発視察報告会
「福島第一原発の現状」 灘 尊則
- 2024/2/10 第 7 回 PACS Administrator セミナー
「HIS・RIS 管理」 一ノ瀬 拓実
- 2024/2/17 令和 5 年度 中国四国グループ内診療放射線技師スキルアップ研修
「IGRT ガイドライン 2022 について」 石脇 清史
- 2024/3/7 第 3 回 診療放射線技師のための医療安全研修会
「ポータブル業務におけるリスクとその低減法を振り返る」 竹内 紗羅

リハビリテーション科

リハビリテーション科医長 生田陽彦
理学療法士長 河野明彦
作業療法士長 川北妃呂恵

令和5年度はリハビリテーション科医師1名、理学療法士19名、作業療法士8名、言語聴覚士4名の合計31名体制で臨床業務にあたりました。

1. 当科の取り組み

1) 診療

当科は脳血管リハビリ I、廃用症候群リハビリ I、運動器リハビリ I、呼吸器リハビリ I、心大血管リハビリ I、がん患者リハビリの施設基準を取得しています。

処方については、様々な診療科から受けていますが、脳神経外科からが最も多く全体の23.4%、次いで循環器内科15.2%、整形外科13.5%、呼吸器内科13.0%、消化器内科7.0%、外科6.5%、心臓血管外科4.6%、胸部外科4.5%、内科4.0%、泌尿器科3.4%、救急科1.2%、小児科0.8%、その他耳鼻咽喉科、腎臓内科、肝臓内科、婦人科、皮膚科、形成外科からの処方に対してリハビリを実施しています。

リハビリ開始時期については、発症・手術直後からの早期離床に努め、心身の機能回復および廃用・合併症予防に取り組んでいます。医師に指示によっては手術前から介入することもあります。いずれの場合もリハビリテーション総合実施計画書を用いて丁寧に説明し同意を頂くようにしています。

診療にあたっては、療法士および対象者の手洗い・手指消毒、必要に応じた感染防護具の着用、入院患者と外来患者のゾーニング、使用場所・機器のこまめな消毒など、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して診療を継続しています。

その他、RSTやNST、認知症ケア委員会、緩和ケア委員会、褥瘡対策委員会などの院内活動にも積極的に参加し、チーム医療を実践しています。

2) 学術活動（学会発表）

第77回 国立病院総合医学会

- ・大腿骨骨幹部骨折による髄内釘術後の膝関節屈曲可動域に影響する要因
- ・脳卒中患者の足関節背屈機能に対するミラーセラピーの効果
- ・リズムコントロール不良の心房細動や感染症によって歩行時にバランス機能が低下した患者に対し、タオルギャザーが有効であった1例
- ・TMVを使用している神経筋疾患患者におけるMI-Eが呼吸メカニクスに与える効果
- ・『職場環境適応プログラム』の試行 ～転入者も働きやすい職場を目指して～
- ・左側頭葉脳出血により感覚性失語を呈した非右手利きの一症例
- ・出血性脳梗塞発症後に両側性に脳出血を繰り返し理学療法に難渋した一例

日本心臓リハビリテーション学会第9回中国支部地方会

- ・心房細動や感染症によって歩行時にバランス機能が低下した患者に対し、タオルギャザーが有効であった1例

第 33 回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会

・TMV を使用している神経筋疾患患者における MI-E が呼吸抵抗に与える効果

2. 部門紹介

1) 理学療法

理学療法とは病気、けが、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある方に対し、運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて行われる治療法です。理学療法の直接的な目的は運動機能の回復にあります。日常生活動作の改善を図り、最終的には QOL（生活の質）の向上を目標としています。

2) 作業療法

作業療法とは、作業（仕事・日課・遊び・休息等の人営むすべての活動）をできるようにすることで生活の充実を図るものです。対象は、身体、精神、発達、高齢期の障害や環境への不適応により、日々の作業に困難が生じている方で、当院では主に日常生活動作、高次脳機能障害、上肢の運動機能の向上を目的として実施しています。

3) 言語聴覚

言語聴覚療法はことばによるコミュニケーションや摂食・嚥下に問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援することです。当院では、摂食・嚥下の問題に対する処方が増加しており、他職種と共同で治療を提供しています。

3. 診療実績

		2021年度	2022年度	2023年度
脳血管 I	単位	30361	27031	25224
廃用症候群 I	単位	13830	14153	14915
運動器 I	単位	14977	17040	17206
心大血管 I	単位	13316	14389	13436
呼吸器 I	単位	12186	14081	16993
がん患者	単位	8500	5932	4817
初期加算	件	42260	42561	45025
早期加算	件	64261	65988	68077
摂食機能療法	件	2274	1904	1750
リハビリ総合実施計画評価料	件	4195	4352	4828
退院時リハビリ指導料	件	685	799	868

栄養管理室

栄養管理室長 別府 成人

(1)部門の紹介、特徴

患者様の様々な疾病に対し、安全かつ満足して頂ける食事を提供するために、新調理システムを導入しています。また病状等により嚥食率が低下している患者様に対し、患者訪問などにより迅速に対応し、栄養状態の改善に努めています。

チーム医療(NST や各種カンファレンス等)においては積極的に参加し、栄養管理の重要性を認め啓発活動を推進しています。食習慣の乱れ又は歪みによる生活習慣病等については、患者様の食習慣の是正に向けて、栄養食事指導等を実施しています。また転院等により他施設に行かれる患者様については食形態等栄養に関する情報を栄養情報提供書として作成し転院先の施設に情報提供を行っています。

《スタッフ (4月1日) 》

栄養管理室長 1名,栄養士 6名,調理師 2名,調理員 (非常勤) 6名

(2)年度の実績

			令和3年度	令和4年度	令和5年度
栄養食事指導件数	入院	加算	1824	1979	1825
		非加算	175	143	113
	外来	加算	441	450	493
		非加算	25	49	29
栄養サポートチーム件数		加算	343	164	165
栄養情報提供加算		加算	20	34	32
選択メニュー加算		加算	2969	3091	3509
実習生受け入れ人数			22	19	12

(3)祝膳

当院では、出産された患者様へお子さんの誕生のお祝いに「祝膳」を提供しています。四季にあわせて献立内容の検討をしています。

春 (3~5月)

提供数 57名 (令和5年度実績)



夏 (6~8月)

提供数 67名 (令和5年度実績)



部署名 5階西病棟(救命救急センター) 看護師長名 木戸優子

●はじめに

当病棟は、令和5年12月より救命救急入院料1を算定しており、救命救急センター病棟として24時間緊急入院患者の受け入れを行っている。

入院患者の疾患別では、循環器疾患、脳血管疾患、精神疾患が上位を占めているが、急性腹症や呼吸不全、多発外傷など様々な疾患にも対応するため、勉強会やOJTでの看護の知識・技術の向上に努めている。

●看護体制

- ・看護方式：パートナーシップ
- ・夜勤体制：3交替制
- ・有資格者：救急看護認定看護師1名 ICLSインストラクター1名
【院内認定】がん化学療法7名 消化器内視鏡1名 PET-CT 1名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均 在院日数	平均 入院患者数	重症度、 医療・看護必要度	手術件数	透析件数 (延べ件数)
2022 年度	46.6%	3.1日/人	12.4人/日	68.8% (一般Ⅱ)	172件	515件 (月42.9件)
2023 年度	51.2%	3.3日/人	11.4人/日	65.1% (一般Ⅱ) 32.6% (HCU)	219件	376件 (月31.3件)

●2023年度の活動、取り組み内容、成果

- 救命救急センターとして安心・安全な看護の提供を目指し、循環器看護・脳外科看護や救急看護認定看護師・ICLSインストラクターによる急変シミュレーション・フィジカルアセスメントの勉強会を行った。心嚢ドレナージや脳外科ドレーンの管理ができるようになり、急変対応への知識・技術が向上したことで急変前の異常の早期発見にも繋がった。
- インシデント発生後、スタッフ間でインシデント内容を共有し、マニュアルで手順を確認後、対応策を検討するよう取り組んだ。インシデント件数は、令和4年度163件、令和5年度は151件と約8%減少することができ、レベル3b事例の発生はなかった。また、チューブトラブルについて、「正しい抑制方法について」の勉強会を行った。抑制外れによるチューブ類の自己抜去が令和4年度は8件発生していたが令和5年度は4件に減少し、皮膚トラブルも減少した。
- 患者・家族に寄り添う看護が出来るよう、約2か月に1回倫理カンファレンスを行い倫理的課題について検討した。日々の看護の中でジレンマに感じることをスタッフ間で話し合う機会が増えた。また、意思決定支援の必要な患者・家族には、医師・看護師・医療メディエーターなど多職種で関わり支援を行うことができた。

●院内研究発表

上村奈々：救急医療に勤務する新人看護師の成長に影響を及ぼす関わりーストレスとワーク・モチベーションに着目してー

●はじめに

循環器内科・心臓血管外科の混合病棟であり、心筋梗塞・狭心症・心不全・不整脈・弁膜症・胸腹部大動脈瘤などの疾患を対象に急性期から回復期までの患者が入院している。循環器疾患は生活習慣との関わりが深いため、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、栄養士、臨床心理士、MSW でチームカンファレンスを行いながら退院に向けて指導を行っている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®](パートナーシップ・ナーシングシステム)
- ・勤務体制：2 交替制(4 人夜勤)
- ・有資格者：心不全療養指導士 1 名、院内認定 なし

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2022 年度	90.7%	14.6%	40.3 人	31.8%
2023 年度	91.9%	14.8 日	40.9 人	33.1%

その他

	心臓血管外科手術	カテーテル心筋焼灼術	経皮的冠動脈形成術
2022 年度	244 件	153 件	71 件
2023 年度	236 件	218 件	82 件
	心臓カテーテル検査	ペースメーカー植込み術	
2022 年度	154 件	71 件	
2023 年度	131 件	40 件	

●2023 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 緊急カテーテル検査治療介助看護師を新たに 6 名育成した。
2. 急変対応能力の向上のため、急変時シミュレーションを 2 回/年実施した。計 23 名の看護師が参加し急変の発見から蘇生処置、ICU 入室を想定した対応を身につけることができた。
3. 心不全患者 159 名に対し多職種が参加する心不全カンファレンスを 430 件実施した。心不全療養指導士の資格を 1 名が取得した。
4. 退院指導の充実のため、透析シャント造設・緊急 PCI・心臓血管外科手術後・ペースメーカー植込み後の患者にむけた退院時パンフレットを新たに作成し使用した。
5. 転倒・転落インシデントは 61 件(3b 事例 1 件)であった。看護師の経験年数により転倒・転落対策に相違がないよう転倒転落予防策のフローチャートを作成した。また、カテーテル検査・治療後に必要な安静について、患者の理解・協力が得られるように患者説明札を修正し使用を徹底した。
6. 倫理カンファレンスを 3 回/年実施した。病棟スタッフだけでなく、多職種を交え意見交換を行うことで、日頃の看護の振り返りや倫理的感性の醸成に役立った。
7. 看護補助者との協働について、日勤看護助手や看護クランク、夜間看護補助者とのカンファレンスを行った。夜間の患者見守り業務やおむつなどの物品補充の業務を依頼し、夜勤看護師の業務負担の軽減につながった。

●2023 年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

産婦人科 14 床・小児科 22 床、NICU6 床を有する混合病棟である。令和 6 年 2 月より有料個室を 5 床増床し運用を開始した。24 時間体制で機能する地域周産期母子医療センターとしての役割を担っており、他施設からのハイリスク妊産婦の受け入れも行っている。NICU では、在胎 32 週以降の早産児や近隣の開業医からの新生児搬送にも対応している。また、小児は、15 歳未満のあらゆる診療科の患者を受け入れており、感染症他急性疾患だけでなく、慢性疾患を持ち長期入院している患者と母親にやさしい看護が提供できるように取り組んでいる。

●看護体制

- ・看護方式：PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：3 交替制（6 西 4 人夜勤 NICU 2 人夜勤）
- ・有資格者 アドバンス助産師 3 名・NCPR インストラクター 2 名・NCPR 資格取得者 27 名

【院内認定】がん化学療法 12 名 消化器内視鏡 1 名

●部署運営状況（2023 年度）

部署	病床稼働率(%)	平均在院日数(日)	平均患者数(人)	救急入院率(%)
6 西	69.3	6.5	18.5	70.9
NICU	57.7	10.7	3.2	26.4

- ・その他、各部署の特徴的なデータ
手術件数 297 件 分娩件数 256 件（うち帝王切開 77 件）
1 日平均新生児数 2.7 名 2500g 以下の出生児 34 名
新生児搬送受け入れ件数 20 件

●2023 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 令和 5 年 5 月より新型コロナウイルス感染症分類が 5 類へと変更され、これまで制限していた分娩時の面会が再開された。院内 ICT と連携し、マニュアルを改訂するとともに、妊婦が安心して分娩できるよう取り組んだ。また、ハイリスク妊産婦に対して、外来、産科チームと NICU が毎週カンファレンスを行い情報共有し、退院後も安心して育児ができるよう継続看護を実践している。
2. 小児では、倫理的課題について、看護だけでなく多職種とカンファレンスや勉強会を実施し、ご両親や子どもにとって最善の看護実践ができるよう努めた。また、看護研究を通して、より安全で確実な小児の点滴固定方法を考案した。新たな固定方法を導入し、より安全な看護が提供できるよう業務改善を図った。

●学会・研究発表（2023 年度）

1	超緊急帝王切開に対応するための学習方法の検討	澤原菜由	第 77 回国立病院機構総合医学会	10 月
2	勤務予定作成表が看護管理能力に及ぼす影響 — 副看護師長が勤務予定表作成を経験して—	橋本さつき	第 21 回 国立病院看護研究学会 学術集会	12 月
3	小児患児の点滴固定方法の検討 — 刺入部の観察が容易な固定方法の安全性と有用性について—	柏村佳菜	院内看護研究発表会	2 月
4	緊急入院受け入れチェックリストの作成とその効果 — 刺入部の観察が容易な固定方法の安全性と有用性について—	田中里紗	院内看護研究発表会	2 月
5	緊急入院受け入れチェックリストの作成とその効果 — 夜間超緊急帝王切開を想定したシミュレーションを実施して—	田中里紗	第 15 回 新生児看護研究発表会	3 月

●はじめに

当病棟の主な診療科は、消化器内科、肝臓内科である。消化器内科では、上下部消化管内視鏡検査、超音波内視鏡検査、化学療法を行っている。肝臓内科では、肝動脈塞栓術、経皮的ラジオ波焼灼療法を行っている。抗がん剤投与中は、院内認定がん化学療法看護師が患者の全身状態や薬の副作用等の観察を行い、安全に治療が受けられるように看護している。また、患者の生活の視点を重視し、多職種と連携をとりながら患者が早期に臨む場所に退院できるよう支援している。

●看護体制

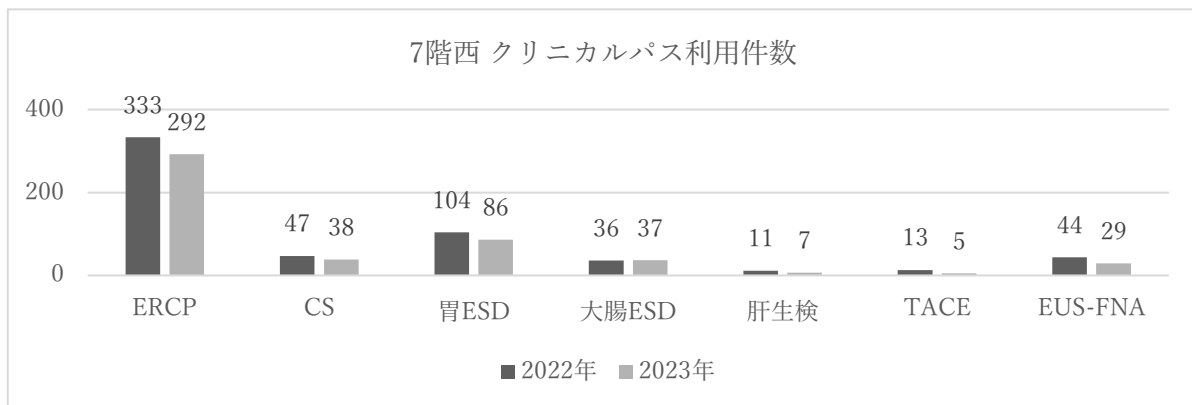
- ・看護方式：PNS®（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：2交替制（3人夜勤）
- ・有資格者：ICLS 4名

【院内認定】がん化学療法 14名、消化器内視鏡 3名、

●部署運営状況：病床数 46床

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2022年度	90.8%	13.1日	38.4人	29.0%
2023年度	92.5%	12.3日	38.9人	30.1%

・その他 クリニカルパス利用件数



●2023 度の活動、取り組み内容、成果

1. 入院時から退院に向けた多職種カンファレンスを毎週開催し、多職種で退院時のゴールを確認した。今年度、退院時パンフレットを用いた患者指導実施率は 94.9%であった。退院時に在宅支援が必要な患者には、患者・家族へ指導を行い、外来へ情報提供を行うことで継続看護に繋げることができた。
2. 患者・家族の意思決定支援を強化するために、インフォームドコンセントへの同席基準を設けた。インフォームドコンセントの際には、看護師へ連絡をしてもらうように医師にも働きかけた。その結果、インフォームドコンセントにはほぼ全例同席できた。（年間同席件数 150件）インフォームドコンセントの内容を看護師間で情報共有し、看護計画を立案し支援している。引き続き、患者・家族の意思を尊重し最善の医療、看護が提供できるように取り組んでいく。

●2023 年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

当病棟は、消化器外科・外科・泌尿器科の周手術期、化学療法を行う患者が主に入院している。特に高齢患者は、入院して治療を受けることで生活スタイルの変化を余儀なくされることがある。これらの変化を最小限にできるように、入院時からリハビリスタッフや認知症看護認定看護師等と連携し、看護を行っている。また、ストーマ管理や尿道カテーテルの管理等の医療処置が必要となる患者が、安心して退院後の生活に戻ることができるように、入院時より医師やリハビリスタッフ、栄養士、MSW や皮膚排泄ケア認定看護師等とカンファレンスを行い、早期に問題解決ができるように取り組んでいる。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：3 交替制（4 人夜勤）
- ・有資格者：中国ストーマリハビリテーション講習会終了者 4 名
 がんのリハビリテーション研修受講者 1 名
 BLS・ACLS のインストラクターの資格者 1 名
 【院内認定】がん化学療法 18 名 消化器内視鏡 13 名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度・医療看護必要度
2022 年度	95.20%	10.4 日	39.8 人	41.50%
2023 年度	97.90%	9.8 日	40.8 人	40.50%

手術件数

	外科・消化器外科	泌尿器科
2022 年度	614 件	531 件
2023 年度	682 件	488 件

●2023 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 泌尿器科の医療者用クリニカルパスと患者用クリニカルパスの見直しを行い、追加・修正を行った。また、クリニカルパスを使用する上で記入漏れを防ぐため、定期的に監査を行い記入漏れのチェックをして記入漏れを 0 件にすることができた。
2. ストーマ指導については、ストーマリハビリテーション研修会に 2 名が参加し、ストーママーキングのできるスタッフを増やせた。また、WOC 看護師による勉強会を実施してストーマ管理指導の充実を図った。
3. 術後の早期離床をすすめる上で重要となる転倒転落防止のための取り組みとして、転倒転落アセスメント評価を確実にできるよう周知・徹底を行った。その結果、アセスメント評価の入力はほぼできるようになった。しかし、転倒件数は 40 件と昨年度より 20 件増加した。今後も、転倒・転落防止のためのアセスメントと対策を充実させていく必要がある。
4. 術後の循環動態悪化に伴う急変に対応できるよう、副看護師長が中心となって循環動態の変化と急変時対応についての勉強会を実施した。経験年数 5 年目未満の看護師を対象とし、12 名全員が参加できた。今回は、資料での勉強会であったため、今後はシミュレーション研修を実施していく。

●2023 年度 学会・研究発表

ロボット支援下前立腺全摘除術後の排便時の姿勢の工夫－足台を用いた前屈姿勢の効果について－	瀧野 祐一	第 77 回国立病院総合医学会	10 月
--	-------	-----------------	------

●はじめに

8階西病棟は、脳神経外科病棟である。脳血管障害、頭部外傷、硬膜下血種、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患などに対して、カテーテル治療・クリッピング手術等の外科的治療や、脳腫瘍に対する化学療法・放射線治療を行っている。入院早期より、患者家族が希望する生活の場への退院を見据えて、コメディカル・地域医療連携室と共に定期カンファレンスを行い、患者・家族に安心安全な看護の提供に努めている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®](パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・勤務体制：2交替制(4人夜勤)
- ・有資格者：救急医学会認定 ICLS インストラクター1名

【院内認定】がん化学療法 11名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2022年度	92.7%	24.9日	44.1人	23.1%
2023年度	91.9%	24.5日	43.7人	24.1%

●その他、各部署の特徴的なデータ

	手術件数	血管内手術件数	脳血管造影検査件数
2022年度	272	101	110
2023年度	283	110	137

●2023年度の活動、取り組み内容、成果

- 1.前年度に比べ、病床稼働率と平均入院患者数は下回った。しかし、前年度より手術件数は5%増加、脳血管造影検査は24.5%増加し、「重症度、医療・看護必要度」の適合率も1%増加した。また、カンファレンス等の多職種連携により、患者家族が希望する生活の場に退院促進でき、平均在院日数もわずかであるが短縮した。
- 2.新型コロナウイルス感染症が第5類となり、面会制限等が緩和された。当病棟では、疾患による後遺症などから退院に向けて家族の協力が必要なため、全症例で院内の規制に則った面会を許可した。職員は、持ち込み感染を防ぐため、自身と面会者の健康確認や感染防具を正しく取り扱う等、病院が定めた感染防止行動を適切に実施した。夜間看護補助者が、病棟内を徹底して清掃した効果もあり、5月以降の病棟内の新規発症は1事例の3名のみであった。
- 3.職員がやりがいを感じ働き続けたいと思えるように、プライベートと仕事を両立できる勤務を作成するなど、個々の希望に応じて支援した。また、今年度はPNS[®]の推進に取り組んだ。パートナー間で意見交換することで患者に適した支援について考えることができ、他職種と連携し患者・家族に安心安全な看護の提供に繋がった。

●2023年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

循環器・脳卒中センターとして、循環器系疾患・脳血管疾患を主に、糖尿病・消化器疾患等の患者の受け入れも行っている。主な疾患は、脳梗塞・心不全・心筋梗塞・狭心症・閉塞性動脈硬化症・電解質異常などである。疾患の特性からADLに支障がある患者や入退院を繰り返す患者が多い。高齢者や認知機能が低下した患者の割合も増加しており、転院や施設への入所を希望するケースが多く、他職種との連携を図り退院後の生活を見据えた支援を行っている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：2交替制（3人夜勤）
- ・有資格者：認知症看護認定看護師 1名　心不全療養指導士 1名
【院内認定】がん化学療法 7名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2022年度	95.4%	13.1日	40.2人	26.4%
2023年度	92.2%	13.7日	38.9人	25.2%

・その他

	心臓カテーテル検査	末梢血管形成術	カテーテル心筋焼灼術	
2022年度	176件	89件	106件	
2023年度	169件	91件	43件	
	ペースメーカー植え込み術	経皮的冠動脈形成術	上部内視鏡	下部内視鏡
2022年度	31件	42件	122件	63件
2023年度	25件	46件	100件	43件

●2023年度の活動、取り組み内容、成果

1. 心不全患者の退院支援について検討する多職種カンファレンスを開始した。担当看護師により生活指導を行い、心不全パンフレット使用件数は26名から89名に増加し、外来への継続看護は61名実施することができた。
2. インシデント発生時には朝のミーティング、リシャッフルを活用し全員で対策を検討し、インシデント報告件数226件から175件に減少した。転倒転落については離床センサー使用時に必ず緩衝マットが使用できるように緩衝マットの整備を行い、スタッフの意識づけができた。転倒転落は年間59件あり、そのうち3b事例は前期3件から後期0件と減少した。
3. 日々のPNS体制を強化した。ペアの組み方やリシャッフルの方法について検討し、2つのペアで補完しあうことができるように業務改善を行った。また、残務表を新しく作成し運用を開始した。超過勤務は減少していないため、今後も業務改善の方法をスタッフと検討してお互い協力できるような体制づくりを行っていく。

●2023年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

当病棟は整形外科・形成外科・皮膚科の混合病棟である。手術を受ける患者が多く、周手術期の異常の早期発見と苦痛の緩和に努めている。また、手術件数が年々増加する中で安心安全な療養生活を送れ、患者の望む生活の場に早期に戻れるように、日々、多職種で連携を取りながらケアを行っている。

リハビリや継続治療のために転院する大腿骨頸部・転子部骨折の患者には「大腿骨頸部・転子部骨折地域連携パス」を使用し、継続したケアが提供できるように地域の回復期病院と連携している。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・勤務体制：2交替制(3人夜勤)
- ・有資格者 【院内認定】がん化学療法 3名 消化器内視鏡 2名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2022年度	96.6%	23.6日	44.6人	34.8%
2023年度	99.9%	21.9日	45.8人	39.1%

・手術件数

	整形外科	形成外科	皮膚科	合計
2022年度	788件	63件	15件	866件
2023年度	810件	113件	29件	952件

・大腿骨頸部・転子部骨折
地域連携パス適応件数

2022年度	85件
2023年度	110件

●2023年度の活動、取り組み内容、成果

1. 患者のリスクを予見した看護の提供を目指し、ドレーンやルート類のトラブル防止に取り組んだ。毎日のリシャッフル時に不要な点滴ルートやバルンカテーテルが挿入されていないか検討した。患者の状態をアセスメントし、医師に患者の状態を報告することで不必要なルート類を抜去することができた。バルンカテーテルの自己抜去件数が2022年度は4件発生したが2023年度は2件に減少し、患者の早期離床にも繋がった。
2. 超過勤務を縮減させるため、リシャッフルの定着に取り組んだ。リシャッフルの機能や方法についてスタッフへ周知した。リーダーが午後からの早い時間帯に業務の進行状況や残務内容確認し、業務調整を行うようになった。その結果、2022年度の超過勤務時間は一人平均18.5時間/月であったが、2023年度は一人平均13.8時間/月と4.7時間/月の超過勤務時間を縮減することができた。

●2023年度 学会・研究発表

なし

●はじめに

主に耳鼻咽喉科・眼科・婦人科・呼吸器内科の患者を受け入れており、手術療法・化学療法・放射線療法についての看護を実践している。

耳鼻咽喉科：頭頸部がん・下咽頭がん・舌がん・耳下腺がん・甲状腺腫瘍・顔面神経麻痺・中耳炎・慢性副鼻腔炎・扁桃周囲膿瘍・扁桃腺炎・声帯ポリープ・突発性難聴など

呼吸器内科：肺がん・細菌性肺炎・間質性肺炎・誤嚥性肺炎など

婦人科：子宮・卵巣悪性腫瘍・子宮脱・子宮筋腫・卵巣嚢腫など

眼科：白内障手術 2泊3日パス入院

●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・勤務体制：2交替制(3人夜勤)
- ・有資格者：【院内認定】 がん化学療法 14名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度・医療看護必要度
2022年度	90.9%	14.1日	42.0名	25.5%
2023年度	87.7%	13.8日	40.4名	26.4%

●手術件数

	耳鼻咽喉科	眼科	婦人科	合計
2022年度	265件	144件	54件	463件
2023年度	254件	96件	41件	391件

●2023年度の活動、取り組み内容、成果

1. 退院支援では、退院時に自宅で行う医療行為や看護ケアについての家族指導を受け持ち看護師が主体となり実践した。自宅退院を希望された患者や家族の思いに寄り添いながら、在宅医療に必要な支援を訪問看護師やケアマネージャーと共同で行うことによって、受け持ち看護師の役割りの強化を図ることができた。
2. 認知症患者の看護について、勉強会を2回実施した。認知症患者のケアについて共通の理解ができ、身体拘束解除に向けた関りを行うことができた。対応困難時には認知症ケア認定看護師に相談し、対応方法や睡眠薬の調整などのアドバイスをもらい看護ケアに活かすことができた。認知症ケアを充実させることで身体拘束実施患者を前期46名から後期は15名に減少させることができた。
3. 1～2年目看護師主体の学習会を毎月開催し、病棟の専門である耳鼻咽喉科・眼科・婦人科の手術前後の看護について、2年目看護師がクリニカルコーチに指導内容の確認を受けた後、1年目看護師に伝達する方法で実施した。また、1年目看護師の個人の性格や精神的側面や技術的側面を把握しながら個別性に合わせた指導内容を整えると共に、新人育成教育体制と病棟教育プログラムに沿って支援を行うことができた。

●2023年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

当病棟は、呼吸器センターとして呼吸器内科・胸部外科の患者を受け入れており、肺がんや肺炎・慢性閉塞性肺疾患などの検査や診断、内科的治療、外科的治療を実施している。入院患者に安心・安全な看護を提供することができるよう、疾患や治療・看護に関する勉強会の実施や日々のカンファレンスを行いながらスタッフ教育を実施している。また、各診療科のカンファレンスを通して多職種と連携し、入院患者やその家族の希望に沿った退院支援を実施できるよう病棟全体で取り組んでいる。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：2 交替制（3 人夜勤）
- ・有資格者：【院内認定】がん化学療法 14 名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度、医療・看護必要度
2022 年度	87.8%	13.9 日	40.7 人	24.9%
2023 年度	91.1%	14.2 日	42.3 人	24.6%

- ・その他、各部署の特徴的なデータ

	手術件数	化学療法(注射) 件数	気管支鏡件数	インシデント件数
2022 年度	213 件	543 件	177 件	134 件
2023 年度	154 件	452 件	218 件	129 件

●2023 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 当病棟では化学療法を受ける患者が最も多く、昨年度は年間 452 件であった。化学療法を受ける患者が安全な治療を受けることができるよう、院内認定がん化学療法看護師の育成と、がん看護に関する研修への参加を促進した。2023 年度は院内認定がん化学療法看護師に 2 名のスタッフが合格し、院内がん看護研修では基礎編 1 名、応用編 1 名が合格した。院外のがん看護研修へ 1 名のスタッフが参加し、病棟内での伝達講習を実施し、がん患者の看護の質を維持・向上することができた。
2. 化学療法実施中の異常の早期発見に努めるため、心電図モニターの使用状況を可視化するツールを作成した。日々のリーダーが中心となり、化学療法を受ける患者全員に対する心電図モニターの装着を行い、異常の早期発見につなげることができた。
3. 看護師長・副看護師長・クリニカルコーチが中心となり新人看護師への支援状況を定期的に確認し、支援方針を検討した。新人看護師それぞれに合わせた技術面・精神面の支援を展開することで、病棟全体での新人看護師へのフォロー体制が充実し、離職者を出すことなく働き続けることができた。

●2022 年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

10 階東病棟は、COVID-19 病床から 5 月 19 日に緩和ケア病棟再開となり、がんによる苦痛症状の緩和に対する治療およびケアを目的に実践している。

多くの診療科との調整をし、患者とその家族が安全・安心・安楽に療養生活を送ることができるような支援を行う。常に患者と家族とのコミュニケーションを図りながら、その意向を確認し、緩和ケアが 24 時間継続して提供されるような業務を調整し実施している。また、緩和ケア外来を併設し、診療が円滑に行えるように調整を行い、他院、在宅からの紹介患者の受け入れを行っている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
- ・勤務体制：3 交替制（2 人夜勤）
- ・有資格者：緩和ケア認定看護師 2 名 感染管理認定看護師 1 名 ICLS 研修受講者 13 名
ELNEC 研修受講者 9 名

【院内認定】がん化学療法 12 名 消化器内視鏡 2 名

●2023 年度 部署運営状況（2023 年 5 月 19 日受け入れ開始）

病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	重症度・医療看護必要度
49.1%	24.6 日	11.3 名	31.4%

●2023 年度 緩和ケアセンター入棟者数

	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
院内紹介	5	13	10	13	9	12	15	19	8	12	15	131
再入棟	0	0	0	0	1	3	1	2	4	0	2	13
院外紹介	1	3	2	4	1	1	1	0	3	0	3	19
合 計	6	16	12	17	11	16	17	21	15	12	20	163

●2023 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 緩和ケアの知識向上を図るために、緩和ケア病棟再開により緩和ケア病棟の経験がない看護師を対象に、病棟医・専門看護師・緩和ケア認定看護師の勉強会を 18 回行った。後期には、スタッフへアンケートを実施し、自分達のわからないことについて自発的に勉強会を実施した。また、日々のオピオイド疼痛カンファレンスにて、患者の疼痛アセスメントの報告と苦痛スクリーニングの入力、看護計画の追加と修正をおこなったことで、患者に早期から専門的な緩和ケアが提供出来ている。
2. 病院経営への積極的貢献では、緩和ケア病棟再開にともない、病棟環境を整え、業務基準と緩和ケアマニュアルの確認と修正をおこなった。病床利用率は、3 月病棟閉鎖前 66.7%、再開後 56.2%と閉鎖前の稼働状況に近づき、院外紹介は病棟閉鎖前 19 件、再開後 31 件と増えている。また、6 月より緩和ケア疼痛評価加算の取得を行うために、フローを作成しスタッフと入力方法を共有した。
3. 看護師の教育について、院外の研修と学会に参加し、実習指導者講習会に 1 名、がん看護専門分野研修に 2 名、ELNEC-J 研修に 3 名が受講した。専門的な緩和ケア能力の向上に努めた。

●2023 年度学会、研究発表

研究発表なし

部署名 ICU

看護師長名 近藤 祐子

●はじめに

ICUは、NICU対象患者以外の全ての呼吸・循環・代謝・その他の重篤な急性臓器機能不全患者、またはそれに至る可能性の高い患者（術後患者等）を受け入れている。幅広い分野での知識・技術が必要となるため、クリティカルケア認定看護師、救急看護認定看護師と共に、患者の状態変化時の早期対応や患者・家族の精神的サポートに努めている。また、多職種と連携を図り、早期回復を目指した看護の提供を心がけている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップナーシングシステム)
- ・勤務体制：3交替制(5人夜勤)
- ・有資格者：クリティカルケア認定看護師2名 救急看護認定看護師1名 呼吸療法認定士5名
集中治療認証看護師（ICRN）2名
【院内認定】 がん化学療法 4名 消化器内視鏡 2名

●部署運営状況

	病床稼働率	平均在院日数	平均入院患者数	ICU入室患者数	リカバリー患者数
2022年度	72.8%	11.5日	7.2名	2613名	405名
2023年度	70.0%	10.9日	6.9名	2529名	393名

●2023年度の活動、取り組み内容、成果

1. 1年目から4年目までの看護師に担当のクリニカルコーチを配置し、目標を設定して支援を行った。毎月、看護師長・副看護師長・クリニカルコーチで目標達成状況について情報共有し、看護師個々に合わせた指導計画に反映させた。シミュレーション研修を計画的に実施することで、1年目看護師は入院受け入れや術後患者を受け持つことができるようになり、6月から深夜勤務を導入することができた。2年目看護師が主体となり心筋梗塞や脳梗塞、心不全などの勉強会を行うことで2年目看護師自身の学習効率が上昇し、個別性のある看護に繋げることができた。3～4年目看護師についても日々のペア間での情報共有の際に患者の病態をアセスメントし、自ら先輩看護師に情報発信するようになってきた。
2. 倫理カンファレンスを3回/年実施し、倫理的問題について意見交換を行った。ICU入室時に、受け持ち看護師が患者本人や家族にオリエンテーションを行う際に倫理的問題がないか考えるようになった。状態が不安定な患者や家族支援等が必要な患者家族に対して、受け持ち看護師が積極的にカンファレンスを実施し、チーム内で対応策を立案し関わるようになった。
3. 働きがいのある職場、働き続けられる職場をつくるために、毎月の病棟相談会で業務について検討し見直しを行った。勤務交代時の申し送り内容について見直しを行い、申し送り事項を定めた。リーダーからの申し送り時間を20分から10分に短縮させることができ、短時間ではあるがベッドサイドに行く時間が早くなり、ベッドサイドで看護する時間の確保に繋がった。

●2023年度 学会・研究発表

【院内看護研究発表】

テーマ：当院における高流量鼻カヌラ酸素療法フローチャート作成 —使用例を用いた症例検討—
発表者：辻佳菜子

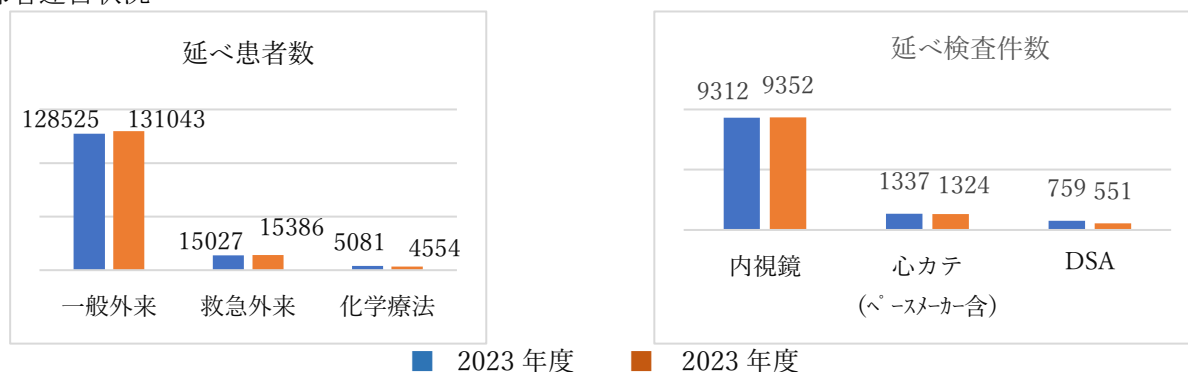
●はじめに

当院の外来は総合病院として様々な診療科の診療と、外来化学療法、入院及び外来患者の血管撮影・血管内治療、内視鏡検査・治療を担当している。一日平均 541.5 名の患者が受診し、中央処置室では一日平均 170 名の患者の採血、注射、点滴、輸血、検査を実施している。また、当院は高度急性期医療、救急医療を担う役割があり、救急外来では 1 次～3 次の救急患者を 1 日平均 42 名、24 時間受け入れている。患者・家族との関わりは一般外来、救急外来ともに短時間ではあるが、倫理的配慮と信頼関係を大切にして、より安全で安心できる看護を心がけている。

●看護体制

- ・看護方式：PNS[®]（パートナーシップ・ナーシング・システム）
 - ・勤務体制：3 交替制（救急外来）
 - ・有資格者：クリティカルケア認定看護師 1 名 がん化学療法看護認定看護師 1 名
- 【院内認定】
- PET-CT 看護 24 名 がん化学療法 18 名 内視鏡看護 20 名

●部署運営状況



●2023 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 外来待ち時間調査を 2 回/年(7 月・2 月)実施した。ブロック到着から診察開始まで平均 51.6 分(1 回目)であったが、予約時間前に早く来院し過ぎないようにアナウンスを続けるなどの取り組みを行い、平均 37.8 分(2 回目)まで短縮できた。また、待ち時間の過ごし方について、食事の案内や他科受診を調整するなどの配慮を行いながら現在も取り組みを継続している。
2. 患者・患者家族が不安の無い納得した医療が受けられるように日々行われる IC を毎日報告し、意識的に同席し意思決定支援を行えるように取り組んだ。月平均 75.2 件の同席を行い、不安の軽減や意思決定のための支援を行うことができた。
3. 各診療科の業務整理を行い、対応可能な診療科を増やことで補完業務がスムーズに行えるように取り組んだ。また、救急外来業務チェックリスト内容などの見直しを行い、これまで配置していなかったスタッフを計画的に配置してスタッフの育成に取り組んだ。結果、休憩交代の調整を日々のリーダー間がスムーズに実施することが出来るようになった。また IC 同席のための業務調整や協力を行えるようになった。
4. 外来から入院、自宅療養がスムーズに行えるように外来での患者の状態や様子、アセスメントなど積極的に記録して病棟と情報共有が行えるように取り組んだ。月平均 90 件の連携記録を実施し情報共有を行って連携をとることができた。

●2023 年度 学会・研究発表

研究発表なし

●はじめに

手術室は、外科、心臓血管外科、脳神経外科、胸部外科、整形外科、耳鼻科、泌尿器科、小児外科、形成外科、眼科、皮膚科の手術を年間約 4000 件行い、ハイブリット手術室を使用した手術や、手術支援ロボットを使用した最先端の手術を行っている。岩国医療圏唯一の 3 次救急医療機関として 24 時間緊急手術に対応できる体制をとっている。患者が安心して安全な手術を受けることができるように日々の手術看護を行っている。

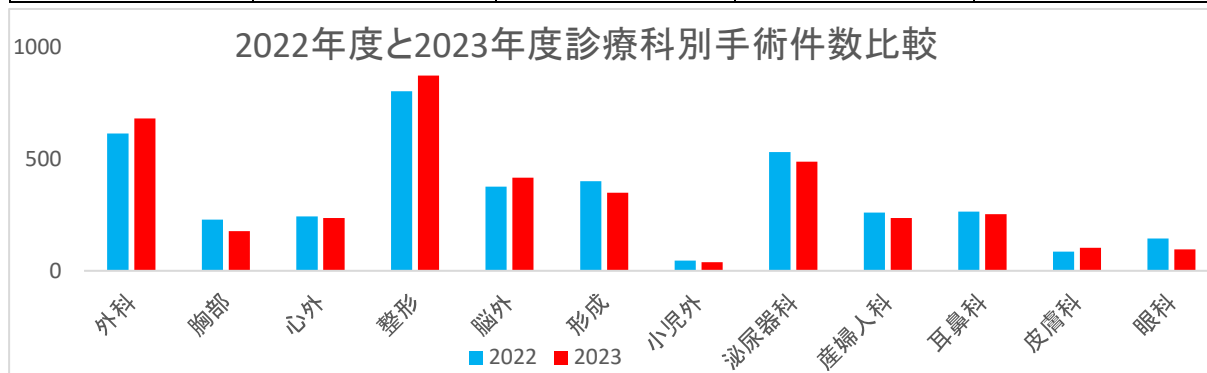
●看護体制

- ・看護方式：PNS®(パートナーシップ・ナーシング・システム)
- ・待機体制：平日 22 時～8 時 30 分 待機当番看護師 2 名
 土日祝日 8 時 30 分～20 時 30 分、20 時 30 分～8 時 30 分 待機当番看護師 2 名
- ・有資格者：集中ケア認定看護師 1 名、呼吸療法認定士 1 名、NST 専門療法士 1 名
 【院内認定】がん化学療法 1 名

●部署運営状況

年間手術件数

	手術件数	予定手術件数	緊急手術件数	全身麻酔件数
2022 年度	4000	2276	1724	2719
2023 年度	3953	2343	1610	2800



●2023 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 2023 年度は 3953 件の手術を実施できた。昨年度より、47 件減少したが、予定、緊急手術ともに手術申し込みのあった症例は断ることなく、全例手術を実施できた。手術室運営を効率よく行うため、診療科ごとに手術待機週数の集計を開始した。
2. 危機的出血時のシミュレーションを胸部外科手術想定で行った。胸部外科医師、心臓血管外科医師、麻酔科医師、臨床工学技士、看護師が参加し、シミュレーション後は多職種で振り返りを行い、今後の課題が明確になり、対応を協議した。
3. 看護学生の手術室実習の方法を看護学校と協議し、改定を行った。受け持ち患者の手術を見学する実習から、1 日の手術室実習に変更し、手術室看護を学ぶ実習とした。患者確認の目的と方法、直接介助と間接介助の看護師の役割、術前術後訪問の目的などを学べる内容に改定した。学生からは手術室看護師の役割が理解できた等の意見を聴くことができた。

●2023 年度 学会・研究発表

手術室で生じる患者の不利益と要因調査 —手術室看護師と病棟看護師に係る場面より—	田村 愛実	第 23 回山口県 看護研究学会発表	3 月
---	-------	-----------------------	-----

●はじめに

地域医療連携室は、地域医療の中核を担う医療機関の連携窓口として 1. 地域の診療所・病院との医療連携業務、2. 患者や家族、関係機関からの相談支援業務をおこなっている。医療連携業務は、当院への受診や入院する際の予約や受け入れ調整、他機関との紹介に関する連携調整などをおこなっている。相談支援業務は、医療社会事業専門員、退院調整看護師が、当院で治療を受けた患者が社会復帰していく中でおこる様々な生活の課題（医療面だけではなく、生活の場所、介護、社会的、心理的、経済的など）に対して退院後の生活に困らないよう、医療機関やケアマネージャー等の社会福祉機関、行政機関等と情報共有しながら退院・転院調整をおこなっている。

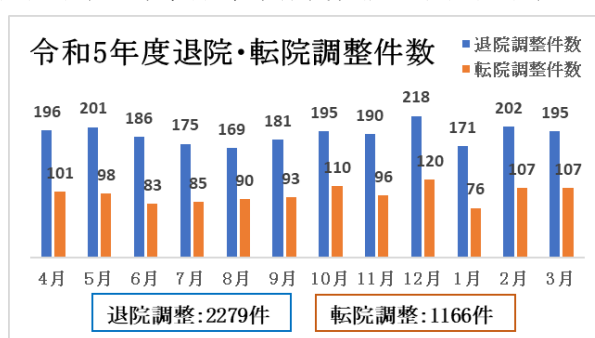
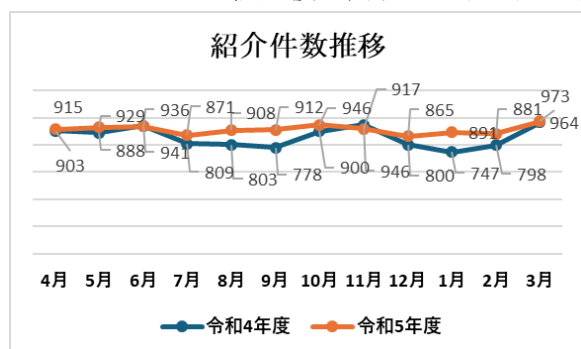
●部署運営状況

【職員配置】看護師 11 名、 医療社会事業専門員 6 名、事務員 5 名

【有資格者】がん看護専門看護師 1 名、緩和ケア認定看護師 1 名、

医療メディエーター研修修了者 3 名、小児在宅移行支援指導者養成研修修了者 1 名
がん相談支援センター相談員基礎研修修了者 3 名

入退院支援に関する実践力向上研修修了者 4 名、脳卒中療養相談士研修修了者 6 名



●2023 年度の活動、取り組み内容、成果

1. 2023 年度 4 月より、コロナ渦で実施出来ていなかった挨拶回りを再開し、94 件実施する事が出来た。関連医療機関と情報共有を行い、2023 年度の紹介件数は 10944 件であり、前年度より 667 件増加した。
2. 2023 年度の退院・転院調整数は前年度に比べて減少しているが、退院支援計画書の着手件数は月に約 209 件と増加しており、算定率は約 80%であった。
3. 入院時より早期にケアマネージャーと情報共有しサービス調整をおこない、退院前カンファレンスを実施することで、介護支援等連携指導料取得件数が 76 件で前年度より 6 件増えた。
4. 2023 年度より、コロナで中止していたがんサロンが再開となり、参加者同士の交流の場となった。

●2023 年度 学会・研究発表

在宅外国人 AYA 世代の患者への支援の一例	上田佳奈	JACS-NEXT 中国四国セミナー	6 月
------------------------	------	--------------------	-----

●はじめに

入院が決まった患者や家族に対して、患者や家族が入院生活や治療計画についてイメージすることができ、安心して入院生活を送ることができるように入院説明を行う。面談を通して病歴やアレルギーの有無、入院及び退院に関わる問題について情報収集を行っている。面談で患者や家族から得た情報は、担当医師や病棟看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW などに入院前カンファレンスで情報提供を行い病棟の看護計画の立案や退院支援に繋げている。

●看護体制

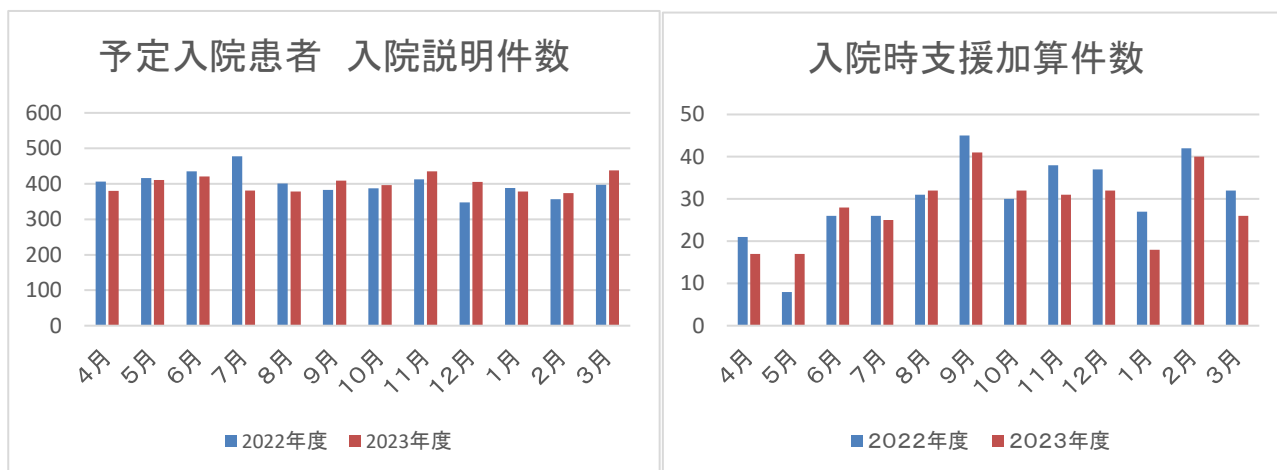
・勤務体制 日勤勤務

・有資格者

院内認定がん化学療法看護師 2 名

院内認定消化器内視鏡看護師 2 名

●部署運営状況



●2023 年度活動、取り組み内容、成果

1. 入院説明が 17 時以降となる場合、患者の希望に合わせて 17 時過ぎでの対応や後日日程調整し対応した。その結果、入院説明件数は 2022 年度 4787 件から 2023 年度 4806 件と増加した。
2. 入院説明した担当者は、前期後期に各一回、患者の退院前に病室訪問し満足度調査を行った。入院患者 28 名に満足度調査を行い満足度は 89%だった。調査結果から面談中の看護師の会話速度や声の大きさなど入院説明を改善した。
3. 初回問診票と英語版問診票を効率的に必要な患者情報を収集できるように作成した。その結果、入院説明で聞き忘れ、終了後に確認することが少なくなった。問診票作成後、面談時間調査し初回は平均 4 分/人、再入院 2 分/人の時間短縮に繋がった。
4. 面談後の電話での患者や家族の問い合わせは 71 件であった。問い合わせ内容は「限度額適応認定証などの手続きについて」「入院日の食事について」「入院書類について」であった。結果をもとに入院説明を改善した。

●2023 年度 学会・研究発表

なし

【 研 究 活 動 業 績 】

1.英文論文（2023年4月～2024年3月）

【著者・タイトル・雑誌名・発行年月・巻・号・ページ・Epub Date】

※ 太字…当院職員

消化器内科

1	Masaya Iwamuro, Takehiro Tanaka, Daisuke Ennishi, Kazuhiro Matsueda, Masao Yoshioka, Koji Miyahara, Chihiro Sakaguchi, Mamoru Nishimura, Teruya Nagahara, Tomohiko Mannami, Ryuta Takenaka, Shohei Oka, Masafumi Inoue, Hidetaka Takimoto, Tomoki Inaba, Sayo Kobayashi, Tatsuya Toyokawa, Hirofumi Tsugeno, Seiyuu Suzuki, Sachiko Sawada, Shouichi Tanaka , Takao Tsuzuki, Hiroyuki Okada; Long-term outcomes of patients with primary intestinal follicular lymphoma managed with watch-and-wait strategy Scientific Reports. 2023 Apr 11;13(1):5858.
2	Masaya Iwamuro, Chiaki Kusumoto, Masahiro Nakagawa, Kazuhiro Matsueda, Sayo Kobayashi, Masao Yoshioka, Tomoki Inaba, Tatsuya Toyokawa, Chihiro Sakaguchi, Shouichi Tanaka , Takehiro Tanaka, Hiroyuki Okada; Lesion size, elevated morphology, and non or closed-type atrophy are predictive factors for gastric adenocarcinoma of the fundic gland type rather than oxyntic gland adenoma Journal of Gastrointestinal Oncology. 2023 Apr 29;14(2):554-562.
3	Masaya Iwamuro, Shouichi Tanaka , Tatsuya Toyokawa, Mamoru Nishimura, Takao Tsuzuki, Koji Miyahara, Shin Negishi, Shogen Ohya, Takehiro Tanaka, Motoyuki Otsuka; Endoscopic Manifestations and Clinical Characteristics of Localized Gastric Light-Chain Amyloidosis Acta Medica Okayama. 2023 Oct;77(5):545-552.
4	Shumpei Yamamoto, Hiromitsu Kanzaki, Chihiro Sakaguchi, Hirokazu Mouri, Takao Tsuzuki, Junichiro Nasu, Sayo Kobayashi, Tatsuya Toyokawa, Yuka Obayashi, Masafumi Inoue, Ryo Kato , Minoru Matsubara, Masahide Kita, Hiroyuki Okada; Current prognostic factors of advanced gastric cancer patients treated with chemotherapy: real world data from a Japanese 12 institutions Japanese Journal of Clinical Oncology. 2023 Oct 4;53(10):928-935.
5	Hiroyuki Terasawa, Kazuyuki Matsumoto, Takehiro Tanaka, Takeshi Tomoda, Taiji Ogawa, Yuki Ishihara , Tatsuya Kikuchi, Taisuke Obata, Takashi Oda, Akihiro Matsumi, Kazuya Miyamoto, Kosaku Morimoto, Yuki Fujii, Tatsuhiko Yamazaki, Daisuke Uchida, Shigeru Horiguchi, Koichiro Tsutsumi, Hironari Kato, Motoyuki Otsuka; Cysts or necrotic components in pancreatic ductal adenocarcinoma is associated with the risk of EUS-FNA/B complications including needle tract seeding Pancreatology. 2023 Dec;23(8):988-995. Epub 2023 Oct 28.
6	Masaya Iwamuro, Toshiharu Mitsuhashi, Tomoki Inaba, Kazuhiro Matsueda, Teruya Nagahara, Yoji Takeuchi, Hisashi Doyama, Masakatsu Mizuno, Tomoyuki Yada, Yoshinari Kawai, Jun Nakamura, Minoru Matsubara, Hiroko Nebiki, Keiko Niimi, Tatsuya Toyokawa, Ryuta Takenaka, Sho Takeda, Shouichi Tanaka , Mamoru Nishimura, Takao Tsuzuki, Kazuya Akahoshi, Takahisa Furuta, Ken Haruma, Hiroyuki Okada; Results of the interim analysis of a prospective, multicenter, observational study of small subepithelial lesions in the stomach Digestive Endoscopy. 2024 Mar;36(3):323-331. Epub 2023 Jun 15.

呼吸器内科

1	Akira Sugimoto, Shingo Matsumoto, Hibiki Udagawa, Ryo Itotani, Yuko Usui, Shigeki Umemura, Kazumi Nishino, Ichiro Nakachi, Shoichi Kuyama , Haruko Daga, Satoshi Hara, Shingo Miyamoto, Terufumi Kato, Jun Sakakibara-Konishi, Eriko Tabata, Taku Nakagawa, Tomoya Kawaguchi, Tetsuya Sakai, Yuji Shibata, Hiroki Izumi, Kaname Nosaki, Yoshitaka Zenke, Kiyotaka Yoh, Koichi Goto; A Large-Scale Prospective Concordance Study of Plasma- and Tissue-Based Next-Generation Targeted Sequencing for Advanced Non-Small Cell Lung Cancer (LC-SCRUM-Liquid) Clinical Cancer Research. 2023 Apr;29(8):1506-1514.
2	Yasushi Goto, Hirotsugu Kenmotsu, Motohiro Tamiya, Shuji Murakami, Takayasu Kurata, Noriko Yanagitani, Hirokazu Taniguchi, Shoichi Kuyama , Junichi Shimizu, Toshihide Yokoyama, Naoko Shimada, Tadashi Maeda, Akihiro Tamiya, Ayumi Uchiyama, Kazuyoshi Imaizumi, Takayuki Takahama, Terufumi Kato, Hidetoshi Hayashi, Naoko Shiraiwa, Shigeyuki Toyozumi, Hironori Kikkawa, Despina Thomaidou, Makoto Nishio; A Retrospective, Multicenter, Observational Study to Evaluate Clinical Outcomes of Lorlatinib After Alectinib in Patients With ALK-Positive NSCLC in Japan JTO Clinical and Research Reports. 2024 Mar 24;4(5):100508. eCollection 2023 May.
3	Tomoki Tamura, Sakura Hata, Takahiro Baba, Taisaku Koyanagi, Takahiro Umeno, Kazuya Nishii, Shoichi Kuyama ; A case of successful desensitization treatment with tepotinib after tepotinib-induced rash Respiratory Medicine Case Reports. 2023 Sep 2;45:101911. eCollection 2023.
4	Takashi Ninomiya, Nobuhisa Ishikawa, Toshiyuki Kozuki, Shoichi Kuyama , Koji Inoue, Toshihide Yokoyama, Nobuhiro Kanaji, Masayuki Yasugi, Takuo Shibayama, Keisuke Aoe, Nobuaki Ochi, Kazunori Fujitaka, Masahiro Kodani, Yutaka Ueda, Kazuhiko Watanabe, Akihiro Bessho, Keisuke Sugimoto, Isao Oze, Katsuyuki Hotta, Katsuyuki Kiura; A randomized phase II study of afatinib alone or combined with bevacizumab for treating chemo-naïve patients with non-small cell lung cancer harboring EGFR mutations Lung Cancer. 2023 Oct;184:107349. Epub 2023 Aug 19.

5	Takayuki Kakimoto, Tomoki Tamura, Taisaku Koyanagi, Takahiro Umeno, Kazuya Nishii, Shoichi Kuyama A case of synovitis–acne–pustulosis–hyperostosis–osteitis syndrome with right pleural effusion Respiratory Medicine Case Reports. 2023 Oct 5;46:101927. eCollection 2023.
6	Yasunori Murata, Shigeru Tanzawa, Toshihiro Misumi, Hiroshige Yoshioka, Eisaku Miyauchi, Kiichiro Ninomiya, Masafumi Takeshita, Kensaku Ito, Tatsuro Okamoto, Shunichi Sugawara, Yosuke Kawashima, Kazuki Hashimoto, Masahide Mori, Akihiko Miyanaga, Anna Hayashi, Hisashi Tanaka, Ryoichi Honda, Masafumi Nojiri, Yuki Sato, Akito Hata, Ken Masuda, Toshiyuki Kozuki, Takahisa Kawamura, Takuji Suzuki, Teppei Yamaguchi, Kazuhiro Asada, Satoshi Tetsumoto, Hiroshi Tanaka, Satoshi Watanabe, Yukihiro Umeda, Kakuhiro Yamaguchi, Shoichi Kuyama , Kosuke Tsuruno, Yuki Misumi, Hiroshi Kuraishi, Ken Yoshihara, Akira Nakao, Akihito Kubo, Toshihiko Yokoyama, Kana Watanabe, Nobuhiko Seki; Multicenter, Retrospective Study to Evaluate Necitumumab Plus Cisplatin and Gemcitabine After Immune Checkpoint Inhibitors in Advanced Squamous Cell Lung Cancer in Japan: The NINJA Study JTO Clinical and Research Reports. 2023 Oct 20;4(12):100593. eCollection 2023 Dec.
7	Masaharu Shinkai, Noriyuki Katsumata, Shinichi Kawai, Shoichi Kuyama , Osamu Sasaki, Yasuhiro Yanagita, Minoru Yoshida, Shima Uneda, Yasushi Tsuji, Hidenori Harada, Yasunori Nishida, Yasuhiro Sakamoto, Daisuke Himeji, Hitoshi Arioka, Kazuhiro Sato, Ryo Katsuki, Hiroki Shomura, Hideshi Nakano, Hideaki Ohtani, Kazutaka Sasaki, Takeshi Adachi; Phase III study of bilayer sustained–release tramadol tablets in patients with cancer pain: a double–blind parallel–group, non–inferiority study with immediate–release tramadol capsules as an active comparator Supportive Care in Cancer. 2023 Dec 29;32(1):69.
8	Kohei Miyake, Satoru Senoo, Ritsuya Shiiba, Junko Itano, Goro Kimura, Tatsuyuki Kawahara, Tomoki Tamura , Kenichiro Kudo, Tetsuji Kawamura, Yasuhiro Nakahara, Hisao Higo, Daisuke Himeji, Nagio Takigawa, Nobuaki Miyahara; Okayama Respiratory Disease Study Group (ORDSG) Pneumocystis jirovecii pneumonia mortality risk associated with preceding long–term steroid use for the underlying disease: A multicenter, retrospective cohort study PLoS One. 2024 Feb 8;19(2):e0292507. eCollection 2024.
9	Tadahiro Kuribayashi, Kadoaki Ohashi, Kazuya Nishii, Kiichiro Ninomiya, Yukari Tsubata, Nobuhisa Ishikawa, Masahiro Kodani, Nobuhiro Kanaji, Masahiro Yamasaki, Kazunori Fujitaka, Shoichi Kuyama , Nagio Takigawa, Nobukazu Fujimoto, Tetsuya Kubota, Masaaki Inoue, Keiichi Fujiwara, Shingo Harita, Ichiro Takata, Kenji Takada, Sachi Okawa, Katsuyuki Kiura, Katsuyuki Hotta Clinical characteristics of patients treated with immune checkpoint inhibitors in EGFR–mutant non–small cell lung cancer: CS–Lung–003 prospective observational registry study Journal of Cancer Research and Clinical Oncology. 2024 Feb 12;150(2):89.
10	Nobuhiro Kanaji, Eiki Ichihara, Takaaki Tanaka, Takashi Ninomiya, Toshiyuki Kozuki, Nobuhisa Ishikawa, Kazuya Nishii , Hiroyasu Shoda, Kakuhiro Yamaguchi, Keita Kawakado, Yuko Toyoda, Masaaki Inoue, Nobuyuki Miyatake, Naoki Watanabe, Takuya Inoue, Hitoshi Mizoguchi, Yuta Komori, Kazuki Kojima, Norimitsu Kadowaki; Efficacy and Safety of Re–administration of Epidermal Growth Factor Receptor–Tyrosine Kinase Inhibitor (EGFR–TKI) After EGFR–TKI–Induced Interstitial Lung Disease (CS–Lung–005) Lung. 2024 Feb;202(1):63–72. Epub 2024 Jan 24.
11	Ayako Morita, Eiki Ichihara, Koji Inoue, Keiichi Fujiwara, Toshihide Yokoyama, Daijiro Harada, Chihiro Ando, Hirohisa Kano, Naohiro Oda, Tomoki Tamura , Nobuaki Ochi, Haruyuki Kawai, Masaaki Inoue, Naofumi Hara, Nobukazu Fujimoto, Hirohisa Ichikawa, Isao Oze, Katsuyuki Hotta, Yoshinobu Maeda, Katsuyuki Kiura; Impacts of probiotics on the efficacies of immune checkpoint inhibitors with or without chemotherapy for patients with advanced non–small–cell lung cancer International Journal of Cancer. 2024 May 1;154(9):1607–1615. Epub 2024 Jan 9.

循環器内科

1	Yurie Murata , Yuichiro Matsuo, Eiji Hiraoka; Successful Conservative Management of Emphysematous Cystitis With Pneumoperitoneum: A Case Report and Literature Review Cureus. 2023 Aug 19;15(8):e43769. eCollection 2023 Aug.
2	Mitsutaka Nakashima , Toru Miyoshi, Machiko Tanakaya , Takaaki Saito , Yusuke Katayama , Satoru Sakuragi , Yoichi Takaya, Hiroshi Ito; Prognostic value of the liver fibrosis marker fibrosis–5 index in patients with severe isolated tricuspid regurgitation: comparison with fibrosis–4 index Heart and Vessels. 2023 Sep;38(9):1181–1189. Epub 2023 Apr 23.

血液内科

1	Wataru Kitamura , Hiroki Kobayashi, Akiko Iseki , Hideho Wada, Yoshinobu Maeda, Shoichi Kuyama; Cold agglutinin–induced acrocyanosis without hemolytic anemia Annals of Hematology. 2024 Feb;103(2):681–683. Epub 2023 Nov 9.
2	Wataru Kitamura , Yumiko Sato , Shoichi Kuyama ; Trousseau's syndrome in diffuse large B–cell lymphoma EJHaem. 2023 Dec 15;5(1):271–273. eCollection 2024 Feb.

3	Wataru Kitamura, Shoichi Kuyama; Facial Erythromelalgia Internal Medicine. 2024 May 1;63(9):1327. Epub 2023 Sep 29.
4	Wataru Kitamura, Masatoshi Kuratsune, Akiko Iseki, Shoichi Kuyama; ANCA-associated vasculitis with isolated splenomegaly as the initial organ presentation Rheumatology Advances in Practice. 2024 Mar 27;8(2):rkae045. eCollection 2024.

小児科

1	Seigo Okada, Eitaro Suzuki, Yasuo Suzuki, Tadashi Moriwake , Kosei Hasegawa, Ayumi Omuro, Shunji Hasegawa; Japanese siblings with multicentric osteolysis nodulosis and arthropathy Pediatrics International. 2024 Jan-Dec;66(1):e15743.
2	Daisuke Miyahara, Kosei Hasegawa, Yuko Ago, Natsuko Futagawa, Hiroyuki Miyahara, Yousuke Higuchi, Kazuki Yamada, Tomonori Tetsunaga, Tadashi Moriwake , Hiroyuki Tanaka, Hirokazu Tsukahara; Radiological characteristics of skeletal growth in neonates and infants with achondroplasia American Journal of Medical Genetics Part A. 2024 May;194(5):e63525. Epub 2023 Dec 29.
3	Kosei Hasegawa, Natsuko Futagawa, Yuko Ago, Hiroyuki Miyahara, Daisuke Harada, Mari Miyazawa, Junko Yoshimoto, Kenji Baba, Tadashi Moriwake , Hiroyuki Tanaka, Hirokazu Tsukahara; Novel and recurrent COMP gene variants in five Japanese patients with pseudoachondroplasia: skeletal changes from the neonatal to infantile periods Clinical Pediatric Endocrinology. 2023;32(4):221-227. Epub 2023 Sep 16.

外科

1	Takayuki Matsumoto, Junji Umeno, Keisuke Jimbo, Masami Arai, Itaru Iwama, Hiroshi Kashida, Takahiro Kudo, Koichi Koizumi, Yasushi Sato, Shigeki Sekine, Shinji Tanaka, Kohji Tanakaya , Kazuo Tamura, Keiji Hirata, Suguru Fukahori, Motohiro Esaki, Hideki Ishikawa, Takeo Iwama, Yasushi Okazaki, Yutaka Saito, Nariaki Matsuura, Michihiro Mutoh, Naohiro Tomita, Takashi Akiyama, Toshiki Yamamoto, Hideyuki Ishida, Yoshiko Nakayama; Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Juvenile Polyposis Syndrome in Children and Adults-Secondary Publication Journal of the Anus, Rectum and Colon. 2023 Apr 25;7(2):115-125. eCollection 2023.
2	Susumu Doita, Fumitaka Taniguchi, Kengo Mouri, Eiki Miyake, Minami Hatono, Hiroki Kajioka, Toshihiro Ogawa, Megumi Watanabe, Takashi Arata, Kou Katsuda, Kouji Tanakaya, Hideki Aoki; Rare case of retroperitoneal mitotically active leiomyoma in a postmenopausal woman Journal of Surgical Case Reports. 2023 Jun 5;2023(6):rjad321. eCollection 2023 Jun.
3	Kazuki Yamazawa, Kokichi Sugano, Kohji Tanakaya , Satomi Inoue, Haruka Murakami, Moeko Nakashima, Masataka Adachi, Shinya Oki, Takeshi Makabe, Hiroshi Yamashita, Arisa Ueki, Ayako Sasaoka, Ayako Nakashoji, Takayuki Kinoshita, Tatsuo Matsunaga, Masami Arai, Seigo Nakamura, Hiroaki Miyata, Masachika Ikegami, Hiroyuki Mano, Shinji Kohsaka, Akira Matsui; The pathogenic role of the BRCA2 c.7847C>T (p.Ser2616Phe) variant in breast and ovarian cancer predisposition Cancer Science. 2023 Jul;114(7):2993-3002. Epub 2023 Apr 17.
4	Kenichi Chikatani, Hideyuki Ishida, Yoshiko Mori, Takeshi Nakajima, Arisa Ueki, Kiwamu Akagi, Akinari Takao, Masayoshi Yamada, Fumitaka Taniguchi , Koji Komori, Kazuhito Sasaki, Tomoya Sudo, Yasuyuki Miyakura, Akiko Chino, Tatsuro Yamaguchi, Kohji Tanakaya , Naohiro Tomita, Yoichi Ajioka; Risk of metachronous colorectal cancer after colectomy for first colon cancer in Lynch syndrome: multicenter retrospective study in Japan International Journal of Clinical Oncology. 2023 Dec;28(12):1633-1640. Epub 2023 Sep 26.
5	Yoshiko Mori, Hideyuki Ishida, Noriyasu Chika, Tetsuya Ito, Kunihiko Amano, Kenichi Chikatani, Yoji Takeuchi, Mitsuhiro Kono, Satoki Shichijo, Akiko Chino, Toshiya Nagasaki, Akinari Takao, Misato Takao, Sakiko Nakamori, Kazuhito Sasaki, Kiwamu Akagi, Tatsuro Yamaguchi, Kohji Tanakaya , Tomita Naohiro, Yoichi Ajioka; Usefulness of genotyping APC gene for individualizing management of patients with familial adenomatous polyposis International Journal of Clinical Oncology. 2023 Dec;28(12):1641-1650. Epub 2023 Oct 18.
6	Yasuyuki Miyakura, Tatsuro Yamaguchi, Alan Kawarai Lefor, Sawako Tamaki, Akinari Takao, Misato Takao, Yoshiko Mori, Kenichi Chikatani, Hideyuki Ishida, Mitsuhiro Kono, Yoji Takeuchi, Hideki Ishikawa, Toshiya Nagasaki, Kazuhito Sasaki, Takaaki Matsubara, Keiji Hirata, Fumitaka Taniguchi, Kohji Tanakaya , Naohiro Tomita, Yoichi Ajioka; Clinical features and distribution of the APC variant in duodenal and ampullary polyps in patients with familial adenomatous polyposis: a multicenter retrospective cohort study in Japan International Journal of Clinical Oncology. 2024 Feb;29(2):169-178. Epub 2023 Dec 24.
7	Kazuhito Sasaki, Kazushige Kawai, Hiroaki Nozawa, Soichiro Ishihara, Hideyuki Ishida, Keiichiro Ishibashi, Yoshiko Mori, Satoki Shichijo, Yasuhiro Tani, Yoji Takeuchi, Akiko Chino, Misato Takao, Kenji Fujiyoshi, Takaaki Matsubara, Yasuyuki Miyakura, Fumitaka Taniguchi , Tatsuro Yamaguchi, Kohji Tanakaya , Naohiro Tomita, Yoichi Ajioka; Risk of gastric adenoma and adenocarcinoma in patients with familial adenomatous polyposis in Japan: a nationwide multicenter study Journal of Gastroenterology. 2024 Mar;59(3):187-194. Epub 2024 Jan 23.

8	Takanori Morikawa, Masanori Akada, Kenji Shimizu, Yasunori Nishida, Junko Izai, Hiroki Kajioka , Takayuki Miura, Masaharu Ishida, Michiaki Unno; Current status and therapeutic strategy of acute acalculous cholecystitis: Japanese nationwide survey in the era of the Tokyo guidelines Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences. 2024 Mar;31(3):162-172. Epub 2023 Dec 28.
9	Susumu Doita, Hideki Aoki, Hiroki Kajioka, Kohji Tanakaya, Kenji Kawamoto ; The combination of preoperative celiac axis stenting and neoadjuvant chemotherapy in an elderly patient with pancreatic cancer: a case report Surgical Case Reports. 2024 Mar 12;10(1):59.
10	Kenichi Chikatani, Hideyuki Ishida, Yoshiko Mori, Takeshi Nakajima, Arisa Ueki, Kiwamu Akagi, Akinari Takao, Masayoshi Yamada, Fumitaka Taniguchi , Koji Komori, Kazuhito Sasaki, Tomoya Sudo, Yasuyuki Miyakura, Akiko Chino, Tatsuro Yamaguchi, Kohji Tanakaya , Naohiro Tomita, Yoichi Ajioka; Risk of metachronous colorectal cancer after surgical resection of index rectal cancer in Lynch syndrome: a multicenter retrospective study in Japan Surgery Today. 2024 Sep;54(9):1075-1083. Epub 2024 Mar 19.
11	Yasuyuki Miyakura, Akiko Chino, Kohji Tanakaya , Alan Kawarai Lefor, Kiwamu Akagi, Akinari Takao, Masayoshi Yamada, Hideyuki Ishida, Koji Komori, Kazuhito Sasaki, Masashi Miguchi, Keiji Hirata, Tomoya Sudo, Toshiaki Ishikawa, Tatsuro Yamaguchi, Naohiro Tomita, Yoichi Ajioka; Current practice of colonoscopy surveillance in patients with lynch syndrome: A multicenter retrospective DEN Open. 2022 Nov 1;3(1):e179. eCollection 2023 Apr.

胸部外科

1	Hiromasa Yamamoto, Junichi Soh, Norihito Okumura, Hiroyuki Suzuki, Masao Nakata, Toshiya Fujiwara, Kenichi Gemba, Isao Sano, Takuji Fujinaga, Masafumi Kataoka, Yasuhiro Terazaki, Nobukazu Fujimoto, Kazuhiko Kataoka , Shinji Kosaka, Motohiro Yamashita, Hidetoshi Inokawa, Masaaki Inoue, Hiroshige Nakamura, Yoshinori Yamashita, Katsuyuki Hotta, Hiroshige Yoshioka, Satoshi Morita, Keitaro Matsuo, Junichi Sakamoto, Hiroshi Date, Shinichi Toyooka; Randomized phase II study of daily versus alternate-day administrations of S-1 for the elderly patients with completely resected pathological stage IA (tumor diameter > 2 cm)-IIIA of non-small cell lung cancer: Setouchi Lung Cancer Group Study 1201 PLoS One. 2023 May 19;18(5):e0285273. eCollection 2023.
2	Mototsugu Watanabe , Hiromasa Yamamoto, Kentaroh Miyoshi, Seiichiro Sugimoto, Shinichi Toyooka; Endobronchial Metastasis with Bloody Sputum 20 Years after Complete Resection of type A Non-Invasive Thymoma Acta Medica Okayama. 2023 Jun;77(3):331-334.
3	Toshiya Fujiwara, Kazuhiko Shien, Motoki Matsuura, Junichi Soh, Hiromasa Yamamoto, Soshi Takao, Yuho Maki, Tsuyoshi Ueno, Ryujiro Sugimoto, Ken Suzawa, Mikio Okazaki, Hiroyuki Tao, Makio Hayama, Masafumi Kataoka, Yoshifumi Sano, Hidetoshi Inokawa, Motohiro Yamashita, Osamu Kawamata, Kazuhiko Kataoka , Shinichi Toyooka; EGFR Mutation is a Prognostic Factor in Lung Cancer Patients with Pleural Dissemination Detected During or After Surgery Annals of Surgical Oncology. 2023 Oct;30(11):6697-6702. Epub 2023 Jun 25.
4	Toshiya Fujiwara, Kazuhiko Shien, Motoki Matsuura, Junichi Soh, Hiromasa Yamamoto, Soshi Takao, Yuho Maki, Tsuyoshi Ueno, Ryujiro Sugimoto, Ken Suzawa, Mikio Okazaki, Hiroyuki Tao, Makio Hayama, Masafumi Kataoka, Yoshifumi Sano, Hidetoshi Inokawa, Motohiro Yamashita, Osamu Kawamata, Kazuhiko Kataoka , Shinichi Toyooka; ASO Visual Abstract: EGFR Mutation is a Prognostic Factor in Lung Cancer Patients with Pleural Dissemination Detected During or After Surgery Annals of Surgical Oncology. 2023 Oct;30(11):6705-6706.
5	Kaoru Kondo, Toshio Shiotani, Shinichi Furukawa, Mototsugu Watanabe, Kazuhiko Kataoka ; Myxoid solitary fibrous tumor with rapid General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases. 2023 Aug;2.

形成外科

1	Asami Tozawa, Hideki Mori, Masakazu Ao , Yoshiro Abe, Hiromichi Sedo, Takahiro Uemura, Kei Tezuka, Sho Komagoe, Yumiko Uemura, Tatsuro Murakami, Hiroki Nakaoka, Yasuhiro Fujisawa; Reconstruction methods for and cosmetic evaluation of external nasal tumour resections: flap versus graft European Journal of Dermatology. 2023 Oct 1;33(5):524-529.
---	---

脳神経外科

1	Masato Kawakami, Satoshi Murai, Noboru Kusaka, Fukiko Baba , Yohei Inoue, Hayato Miyake, Yukei Shinji, Hisakazu Itami, Shinji Otsuka, Tsukasa Nishiura, Kotaro Ogihara; Non-aneurysmal subarachnoid hemorrhage in aplastic or twig-like middle cerebral artery: A case report and literature review Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases. 2024 Mar;33(3):107582. Epub 2024 Jan 17.
---	---

心臓血管外科

1	Toshihiro Onohara, Nobuhiro Handa, Masakazu Kawasaki, Fuminori Kasashima, Tetsuya Saito, Teruya Nakamura, Dai Une, Mikizo Nakai, Suguru Shiraya, Kazuki Maeda, Katsuhiko Imai, Tsuyoshi Yamamoto , Yasushi Shimoe, Minoru Okamoto, Yoshikazu Kawazu; Long-Term Outcomes of Endovascular Aneurysm Repair in Patients Aged ≤ 70 Years Annals of Vascular Diseases. 2024 Mar 25;17(1):25-33. Epub 2024 Feb 6.
---	--

皮膚科

1	Daiki Takezaki, Shin Morizane, Kenta Ikeda , Masanori Iseki, Yuma Sakamoto, Yoshio Kawakami, Taishi Hashiguchi, Yuka Shirakata, Sohji Nishina, Tomoyuki Mukai; Co-occurrence of non-alcoholic steatohepatitis exacerbates psoriasis associated with decreased adiponectin expression in a murine model Frontiers in Immunology. 2023 Aug 14;14:1214623. eCollection 2023.
---	--

泌尿器科

1	Satoshi Katayama, Takehiro Iwata, Tasushi Kawada, Yusuke Okamoto, Yuho Sano, Yuya Kawago, Shuji Miyake, Takatoshi Moriwake, Aya Kuinose, Yuhei Horikawa, Kazuma Tsuboi, Ichiro Tsuboi, Kazuma Sakaeda, Hirokazu Nakatsuka, Atsushi Takamoto, Takeshi Hirata, Yoshinori Shirasaki, Taku Yamasaki, Hirofumi Morinaka, Naoya Nagasaki, Takafumi Hara, Akinori Ochi, Misa Okumura, Tomofumi Watanabe, Takanori Sekito, Kaoru Kawano, Satoshi Horii, Tomoaki Yamanoi, Kentaro Nagao, Kasumi Yoshinaga, Yuki Maruyama, Yusuke Tominaga, Takuya Sadahira, Shingo Nishimura, Kohei Edamura, Tomoko Kobayashi, Norihiro Kusumi, Kyohei Kurose, Yasuo Yamamoto, Morito Sugimoto, Tetsuya Nakada , Katsumi Sasaki, Tadasu Takenaka, Shin Ebara, Yoshiyuki Miyaji, Koichiro Wada, Yasuyuki Kobayashi, Motoo Araki; Prognostic impact of radiological tumor burden in patients with metastatic urothelial carcinoma treated with pembrolizumab Urologic Oncology. 2024 Mar;42(3):70.e11-70.e18. Epub 2023 Dec 20.
---	---

産科・婦人科

1	Hirofumi Matsuoka, Keiichiro Nakamura, Masae Yorimitsu, Mariko Ogawa, Miho Kanemori, Kotaro Sueoka, Ayumi Kozai, Hiroko Nakamura, Tomoko Haruma, Yuko Shiroyama, Yuu Hayata, Hirokazu Sugii , Akiko Ueda, Shuichi Kurihara, Saiko Urayama, Miyuki Shimizu, Hisashi Masuyama; Relationship Between Hematological Toxicities During Maintenance Treatment and During Chemotherapy Before Maintenance Treatment in Patients With Platinum-sensitive Relapsed Ovarian Cancer Anticancer Research. 2023 Aug;43(8):3653-3658.
2	Keiichiro Nakamura, Hirofumi Matsuoka, Masae Yorimitsu, Mariko Ogawa, Miho Kanemori, Kotaro Sueoka, Ayumi Kozai, Hiroko Nakamura, Tomoko Haruma, Yuko Shiroyama, Yuu Hayata, Hirokazu Sugii , Akiko Ueda, Shuichi Kurihara, Saiko Urayama, Miyuki Shimizu, Hisashi Masuyama; Efficacy and safety of olaparib, olaparib plus bevacizumab and niraparib maintenance treatment in Japanese patients with platinum-sensitive advanced ovarian cancer Japanese Journal of Clinical Oncology. 2024 Jan 7;54(1):31-37.

救急科

1	Takashi Miyauchi, Yutaro Hirata, Shinya Fukuda ; Postmortem diagnosis of gestational psittacosis: A case report Acute Medicine & Surgery. 2024 Feb 16;11(1):e932. eCollection 2024 Jan-Dec.
---	--

薬剤部

1	Daiki Tsuji, Shigeru Nakagaki, Itsuki Yonezawa, Kenichi Suzuki, Takashi Yokokawa, Yohei Kawasaki, Takumi Yamaguchi, Takashi Kawaguchi, Masahiro Hatori, Takuma Matsumoto , Yukio Sakata, Keisuke Yamamoto, Tomoyasu Nishimura, Yuki Kogure, Toshinobu Hayashi, Misa Osawa, Kunihiko Itoh, Masaya Watanabe; A multicenter phase II trial of the triplet antiemetic therapy with palonosetron, aprepitant, and olanzapine for a cisplatin-containing regimen. - PATROL-I Investigational New Drugs. 2024 Feb;42(1):44-52. Epub 2023 Dec 6.
---	---

2.和文論文・著書等（2023年4月～2024年3月）

【著者・タイトル・雑誌名・巻・号・ページ・発行年月】

消化器内科

1	田口 健一, 室 信一郎, 持田 浩志, 武 進, 石木 邦治, 浜田 史洋	節外病変として胃十二指腸に小白色扁平隆起を伴ったびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例	日本臨床外科学会誌	65	12	2401-2406	2023.12
---	---	--	-----------	----	----	-----------	---------

循環器内科

1	高山 伸	【ARIA2022特集】(Part2)ACSの修羅場をどう切り抜ける? 血栓ギトギト編 血栓ギトギト症例。どうする? ELCA	Cath Lab JIN	6	1	37-40	2023.5
---	------	---	--------------	---	---	-------	--------

外科

1	田中屋 宏爾, 谷口 文崇, 重安 邦俊	VIII 病態ほか 5. 大腸癌と遺伝	日本臨床増刊号 最新臨床大腸癌学2023 最新の診断・治療と病態	81	5	413-419	2023.5
2	渡邊 めぐみ, 毛利 謙吾, 土井田 進, 三宅 英輝, 鳩野 みなみ, 梶岡 裕紀, 小川 俊博, 谷口 文崇, 荒田 尚, 勝田 浩, 田中屋 宏爾, 青木 秀樹	早期胃癌に対しclosed LECSを行った2例	癌と化学療法	50	13	1554-1556	2023.12

心臓血管外科

1	倉田 裕次, 山本 剛, 大谷 悟, 小川 達也, 吉田 文哉	大動脈弁僧帽弁人工弁置換術後の人工弁機能不全に対するCommando手術の1例	心臓	56	1	55-60	2024.1
---	---------------------------------	---	----	----	---	-------	--------

泌尿器科

1	土井 啓介, 藤井 孝法, 花本 昌紀, 高村 剛輔, 中田 哲也, 佐藤 由美子, 小倉 一真	Intraductal carcinoma of the prostateを含む前立腺癌でBRCA遺伝子変異陽性の1例	泌尿器科紀要	69	7	189-192	2023.7
---	--	---	--------	----	---	---------	--------

産科・婦人科

1	田中 圭紀, 伊藤 裕徳	中国・四国地方における卵巣癌に対する分子標的薬の使用状況およびコンパニオン検査が与えるHBOC診療への影響の調査	日本婦人科腫瘍学会雑誌	42	1	6-15	2024.1
---	--------------	--	-------------	----	---	------	--------

救急科

1	宮内 崇, 平田 祐太郎, 福田 信也	病理解剖することで診断に至った妊娠オウム病の1例	日本救急医学会雑誌	34	-	445-450	2023.11
---	---------------------	--------------------------	-----------	----	---	---------	---------

麻酔科

1	熊野 夏美	新技術について勉強しよう 動態X線撮影とは	臨床麻酔	47	6	787-790	2023.7
2	上原 健司	腹臥位手術において気管チューブが口腔内で屈曲し、換気困難となった1症例	日本臨床麻酔学会誌	43	4	297-301	2023.7

看護部

1	近藤 祐子, 上原 明美, 川島 美由紀, 鶴原 智美, 藤野 和子	看護師長として新卒看護師の離職を防止する関わり方の検討 テキストマイニングによる解析から	中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌	19	-	1-4	2024.1
---	------------------------------------	--	---------------------------	----	---	-----	--------

3.学会発表・講演等（2023年4月～2024年3月）

【演者・演題名等・発表学会・発表年月日】

内科

1	白木 照夫	医療用麻薬に関連したインシデントの検討	第28回日本緩和医療学会学術大会	2023/6/30
2	白木 照夫	コロナ禍における緩和ケアチーム活動	第28回日本緩和医療学会学術大会	2023/6/30

消化器内科

1	秦 さくら, 田口 健一, 西井 和也, 田中 彰一	アニリン中毒による重度のメトヘモグロビン血症をきたした1例	第120回日本内科学会講演会（2023年） 「医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2023東京」	2023/4/15
2	太田 健二, 田中 彰一, 岩室 雅也	ワークショップ：胃限局ALアミロイドーシスの内視鏡像に関する検討	第105回日本消化器内視鏡学会総会	2023/5/27
3	村井 達哉, 太田 健二, 田口 健一, 矢鍋 之照, 上田 英次郎, 石原 裕基, 藤本 剛, 田中 彰一	シェーグレン症候群による蛋白漏出症候群の1例	第129回日本内科学会中国地方会	2023/10/21
4	石原 裕基, 上田 英次郎, 藤本 剛, 田中 彰一, 加藤 博也	ワークショップ2 高齢者におけるステント治療の現状と工夫 当院における超音波内視鏡下ドレージ術の現状	第131回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2023/1/18 ～2023/1/19
5	藤本 剛	小腸・大腸	第131回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	2023/1/18 ～2023/1/19
6	浜田 健太郎, 田中 彰一, 太田 健二, 田口 健一, 矢鍋 之照, 村井 達哉, 上田 英次郎, 石原 裕基, 藤本 剛	除菌後5年以上経過して退縮しはじめた十二指腸原発 follicular lymphoma の1例	第120回日本消化器病学会中国支部例会	2023/11/18 ～2023/11/19
7	田口 健一, 石原 裕基, 上田 英次郎, 太田 健二, 矢鍋 之照, 村井 達哉, 藤本 剛, 田中 彰一	Pembrolizumab 投与中止後も長期間の生存を維持している Microsatellite instability-high(MSI-H) 膵癌の一例	第120回日本消化器病学会中国支部例会	2023/11/18 ～2023/11/19

呼吸器内科

1	西井 和也	肺癌術後に気管局所再発を認め、化学放射線治療とデュルバルマブによる地固め治療が有効であった2症例	第46回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2023/6/29 ～2023/6/30
2	西井 和也	初期研修医セッション3 座長	第68回日本呼吸器学会中国・四国地方会 第62回日本肺癌学会中国・四国支部学術集会	2023/7/15 ～2023/7/17
3	田村 朋季	Erlotinib and Ramucirumab Combination Therapy for Patients Previously Treated with EGFR-TKI: A Retrospective Observational Study	2023 Wprld Conference on Lung Cancer	2023/9/9 ～2023/9/12
4	馬場 貴大	A case of successful desensitization treatment with tepotinib after tepotinib-induced rash	2023 Wprld Conference on Lung Cancer	2023/9/9 ～2023/9/12

5	小柳 太作	肺癌化学療法中にCOVID-19を発症した症例の後方視的検討	第64回日本肺癌学会学術集会	2023/11/2 ~2023/11/4
6	久山 彰一	後期研修医演題 肺腫瘍 2	第69回日本呼吸器学会中国・四国地方会	2023/12/17
7	秦 さくら	テボチニブにより薬疹を生じたが減感作療法に成功した非小細胞肺癌の一例	第63回日本呼吸器学会学術講演会	2023/4/28 ~2023/4/30
8	浜田 健太郎	タゾバクタム・ピペラシリンによる抗菌薬関連脳症を引き起こした小細胞肺癌患者の1例	第128回日本内科学会 中国地方会	2023/5/21
9	白羽 範昭	左下葉肺動静脈瘻に対し胸腔鏡下左S8+S9区域切除術を施行した1例	第68回日本呼吸器学会中国・四国地方会 第61回日本肺癌学会中国・四国支部学術集会	2023/7/15 ~2023/7/16
10	野坂 未公音	難治性肺MAC症の治療中に、M.chelonaeに菌交代を起こし、IPM/CSの代替としてCMZを使用し奏功した一例	第68回日本呼吸器学会中国・四国地方会 第61回日本肺癌学会中国・四国支部学術集会	2023/7/15 ~2023/7/16
11	岡野 宏哉	デュピルマブ投与により肺胞出血を発症した好酸球性副鼻腔炎合併喘息の一例	第68回日本呼吸器学会中国・四国地方会 第61回日本肺癌学会中国・四国支部学術集会	2023/7/15 ~2023/7/17
12	岡野 宏哉	A case of EGFR mutation-positive lung adenocarcinoma with myocarditis induced by osimertinib	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20 ~2023/10/21
13	久山 彰一	EGFR遺伝子変異要請肺癌の治療戦略より長期の予後を目指すために	lung cancer Seminar in Hiroshima	2023/5/24
14	久山 彰一	特別講演、ディスカッション座長	若手医師のためのLung Cancer Training Deminar	2023/5/30
15	西井 和也	当院におけるニンテダニブの使用状況	岩国 ILD講演会	2023/5/31
16	久山 彰一	特別講演 座長	岩国 ILD講演会	2023/5/31
17	久山 彰一	肺癌治療における呼吸器合併症について	第31回香川レスピラトリ・ケア研究会	2023/6/22
18	久山 彰一	講演 座長	Lilly NSCLC Web講演会 肺癌治療の最前線	2023/7/6
19	久山 彰一	特別講演① 座長	G-CSF講演会 発熱性好中球減少性を考える	2023/7/15
20	久山 彰一	クロージングリマークス	広島県肺癌免疫治療講演会	2023/7/19
21	久山 彰一	クロージングリマークス	肺癌免疫治療講演会	2023/7/26
22	久山 彰一	講演会 座長	山口県東部肺癌講演会	2023/8/1

23	久山 彰一	パネルディスカッション	immuno Oncology Seminar	2023/8/7
24	田村 朋季	オープニングリマークス	間質性肺炎 チーム医療カンファレンス クリニカルパス運用のコツ	2023/8/8
25	西井 和也	講演1 座長	間質性肺炎 チーム医療カンファレンス クリニカルパス運用のコツ	2023/8/8
26	久山 彰一	講演2 座長	"間質性肺炎 チーム医療カンファレンス クリニカルパス運用のコツ"	2023/8/8
27	久山 彰一	講演 座長	Lung cancer Seminar in Iwakuni 2023	2023/8/29
28	久山 彰一	講演 座長	第2回岩国医療センター病診連携講演会	2023/9/8
29	久山 彰一	トラスツズマブでクルステカンによる新たな薬剤性肺障害 早期発見と発見時の対処法	がん治療のリスク、ベネフィット考える会	2023/9/13
30	久山 彰一	IP合併肺癌に対する今後の治療戦略 パネリスト	ILD conference In Chushikoku	2023/9/15
31	久山 彰一	エリアWebセミナー 座長	がん免疫療法関連 コラボWebセミナー in 山口岩国	2023/9/27
32	久山 彰一	講演 パネルディスカッション 座長	Lung Cancer Symposium Information on Proper Use	2023/10/16
33	田村 朋季	一般演題 当院におけるアテゾリズマブの使用経験について	Chugai Lung Cancer Seminar In Iwakuni	2023/10/24
34	久山 彰一	特別講演 座長	Chugai Lung Cancer Seminar In Iwakuni	2023/10/24
35	久山 彰一	座長	医療従事者セミナー 医療従事者が知っておきたい「がんと就労」の問題	2023/10/28
36	久山 彰一	特別講演1 座長	第39回山口県呼吸器セミナー	2023/11/9
37	久山 彰一	特別講演 座長	岩国内科会 学術講演会	2023/11/10
38	久山 彰一	講演 座長	山口東部 肺がん講演会	2023/11/15
39	久山 彰一	keynote speech 座長	岩国地区喘息治療講演会	2023/11/24
40	久山 彰一	パネルディスカッション パネリスト	山口県肺がん合同講演会	2023/12/14
41	久山 彰一	総合司会	RAINBOW Conference	2023/12/19

42	久山 彰一	特別講演 座長	Clinical Lung Cancer Seminar in Iwakuni2024	2024/1/16
43	久山 彰一	テーマ別グループディスカッション ファシリテーター	Chugai Lung Cancer Practice Seminar	2024/2/10
44	田村 朋季	講演 1 次世代シーケンサー (NGS)に最適な組織検体採取から検体取扱 について	肺がん診療Seminar 検査から複合免疫療法の最先端を考える	2024/2/13
45	久山 彰一	講演 1 座長	山口県間質性肺炎講演会	2024/2/16
46	西井 和也	ディスカッション 抗線維化薬の使い方 ILDクリニカルクエスト	山口県間質性肺炎講演会	2024/2/16
47	久山 彰一	Lecture 1 座長	Lung Cancer Webinar	2024/3/11
48	久山 彰一	パネルディスカッション 肺がん免疫治療に関するディスカッション 座長	肺がん免疫治療講演会	2024/3/13
49	久山 彰一	肺がんにおけるIrAEマネジメント	基礎から解説！肺癌IrAEマネジメント	2024/3/15
50	久山 彰一	IrAEに関する話題 悪性腫瘍治療に伴うサイトカイン放出症候群を中心に	中外eセミナー on Lung Cancer	2024/3/19
51	久山 彰一	特別講演 2 座長	State of the Art Combination Therapy for NSCLC	2024/3/28

循環器内科

1	和田 匡史	septal ORTとAVNRTの鑑別所見としてのorthodromic His captureをきれいに描出できた一例	第30回 中国四国不整脈研究会	2023/4/8
2	高山 伸	重症臨床症状を来したS字状中隔3例における特徴的な心エコー所見	第9回日本心筋症研究会	2023/5/13
3	野坂 未公音	ドキソルビシン投与半年後に 著明な心機能低下をきたし、低心拍出症候群に至った一例	第9回日本心筋症研究会	2023/5/13
4	高山 伸	β 遮断薬が著効した失神を契機に診断に至ったS字状中隔による左室流出路狭窄の一例	第128回日本内科学会中国地方会	2023/5/21
5	岡野 宏哉	動悸症状を契機に甲状腺機能異常を指摘され診断に至った、急性うっ血性心不全を伴う甲状腺クリーゼの一例	第122回日本循環器学会 中国・四国合同地方会	2023/6/3
6	赤井 弘明	総腸骨動脈に留置したステントの一部が千切れて大腿動脈まで飛んでいた一例	第122回日本循環器学会 中国・四国合同地方会	2023/6/4
7	村田 憲郁	肺胞出血のため入院となりアミオダロンの関与が疑われた1例	第122回日本循環器学会 中国・四国合同地方会	2023/6/4
8	松尾 啓太	恒久的ペースメーカー留置後早期に心機能低下を来しシンサルコイドーシスと診断し得た一例	第122回日本循環器学会 中国・四国合同地方会	2023/6/3

9	村田 有里恵	A report of four cases with ST-segment elevation related to catheter ablation.	第69回 日本不整脈心電学会学術大会	2023/7/6
10	和田 匡史	Identification of epicardial connections before pulmonary vein isolation; favorable impact on success for first-pass pulmonary vein isolation.	第69回 日本不整脈心電学会学術大会	2023/7/6
11	村田 有里恵	A report of four cases with ST-segment elevation related to catheter ablation.	第69回 日本不整脈心電学会学術大会	2023/7/8
12	高山 伸	Annual Trends of Door-To-Balloon Time of STEMI before and after Introduction of COVID-19 Rapid Genetic Test	第31回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT 2023)学術集会	2023/8/4
13	赤井 弘明	Impact of grid strength and calf circumference on walking performance after endovascular therapy in patients with lower extremity artery disease	第31回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT 2023)学術集会	2023/8/5
14	赤井 弘明	高度石灰化を伴う両側の浅大腿動脈閉塞に対してそれぞれ異なるアプローチでワイヤー通過に成功した1例	第29回日本心血管インターベンション治療学会 中国四国地方会	2023/9/2
15	高山 伸	Tip Detection techniqueでガイドワイヤー通過に成功した分岐部ACSの1例	第29回日本心血管インターベンション治療学会 中国四国地方会	2023/9/2
16	越智 正彦	当院にて初回PCIを受けた90歳以上の超高齢者について、CONUT scoreを用いて予後を検討した	第29回日本心血管インターベンション治療学会 中国四国地方会	2023/9/2
17	松尾 啓太	高度石灰化を伴う右腸骨動脈閉塞病変に対しBADFORM techniqueが有用であった一例	第29回日本心血管インターベンション治療学会 中国四国地方会	2023/9/2
18	片山 祐介	Excimer LASER Coronary Atherectomy	第29回日本心血管インターベンション治療学会 中国四国地方会	2023/9/3
19	村田 有里恵	非典型的なエコー所見を呈したアスペルギルス性感染性心内膜炎の一例	日本超音波学会第59回中国地方会学術集会	2023/9/2
20	吉山 大貴	A Case of Aggressive Aspergillus Endocarditis with Atypical Echocardiogram Findings	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20
21	高山 伸	リードレス・ペースメーカー植込み後急性期に閾値上昇を認めましたが、自然経過で改善しデバイス抜去・再留置を回避しえた一例	第3回日本不整脈心電学会 中国・四国地方会	2023/10/28
22	村田 有里恵	神経調節性失神に対し、CTガイド下の上大静脈周囲自律神経叢アブレーションが有効であった一例	第3回日本不整脈心電学会 中国・四国地方会	2023/10/28
23	松尾 啓太	肺静脈隔離後のgap間リエントリー性心房頻拍の回路同定に単発期外刺激での検討が有用であった一例	第3回日本不整脈心電学会 中国・四国地方会	2023/10/28
24	村田 有里恵	神経調節性失神に対し、CTガイド下の上大静脈周囲自律神経叢アブレーションが有効であった一例	第3回日本不整脈心電学会 中国・四国地方会	2023/10/28
25	村田 有里恵	重症心不全を伴う重症大動脈弁狭窄症にTAVIへのBridge therapyとしてBAVを施行し、救命し得た一例	第123回日本循環器学会中国地方会	2023/11/18
26	高山 伸	デバイス植込み亜急性期・慢性期に、リード穿孔に起因すると思われる心嚢液貯留を認めた2例	第123回日本循環器学会中国地方会	2023/11/18

27	田村 遼	収縮性心膜炎として非典型的な経過をたどったが、2回目の心臓超音波検査とカテーテル検査で診断に至った一例	第123回日本循環器学会中国地方会	2023/11/18
28	越智 正彦	当院にて初回PCIを受けた90歳以上の超高齢者について、CONUT法を用いて予後を検討した	第123回日本循環器学会中国地方会	2023/11/8
29	秦 さくら	完全房室ブロックに対しペースメーカー挿入後、約5ヶ月の短期間でペースメーカー誘発性心筋症に至った一例	第123回日本循環器学会中国地方会	2023/11/18
30	村田 憲郁	冠動脈起始異常と上行大動脈の拡大を合併した、先天性大動脈二尖弁を伴う最重症大動脈弁狭窄症の一例	第123回日本循環器学会中国地方会	2023/11/18
31	田中 真之	梅毒性大動脈炎から上行大動脈瘤を来した一例	第123回日本循環器学会中国地方会	2023/11/18
32	越智 正彦	Directional Coronary Atherectomyによってsub-intima trackingを修正しえたLAD-CTOの一例	CSL-Kurashiki 2024	2024/2/23
33	濱崎 楓子	A Case of Pacemaker Cardiomyopathy Thought to Trigger a Recurrence of Primary Effusion Lymphoma-like Lymphoma due to Fluid Accumulation	第88回日本循環器学会学術集会	2024/3/9
34	吉山 大貴	A Case of Aggressive Aspergillus Endocarditis with Atypical Echocardiogram Findings	第88回日本循環器学会学術集会	2024/3/10
35	村田 憲郁	A lesson from a rare case of acquired hemophillia A in an 86 year-old man on Edoxaban	第88回日本循環器学会学術集会	2024/3/10
36	片山 祐介	エキシマレーザー基本操作	第9回ACE Club研究会	2023/11/10
37	越智 正彦	右冠動脈のPCIに苦慮した1例	第9回ACE Club研究会	2023/11/10
38	永野 友樹	当院における心嚢ドレナージを施行した27症例の臨床的検討	第122回日本循環器学会中国・四国合同地方会	2023/6/3 ~2023/6/4
39	田中 沙蘭	左室流出路狭窄を合併したたこつぼ心筋症の一例	第123回日本循環器学会中国地方会	2023/11/18
40	永野 友樹	無治療の2型糖尿病に糖尿病性ケトアシドーシスと遠位尿細管性アシドーシスによる低カリウム血症を合併し治療に難渋した一例	医学生・研修医・専攻医の日本内科学会 ことはじめ 2023東京 (第120回 日本内科学会講演会)	2023/4/15

小児科

1	椎名 豪, 守家 将平, 河村 麻衣, 古澤 陽 法, 市来 章裕, 高田 啓介, 守分 正, 尾山 貴徳	急性巣状細菌性腎炎遷延例の臨床的特徴に関する研究	第142回日本小児科学会山口地方会	2023/7/30
2	守家 将平, 椎名 豪, 河村 麻衣, 高田 啓 介, 尾山 貴徳, 藤本 剛, 守分 正	給食が苦手な女兒に認められた著明な貧血	第142回日本小児科学会山口地方会	2023/7/30

3	守分 正, 椎名 豪, 守家 将平, 河村 麻衣, 古澤 陽法, 市来 章裕, 高田 啓介, 尾山 貴徳	1歳健診の意義に関する考察	第142回日本小児科学会山口地方会	2023/7/30
4	守分 正	Rathke嚢胞破裂に伴う髄膜炎様症状と、続発した成長抑制と中枢性尿崩症	第56回日本小児内分泌学会	2023/10/19
5	守分 正, 市来 章裕, 古澤 陽法, 守家 将平, 椎名 豪, 竹谷 菜子, 高田 啓介	メチオニンアデノシル転移酵素 (MAT) 欠損症の1例	第143回日本小児科学会山口地方会	2023/12/17
6	市来 章裕, 古澤 陽法, 守家 将平, 椎名 豪, 竹谷 菜子, 高田 啓介, 守分 正	全身の皮下気腫, 縦隔気腫を認めた8歳女児例	第143回日本小児科学会山口地方会	2023/12/17
7	市来 章裕	新規NTRK1融合遺伝子が同定された乳児脳幹部低悪性度グリオーマの一例	第65回 日本小児血液・がん学会学術集会	2023/9/29 ~2023/10/1

外科

1	田中屋 宏爾	Lynch症候群における多発胃癌の傾向と対策	第29回日本遺伝性腫瘍学会	2023/6/17
2	田中屋 宏爾	家族性大腸腺腫症に対する医学的管理の個別化におけるAPC遺伝子バリエーションの有用性の検討	第78回日本大腸肛門病学会	2023/11/11
3	青木 秀樹	Clinicopathological characteristics of 25 duodenal adenocarcinoma cases	第35回日本肝胆膵外科学会学術集会	2023/6/30
4	青木 秀樹	Changes in pancreatic volume before and after pancreatic resection and postoperative fatty liver	第78回日本消化器外科学会総会	2023/7/12
5	梶岡 裕紀	肝胆膵高度技能専門医への軌跡-膵頭十二指腸切除編-	第50回岡山大学外科膵研究会	2023/12/2
6	梶岡 裕紀	腹腔鏡下胆嚢摘出時の胆管損傷症例から得られたcomplete CVSテクニック	第36回内視鏡外科学会総会	2023/12/9
7	梶岡 裕紀	Left posterior approachを用いた機能温存と定義に沿ったLN#14郭清	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/16
8	梶岡 裕紀	膵切除後の液体貯留に対する治療戦略	第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第71回日本化学療法学会西日本支部総会	2023/11/9
9	荒田 尚	皮膚筋炎に両側乳癌、肺癌を合併した重複癌の1例	第20回日本乳癌学会中国四国地方会	2023/9/22
10	鳩野 みなみ	当院の乳がんに対する乳房再建術	第128回周南医学会	2023/10/15
11	谷口 文崇	地方の一般病院においてCOVID-19流行が大腸癌手術に与えた影響	第123回日本外科学会定期学術集会	2023/4/28
12	谷口 文崇	虫垂腫瘍の臨床病理学的特徴	第99回大腸癌研究会	2023/7/7

13	谷口 文崇	ASA-PSIII以上の併存疾患を有する75歳以上高齢大腸癌患者の短期長期成績と危険因子	第78回日本消化器外科学会総会	2023/7/14
14	谷口 文崇	大腸がん再発症例の検討	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/17
15	谷口 文崇	腹腔鏡下切除を行ったStage III大腸癌の予後規定因子と補助化学療法の現状	第36回日本内視鏡外科学会総会	2023/12/9
16	谷口 文崇	岩国医療センターにおけるロボット支援下直腸手術の導入と短期成績	第128回周南医学会	2023/10/15
17	渡邊 めぐみ	腹腔鏡下噴門側胃切除術における縦隔内での上川法再建の手技の工夫	第123回日本外科学会定期学術集会	2023/4/28
18	渡邊 めぐみ	腹腔鏡下観音開き法再建における術後吻合部狭窄を防ぐ手技の工夫	第77回手術手技研究会	2023/5/12
19	渡邊 めぐみ	早期胃癌に対しclosed LECSを行った2例	第45回日本癌局所療法研究会	2023/6/2
20	渡邊 めぐみ	The significance of preservation and reconstruction of the cardia in gastrectomy for elderly gastric cancer patients	第15回国際胃癌学会 (International Gastric Cancer Congress 2023)	2023/6/15
21	渡邊 めぐみ	85歳以上の胃癌症例に対し、胃切除術を安全に行うための手術手技・周術期管理の工夫	第78回日本消化器外科学会総会	2023/7/14
22	渡邊 めぐみ	胃癌肥満症例に対する低侵襲手術の工夫	第98回中国四国外科学会総会 第28回中国四国内視鏡外科研究会	2023/9/1
23	渡邊 めぐみ	地域中核病院で胃癌手術の継承と教育をどうするか	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/17
24	渡邊 めぐみ	化学療法後の低侵襲胃癌手術における周術期管理・手術手技の工夫	第36回日本内視鏡外科学会総会	2023/12/7
25	渡邊 めぐみ	市中病院におけるロボット支援胃切除術導入時の課題と工夫	第16回日本ロボット外科学会学術集会	2024/2/10
26	渡邊 めぐみ	肥満症例に対する低侵襲胃癌手術の工夫	第96回日本胃癌学会総会	2024/2/29
27	小川 俊博	当院における80歳以上の高齢者への食道癌治療の現状	第78回日本消化器外科学会総会	2023/7/12 ~2023/7/14
28	小川 俊博	腹腔鏡下にて切除した食道癌胸骨後経路胃管再建後の胃管癌の1例	第22回EGI外科治療研究会	2023/10/14
29	小川 俊博	当院でのTEP法の導入とその短期成績	第36回日本内視鏡外科学会総会	2023/12/7 ~2023/12/9
30	三宅 英輝	閉塞性大腸癌に対するステント留置後の手術成績の検討	第78回日本消化器外科学会総会	2023/7/12 ~2023/7/14
31	三宅 英輝	外科医のワークライフバランスについて当科の取り組みと課題	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/16 ~2023/11/18

32	毛利 謙吾	肥満手術（ルーワイ胃バイパス術）後の拳上空腸に穿孔をきたし、緊急手術を行った1例	第78回日本消化器外科学会総会	2023/7/12 ～2023/7/14
33	毛利 謙吾	鼠径部に発生した良性多嚢胞性腹膜中皮腫に対し腹腔鏡補助下腫瘍摘出術を施行した1例	第36回日本内視鏡外科学会総会	2023/12/7 ～2023/12/9
34	土井田 進	腸閉塞を繰り返すS状結腸小腸瘻の一例	第36回日本内視鏡外科学会総会	2023/12/7 ～2023/12/9
35	土井田 進	Anatomical variations of the right hepatic artery and bile duct in gallbladder cancer patients	第35回日本肝胆膵外科学会学術集会	2023/6/30 ～2023/7/1
36	土井田 進	虫垂炎手術を契機に診断された虫垂腫瘍の臨床病理学的検討	第89回岡山大学医学部第一外科教室開講記念会 開講100周年記念祝賀会	2023/10/1
37	東端 政樹	フレイルチェストに対して肋骨固定術を施行した一例	第98回中国四国外科学会総会 第28回中国四国内視鏡外科研究会	2023/8/31 ～2023/9/1
38	東端 政樹	フレイルチェストに対して肋骨固定術を施行した一例	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/16 ～2023/11/18
39	岡 詠吾	術後にIgA腎症を合併した孤立性線維性腫瘍の一例	第98回中国四国外科学会総会 第28回中国四国内視鏡外科研究会	2023/8/31 ～2023/9/1
40	岡 詠吾	術後にIgA腎症を合併した孤立性線維性腫瘍の一例	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/16 ～2023/11/18
41	野坂 未公音	悪性胸膜中皮腫空腸転移の1切除例	第78回日本消化器外科学会総会	2023/7/12 ～2023/7/14
42	野坂 未公音	不妊治療中に乳癌と診断された妊娠期乳癌の1例	第20回日本乳癌学会中国四国地方会	2023/9/22 ～2023/9/23
43	野坂 未公音	乳癌晩期再発に対して胃瘻造設後に1次内分泌療法を開始した1例	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/16 ～2023/11/18
44	秦 さくら	穿孔をきたした膵癌小腸転移に対し、腹腔鏡下小腸部分切除術を行った1例	第78回日本消化器外科学会総会	2023/7/12 ～2023/7/14
45	園部 奏生	妊娠時に喀血を来し、出産後に発見された気管支カルチノイドに対して左下葉切除術を施行した一例	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/16 ～2023/11/18

胸部外科

1	近藤 薫	転移性肺腫瘍に対して胸腔鏡下右S7区域切除術を施行した一例	第81回山口県臨床外科学会	2023/6/4
2	渡邊 元嗣	区域切除症例におけるリンパ節転移陽性例の予後の検討	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	2023/7/13
3	塩谷 俊雄	開窓術後の局所陰圧療法における工夫	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	2023/7/13
4	近藤 薫	好酸球増多症候群を合併した膿胸の治療経験	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	2023/7/13
5	園部 奏生	大量喀血を起こした気管支動脈肺動脈瘻を救命しえた一例	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	2023/7/13

6	塩谷 俊雄	術後エアリークの制御を目指して－当院における工夫とその検討－	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	2023/7/14
7	古川 真一	導入化学放射線療法後の右上葉切除後に合併した肺胞出血の1例	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	2023/7/14
8	中嶋 章裕	腺癌に対しDurvalumab加療中に対側肺に増大する多形癌を認めた一例	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	2023/7/14
9	白羽 範昭	消化管縫合不全による有癭性膿胸に対しTチューブ留置が有用であった一例	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	2023/7/14
10	白羽 範昭	左下葉肺動静脈瘻に対し胸腔鏡下左S8+S9区域切除術を施行した1例	第68回中四国呼吸器学会	2023/7/15
11	岡 詠吾	術後にIgA腎症を合併した孤立性線維性腫瘍の一例	第98回中国四国外科学会	2023/8/31
12	東端 政樹	フレイルチェストに対して肋骨固定術を施行した一例	第98回中国四国外科学会	2023/8/31
13	近藤 薫	高齢者続発性気胸における術前骨格筋筋肉量評価の意義	第27回気胸・嚢胞性肺疾患学会	2023/9/8
14	渡邊 元嗣	Preoperative respiratory assessment predicts post-operative survival in stage IA non-small cell lung cancer.	World Conference on Lung Cancer 2023, Singapore	2023/9/9
15	塩谷 俊雄	さらなる低侵襲手術を目指して－当科における単孔式手術の導入とその実際－	第128回周南医学会	2023/10/15
16	塩谷 俊雄	続発性自然気胸手術症例におけるサルコペニアの検討	第76回日本胸部外科学会定期学術集会	2023/10/19
17	塩谷 俊雄	高齢者非小細胞肺癌臨床病期Ⅰ期に対する解剖学的肺切除後予後予測因子の検討	第64回日本肺癌学会学術集会	2023/11/3
18	園部 奏生	妊娠時に喀血を来し、出産後に発見された気管支カルチノイドに対して左下葉切除術を施行した一例	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/16
19	岡 詠吾	術後にIgA腎症を合併した孤立性線維性腫瘍の一例	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/16
20	東端 政樹	フレイルチェストに対して肋骨固定術を施行した一例	第85回日本臨床外科学会総会	2023/11/16
21	近藤 薫	転移性肺腫瘍に対して胸腔鏡下右S7区域切除術を施行した一例	第36回日本内視鏡外科学会総会	2023/12/7
22	近藤 薫	高齢者続発性気胸における術前骨格筋筋肉量評価の意義	第28回岡山大学外科MCセミナー	2024/2/10
23	近藤 薫	PACIFICレジメンによる治療後にサルベージ右S6区域切除術を行い、術後合併症に難渋した一例	第33回山口県呼吸器外科研究会	2024/3/16

整形外科

1	渡辺 益宣	外傷性屈筋腱断裂術後に早期良肢位を獲得できるKleinert装具の試案	第29回日本最小侵襲整形外科学会	2023/11/4
2	村岡 聡介	腰椎化膿性椎間板炎が頸椎と隣接椎体に波及した1例	第29回日本最小侵襲整形外科学会	2023/11/3

形成外科

1	濱田 龍正	前腕遠位部外傷を前骨間動脈反回枝穿通枝皮弁で加療した2例	第15回日本創傷外科学会総会・学術集会	2023/7/13 ~2023/7/14
---	-------	------------------------------	---------------------	-------------------------

脳神経外科

1	柿本 昂佑樹	神経機能を温存し腕神経叢神経鞘腫を摘出できた1例	第136回山口県脳神経外科談話会	2023/6/3
2	柿本 昂佑樹	経頭蓋と直接刺激運動誘発電位の併用が神経機能温存に有用であった腕神経叢神経鞘腫摘出術の1例	中国四国脊髄外科学研究会	2023/7/8
3	柿本 昂佑樹	医療者間コミュニケーションアプリを用いた消防・当院救急との連携	Stroke Expert Meeting For PSC Core Vol.3	2023/11/14
4	柿本 昂佑樹	気管切開後の気管腕頭動脈瘻に対してcovered stent留置で止血を得た1例	第57回岡山大学脳神経外科同門会	2023/11/18
5	廣瀬 安章	L2/3から頭側へ逸脱した椎間板ヘルニアに対してtrans-isthmic approachでヘルニア摘出術を行った1例	第20回 中国四国脊髄外科学研究会	2023/12/16
6	大塚 真司	ガンマナイフ治療後に嚢胞形成を来した再発性髄膜腫に対して内視鏡下腫瘍摘出術を行った1例	第30回日本神経内視鏡学会	2023/11/16
7	小谷 勇人	術後遅発性に内分泌機能障害を来したラトケ嚢胞の1例	第137回山口県脳神経外科談話会	2024/1/20
8	荻原 浩太郎	前方固定術を行った伸展-伸延損傷に伴うC6 tear drop fractureの1例	第38回日本脊髄外科学会	2023/6/1
9	馬場 芙希子	岩国医療センターの血栓回収の現状	Stroke Expert Meeting For PSC Core Vol.2	2023/6/6
10	荻原 浩太郎	医師の働き方改革 -当院当科の取り組み-	第57回岡山大学脳神経外科同門会	2023/11/18
11	馬場 芙希子	既知の脊椎疾患悪化が疑われ、診断が遅れた脊髄梗塞の1例	第96回(一社)日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会	2023/12/2
12	廣瀬 安章	診断を誤った頸髄背側硬膜外膿瘍の1例	第95回(一社)日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会	2023/4/1
13	伊丹 尚多	血栓回収術後の転帰不良群 (Futile recanalization) に関連する因子の検討	第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会	2023/11/23

心臓血管外科

1	小川 達也	腸管虚血を伴った急性大動脈解離StanfordAに上腸間膜動脈バイパス術、ICG蛍光法による血流評価が有効であった一例.	第53回日本血管外科学会中国四国地方会	2023/5/27
2	吉田 文哉	抗菌薬加療後に人工血管置換術を施行した梅毒性胸部大動脈瘤の1例.	第68回広島循環器病研究会	2023/12/9

皮膚科

1	池田 賢太	岩国医療センターで10年間診療している臀部悪性黒色腫の一例	第38回 島根地方会	2024/3/10
---	-------	-------------------------------	------------	-----------

泌尿器科

1	中田 哲也	NHO岩国医療センターにおける進行尿路上皮癌に対するペムブロリズマブによるセカンドライン治療の臨床的検討	第110回日本泌尿器科学会総会	2023/4/20
2	寺本 友真	エリスロポエチン産生腎細胞癌の1例	第335回日本泌尿器科学会岡山地方会	2023/5/20
3	中田 哲也	骨盤臓器脱に対するロボット支援仙骨脛固定術後の排尿状態の変化	第25回日本女性骨盤底医学会	2023/8/5
4	中田 哲也	キイトルーダ/レンビマの使用経験と臨床での位置づけ	山陽泌尿器腫瘍セミナー	2023/8/25
5	寺本 友真	Intraductal carcinoma of the prostate(IDC-P)を合併した前立腺癌と診断された4例	第75回西日本泌尿器科学会総会	2023/11/3
6	中田 哲也	前立腺がん診療と当院でのロボット支援手術の紹介	岩国メディカルセミナー	2023/9/2
7	藤井 孝法	手術単独療法で治療した前立腺平滑筋肉腫の1例	第75回西日本泌尿器科学会総会	2023/11/3
8	寺本 友真	虹彩転移をきたした尿路上皮癌の1例	第3347回日本泌尿器科学会岡山地方会	2023/12/9

産婦人科

1	栗山 千晶	硫酸マグネシウムによる当院での切迫早産治療の転帰	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	2023/5/12 ~2023/5/14
2	谷岡 桃子	妊産婦死亡報告事業により診断に至った妊産婦オウム病の一例	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	2023/5/12 ~2023/5/14
3	兼森 美帆	子宮平滑筋肉腫が頭頂部皮膚転移した一例	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	2023/5/12 ~2023/5/14
4	中村 一仁	当院における、婦人科がんゲノムの現状について	婦人科がんゲノムスタートアップセミナー	2023/5/29
5	杉井 裕和	今日から始める！婦人科領域のがんゲノム検査とその役割	婦人科がんゲノムスタートアップセミナー	2023/5/29
6	兼森 美帆	シングルマザーの周産期管理目的の入院中に、前夫の虐待から上の子を保護することに苦慮した症例	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	2023/7/9 ~2023/7/11

7	杉井 裕和	里帰り分娩でのリトドリン塩酸塩内服症例の転帰	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	2023/7/9 ～2023/7/11
8	中村 一仁	分娩医の違いによる分娩時出血量の違いについての検討	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	2023/7/9 ～2023/7/11
9	杉井 裕和	実臨床におけるPOP手術-消費者のニーズとSDGsの検討- 骨盤臓器脱患者の受診経路と転帰に関する検討	日本女性骨盤底医学会第25回学術集会	2023/8/5 ～2023/8/6
10	杉井 裕和	Real World Experience進行卵巣癌初回治療	Ovarian Cancer Online Conference ～PARPi Real World Experience～	2023/8/18
11	中村 一仁	妊娠中に化学療法を行い、児に房室中隔欠損及び胎児発育不全を認めた一例	第72回広島新生児研究会	2023/11/25
12	杉井 裕和	子宮頸管長スクリーニングは早産率低下に寄与しているのか?- 過剰診断の検討-	第16回日本早産学会学術集会	2023/12/9
13	杉井 裕和	Tocolysis,再考,the 2nd. 過剰診断 -日本の医療を日本化する-	第16回日本早産学会学術集会	2023/12/9
14	椎名 豪	腕頭動脈から分岐した左総頸動脈より気管孔へ出血した18トリソミーの一例	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	2023/7/9 ～2023/7/11

救急科

1	平田 祐太郎	当院におけるPOCUS教育実施と効果	第15回日本ポイントオブケア超音波学会学術集会	2023/7/15
2	平田 祐太郎	看護師へのフィジカルアセスメント教育の一つとしてPOCUS導入を目指す	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20
3	平田 祐太郎	地方急性期病院のRST活動において診療看護師の役割が認識された1例	第9回日本NP学会学術集会	2023/10/21
4	平田 祐太郎	当院におけるICU看護師へのPOCUS教育プログラムの作成の検討	第51回日本救急医学会総会・学術集会	2023/11/30
5	平田 祐太郎	地方急性期病院のRST導入において診療看護師がもたらす効果	第51回日本集中治療医学会学術集会	2024/3/15
6	宮内 崇	病理解剖することで診断に至った妊娠オウム病の一例	第51回日本救急医学会総会・学術集会	2023/11/29
7	倉田 侃太	CTで早期診断に至った、頸髄硬膜外血腫によりCO ₂ ナルコースをきたした一例	第51回日本救急医学会総会・学術集会	2023/11/28 ～2023/11/30

放射線科

1	矢吹 隆行	気管支動脈肺動脈瘻の一例	第83回 岡山血管造影・Interventional Radiology研究会	2023/6/17
2	矢吹 隆行	大網仮性動脈瘤の一例	第36回中国四国IVR研究会	2023/10/6
3	櫻井 淳暢	門脈壁に腫瘤性病変を形成したIgG4関連疾患の一例	第139回日本医学放射線学会 中国・四国地方会	2023/12/8

麻酔科

1	市瀬 仁	APL弁の異常により著しい麻酔回路リークが発生した一例	日本麻酔科学会 第70回学術集会	2023/6/2
2	市瀬 仁	手術中に1000ml以上の胃管排液を認めたガストリノーマの一例	日本麻酔科学会 中国・四国支部第60回学術集会	2023/9/9

病理診断科・臨床検査科

1	齋藤 真奈美	腺癌様の細胞成分を伴う子宮頸部乳頭状扁平上皮癌の一例	第77回国立病院総合医学会	2023/10/21
2	村本 将太	膵管癌におけるFoamy gland patternを示す細胞の診断意義と細胞学的特徴	第11回国立臨床検査協会中国四国支部学会	2023/9/2

薬剤部

1	梶原 敬悟	黄色ブドウ球菌菌血症に対する薬剤師のAST専任による介入効果の検証	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20
2	竹口 真央	TAZ/PIPC投与におけるPT-INR値に対する影響についての調査	第77回国立病院総合医学会	2023/10/21
3	梶原 敬悟	高齢者におけるCKDステージ4～5患者に対するARBの適正使用調査	第17回日本腎臓病薬物療法学会学術集会	2023/10/28
4	河田 武志	持続的血液濾過透析（CHDF）導入下でのVCMにおける投与設計支援	第17回日本腎臓病薬物療法学会学術集会	2023/10/29
5	荒神 一博	カペンタピンによる手足症候群発現に及ぼすプロトンポンプ阻害剤の影響について	第33回日本医療薬学会年会	2023/11/3
6	佃 美穂	免疫チェックポイント阻害薬投与患者における好中球・リンパ球比及び血小板・リンパ球比と免疫関連有害事象発現の関連性調査	第33回日本医療薬学会年会	2023/11/3
7	西本 凜	強オピオイド鎮痛薬開始と同時にナルデメジンを導入することによる下痢の発現頻度への影響調査	第33回日本医療薬学会年会	2023/11/4
8	竹口 真央	TAZ/PIPC投与におけるPT-INR値に対する影響についての調査	第33回日本医療薬学会年会	2023/11/4

放射線科(技師)

1	石脇 清史	模擬試験 計算問題	令和5年度 放射線治療専門放射線技師認定試験対策講習会	2023/7/22
2	石脇 清史	乳房温存放射線治療の概要と当院での照射について	第43回山口県放射線治療研究会	2023/9/9
3	木村 浩二	タスク・シフト/シェア（施設報告）	第36回ひろしま核医学技術検討会	2023/11/18
4	八木 駿明	放射線測定器の点検・校正について	令和5年度 第1回岩国地域講習会	2023/11/27

5	木村 浩二	画像等手術支援認定診療放射線技師認定試験について	令和5年度 第1回岩国地域講習会	2023/11/27
6	定岡 大祐	CT 部門におけるCOVID-19対応の変遷	令和5年度 診療放射線部門における新型コロナウイルス感染症対応セミナー	2023/12/14
7	一ノ瀬 拓実	JOIN導入における当院の脳卒中治療ワークフローの改善	第39回広島県医療情報技師会	2024/1/20
8	灘 尊則	福島第一原発の現状	福島第一原発視察報告会	2024/1/25
9	一ノ瀬 拓実	HIS・RIS管理	第7回PACS Administratorセミナー	2024/2/10

リハビリテーション科

1	田坂 優騎	大腿骨骨幹部骨折による髓内釘述語の膝関節屈曲可動域に影響する要因	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20
2	高橋 賢祐	脳卒中患者の足関節背屈機能に対するミラーセラピーの効果	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20
3	島田 颯斗	リズムコントロール不良の心房細動や感染症によって歩行時にバランス機能が低下した患者に対し、タオルギャザーが有効であった1例	第77回国立病院総合医学会	2023/10/21
4	島田 颯斗	心房細動や感染症によって歩行時にバランス機能が低下した患者に対し、タオルギャザーが有効であった1例	日本心臓リハビリテーション学会第9回中国支部地方会	2023/11/18
5	佐藤 善信	TMVを使用している神経筋疾患患者におけるMI-Eが呼吸メカニクスに与える効果	第77回国立病院総合医学会	2023/10/21
6	佐藤 善信	TMVを使用している神経筋疾患患者におけるMI-Eが呼吸抵抗に与える効果	第33回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	2023/12/1
7	川北 妃呂恵	『職場環境適応プログラム』の試行～転入者も働きやすい職場を目指して～	第77回国立病院総合医学会	2023/10/21
8	瀧川 朋代	左側頭葉脳出血により感覚性失語を呈した非右手利きの一症例	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20
9	渡邊 理加	出血性脳梗塞発症後に両側性に脳出血を繰り返し理学療法に難渋した一例	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20

看護部

1	上成 敏爾	A病院におけるCOVID-19クラスターの発生状況とその対応	第38回日本環境感染学会	2023/7/22
2	上田 佳奈	在日外国人A Y A世代の患者への支援の一例	第3回 JACS-NEXT中国四国セミナー 多職種合同呼吸器外科カンファレンス	2023/6/17
3	上田 佳奈	最新の乳がん治療と看護に求められること～「自分らしい暮らし」を支える～ 第3部 併存疾患を持つ乳がん患者への有害事象対策に対する支援（シンポジウム）	第21回日本乳癌学会近畿地方会	2023/11/25

4	上田 佳奈	がん診療連携拠点病院の専門・認定看護師を対象とした妊娠期がん患者の受診の実態調査	第61回日本癌治療学会学術集会	2023/10/20
5	上田 佳奈	医療従事者セミナー@岡山 「がんと就労」の問題	日本肺癌学会	2023/10/28
6	上田 佳奈	A施設の看護師のスペシャリストへのキャリアアップの意向	第38回日本がん看護学会学術集会	2023/2/24 ～2023/2/25
7	上田 佳奈	看護師長におけるACPの認識と実践	第38回日本がん看護学会学術集会	2023/2/24 ～2023/2/25
8	澤原 菜由	超緊急帝王切開に対応するための学習方法の検討	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20 ～2023/10/21
9	瀧野 祐一	ロボット支援下前立腺全摘除去術後の排便時の姿勢の工夫 －足台を用いた前屈姿勢の効果について－	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20 ～2023/10/21
10	橋本 さつき	勤務予定表作成を通じた看護管理遂行度の変化の検討 －副看護師長として身につける看護管理能力に着目して－	第21回国立病院看護研究学会学術集会	2023/12/2
11	妹尾 友美	急性期病院の看護師長・副看護師長の学習ニーズ・教育ニーズの分析 －看護管理者の教育プログラム構築に向けて－	第21回国立病院看護研究学会学術集会	2023/12/2
12	田村 愛美	病棟看護師の手術室看護師に対するイメージと手術患者の利益の要因検討	第23回山口県看護研究学会	2024/3/2
13	平田 祐太郎	当院におけるPOCUS教育実践と効果	第15回日本ポイントオブケア超音波学会学術集会	2023/7/15 ～2023/7/16
14	平田 祐太郎	看護師へのフィジカルアセスメント教育の1つとしてPOCUS導入を目指す	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20 ～2023/10/21
15	平田 祐太郎	地方急性期病院のRST活動において診療看護師（NP）に期待される役割とその効果	第9回日本NP学会学術集会	2023/10/20 ～2023/10/22
16	逆井 佳子	一般演題 3 「看護②」	第91回日本消化器内視鏡技師学会	2023/11/4
17	平田 祐太郎	当院におけるICU看護師へのPOCUS教育プログラム作成の検討	第51回日本救急医学会総会・学術集会	2023/11/28 ～2023/11/30
18	妹尾 友美	急性期病院の看護師長・副看護師長の学習ニーズ・教育ニーズの分析 －看護管理者の教育プログラム構築に向けて－	第21回国立病院看護研究学会 学術集会	2023/12/2
19	森田 千春	シミュレーション教育体験による基礎看護学実習におけるチームワークへの影響	第19回中国四国地区国立病院機構・国立療養所 看護研究学会	2023/9/9
20	高下 智香子	学校教育 6-6	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20 ～2023/10/21
21	田窪 香織	臨床判断を強化するシミュレーション教育体験が臨地実習に及ぼす影響	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20 ～2023/10/21
22	小林 裕子	住み慣れた地域での暮らしを支えるとは-地域・在宅看護論実習Iでの体験における看護学生の学び-	第77回国立病院総合医学会	2023/10/20 ～2023/10/21

【 研 究 一 覽 】

4. 特定臨床研究一覧（課題名、研究母体、責任医師）

呼吸器内科

1	HeaT ON BeaT	EGFR遺伝子変異陽性 再発・進行非小細胞肺癌患者対象のAfinitinib またはOsimertinibを一次治療とした無作為化非盲検第II相試験	帝京大学医学部附属病院 内科学講座	久山 彰一
2	ACHILLES 試験 /TORG1834	Sensitizing EGFR uncommon mutation 陽性未治療非扁平上皮非小細胞肺癌に対するAfinitinib とChemotherapy を比較する第III相試験	新潟県立がんセンター 新潟病院	久山 彰一
3	OLCSG 2002 EPAS試験	71歳以上の化学療法未治療進展型小細胞肺癌患者を対象とした、カルボプラチン、エトポシド、アテゾリズマブの併用投与（CBDCA/ETP/Atezo療法）の有効性及び安全性を検討する国内第II相試験	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
4	TORG1938 EPONA study	中枢神経系への転移を有するEGFR 遺伝子変異陽性の患者でオシメルチニブが無効となった患者に対して、白金製剤+ペメトレキセドと白金製剤+ペメトレキセド+オシメルチニブの比較試験	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	久山 彰一
5	LOGIK2002 RESTART	腎機能低下進行非扁平上皮非小細胞肺癌を対象としたカルボプラチン+nab-パクリタキセル+アテゾリズマブ併用療法の第II相試験	九州大学病院呼吸器科	久山 彰一
6	NHO-Pembro- NSCLC	PD-L1発現50%以上の非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペムブロリズマブ単剤とペムブロリズマブ+カルボプラチン+ペメトレキセド併用療法のランダム化第3相試験	名古屋医療センター 呼吸器内科・腫瘍内科	久山 彰一
7	RELAY Effusion	胸水合併EGFR遺伝子変異陽性進行再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するエルロチニブ+ラムシルマブの単群第II相試験 -RELAY-Effusion-	大阪公立大学医学部附属 病院 呼吸器内科	久山 彰一
8	免疫グロブリン療法 (IVIg)	特発性肺線維症急性増悪における免疫グロブリン療法の有効性の検討	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
9	LOGIK2102 (FINE TUNE)	TTF-1陰性の進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+nab-パクリタキセル+アテゾリズマブ併用療法の第II相試験	九州大学病院呼吸器科	久山 彰一
10	OLCSG 2101 (GJG-trial)	パクリタキセルを含む化学療法における化学療法誘発性末梢神経障害に対する牛車腎気丸の予防投与の有効性を検討する非盲検無作為化第II相試験	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
11	LOGIK2301 (RELIANCE)	高齢者完全切除II/III期非小細胞肺癌に対するAtezolizumab術後補助療法の臨床第II相試験	北九州市立医療センター 呼吸器外科	久山 彰一
12	LOGIK2201 (BRAVES study)	脳転移を有するALK陽性進行非小細胞肺癌に対するブリグチニブの第II相試験	北里大学病院 呼吸器内科	久山 彰一

循環器内科

1	STOPDAPT-2	エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後のDAPT期間を1ヶ月に短縮することの安全性を評価する研究	京都大学大学院 医学研究科	片山 祐介
---	------------	--	------------------	-------

2	STOPDAPT-2 ACS	急性冠症候群に対するエベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤2剤併用療法(DAPT)期間を1ヵ月に短縮することの安全性を評価する研究	京都大学大学院 医学研究科	片山 祐介
3	OPTIVUS	OPTIVUS-Complex PCI : Optimal Intravascular Ultrasound Guided Complex Percutaneous Coronary Intervention study (至適な血管内超音波ガイド経皮的冠動脈インターベンションの複雑性病変における臨床経過を評価する前向き観察研究)	京都大学大学院 医学研究科	片山 祐介
4	GOREISAN-HF	うっ血性心不全(心性浮腫)患者における五苓散追加投与の浮腫に対する有効性を検証する研究	一般財団法人 生産開発科学研究所	川本 健治

外科

1	JFMC46-1201	再発危険因子を有するStage II 大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究	東海大学医学部 附属病院	青木 秀樹
2	PARADIGM study	RAS 遺伝子 (KRAS/NRAS 遺伝子) 野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対するmFOLFOX6 + ベバシズマブ併用療法とmFOLFOX6 + パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第III相無作為化比較試験	国立がん研究センター 東病院	田中屋 宏爾

消化器内科

1	cAIM study	インジゴカルミンと酢酸インジゴカルミン混合液(AIM)の右側結腸の大腸鋸歯状病変診断における有用性を探索する多施設共同オープンラベル単盲検ランダム化並行群間比較試験	岡山大学病院 光学医療診療部	田中 彰一
2	J-FAPP Study V	家族性大腸腺腫症患者への低用量アスピリンによる単一介入臨床試験	京都府立医科大学附属病院 消化器内科	田中屋 宏爾
3	BRAVE study	高度肝門部悪性胆管狭窄に対する金属ステントを用いた両葉2領域と3領域ドレナージの多施設共同無作為化比較試験	岡山大学病院 光学医療診療部	石原 裕基

産婦人科

1	PPP Trial	プロバイオティクスの自然早産予防効果を評価する多施設共同オープンラベル試験	富山大学 産科婦人科医局	杉井 裕和
---	-----------	---------------------------------------	--------------	-------

5.臨床研究一覧(課題名、研究母体、責任医師)

呼吸器内科

1	LC-SCRUM-Advantage/MRD	肺癌における周術期個別化医療の確立を目指した遺伝子スクリーニングと微小残存病変のモニタリングのための多施設共同前向き観察研究	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	久山 彰一
2	LC-SCRUM-Asia	アジア人の非小細胞肺癌における 個別化医療の確立を目指した、 遺伝子スクリーニング と モニタリングのための多施設共同前向き観察研究	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	久山 彰一
3	LC-SCRUM-TRY	非小細胞肺癌における薬物治療耐性後 の個別化医療の確立を目指した、 遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究	国立がん研究センター東病院 呼吸器内科	久山 彰一
4	SCRUM-Japan Regisrty	SCRUM-Japan疾患レジストリを活用した新薬承認審査時の治験対照群データ作成のための前向き多施設共同研究	国立がん研究センター東病院	久山 彰一
5	NEJ031	食欲不振を呈する進行肺癌患者に対する異なる用量のステロイド療法の有効性と安全性を検討する無作為化第II相試験	東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野	久山 彰一
6	CS-Lung Rare	希少な呼吸器疾患の診療実態及び治療の有用性を明らかにするための前向き観察研究	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
7	DILD-FeNO	薬剤性肺障害の診断や予後予測とFeNOの相関性の解析	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
8	Lorlatinib	血漿中DNAによるロルラチニブの効果予測に関する研究	近畿大学医学部 外科学講座 呼吸器外科部門	久山 彰一
9	COVID-19 Registry	COVID-19に関するレジストリ研究	国立研究開発法人 国立国際医療 研究センター	久山 彰一
10	NEJ058A	悪液質を伴う非小細胞肺癌に対するアナモレリン+免疫チェックポイント阻害薬(イピリムマブ+ニボルマブ)の第II相試験	春日部市立医療センター 呼吸器内科	久山 彰一
11	J-CURE	切除後の非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ術後補助療法の多機関共同前向き観察研究	イーピーエス株式会社	久山 彰一
12	NEJ050B	悪液質合併未治療進行非小細胞肺癌においてアナモレリンが初回化学療法の経過に与える影響を検討する前向き観察研究	順天堂大学 呼吸器内科 静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科	久山 彰一
13	リフヌア	間質性肺疾患に伴う難治性の慢性咳嗽に対するゲーファピキサントの有効性と安全性の検討	岡山大学病院	久山 彰一
14	R5-NHO(癌呼)-01	肺癌を対象としたDeep learningによる腸内細菌叢に着目した革新的癌免疫療法効果予測システムの確立	国立病院機構九州がんセンター	久山 彰一
15	ALK後ろ向き	ALK融合遺伝子変異陽性非小細胞肺癌における早期耐性患者の特徴を明らかにするための後ろ向きコホート研究	岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科	久山 彰一
16	ニボルマブ単剤後ろ向き	ニボルマブ単剤治療を受けた非小細胞肺癌患者の観察研究	松阪市民病院 呼吸器センター 呼吸器内科	久山 彰一
17	OPD観察研究/OLCSG2302	術後再発または根治的CRT不能III期またはIV期の非小細胞肺癌(NSCLC)で初回化学療法としての免疫チェックポイント阻害剤(ICI)±細胞障害性抗がん剤(chemo)治療の治療有効例の臨床的背景とその経過を検討する後ろ向き観察研究	国立病院機構 四国がんセンター 呼吸器内科	久山 彰一
18	EGFR早期耐性	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌におけるオシメルチニブ早期耐性、長期奏効患者の特徴を明らかにするための後ろ向きコホート研究	岡山大学病院	久山 彰一

循環器内科

1	ベルイシグアトレジストリー	ベルイシグアトレジストリー多施設共同前向き観察研究	岡山大学病院	片山 祐介
---	---------------	---------------------------	--------	-------

胸部外科

1	IP気胸 (H31-NHO(呼吸)-01) NHOネットワーク共同研究	間質性肺疾患に合併した気胸症例における治療方針と治療成績の前向きリアルワールドデータ調査	東広島医療センター	渡邊 元嗣
2	6分間歩行試験 (R5-NHO(PI)-07) NHOネットワーク共同研究	末梢小型肺癌に対する肺葉切除と区域切除の侵襲を反映する新規指標に関する多機関共同前向き観察研究	国立病院機構 沖縄病院	渡邊 元嗣

全科共通

1	肺炎桿菌	肺炎桿菌と溶血性レンサ球菌の薬剤耐性、病原性、及び関連患者予後因子に関する全国サーベイランス	国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター	守分 正
---	------	--	---------------------	------

6.院内研究一覧（研究課題名、所属、研究者）

1	ICG蛍光法を用いた胆管血流評価による胆管狭窄の予防 －術前免疫栄養指標は短期・長期予後因子になり得るか－	外科	梶岡 裕紀
2	術前に胆管炎発症後に臍頭十二指腸切除を行った症例に対する至適周術期抗生剤の選択	外科	梶岡 裕紀
3	肝切除の手技の定型化とEnhanced recovery after surgeryによる周術期管理の有用性	外科	梶岡 裕紀
4	当院にて急性冠症候群または急性心不全入院中に経皮的冠動脈形成術(PCI)を受けた90歳以上の超高齢者について、CONUT法を用いて予後予測を行う	循環器内科	越智 正彦
5	気管切開下陽圧換気を使用している神経筋疾患患者の肺と胸郭の拡張性に与える深吸気療法の効果	リハビリテーション科	佐藤 善信
6	気管切開下陽圧換気を使用している神経筋疾患患者のMIE exsufflation flowsに影響を及ぼす因子	リハビリテーション科	佐藤 善信
7	区域切除症例におけるリンパ節転移陽性例の予後の検討	胸部外科	渡邊 元嗣
8	Robot-Assisted Thoracoscopic Surgery(RATS)導入の検討	胸部外科	渡邊 元嗣
9	Stage I A肺癌手術症例における術前呼吸機能と術後予後の検討	胸部外科	渡邊 元嗣
10	遺伝性腫瘍のサーベイランスに関する研究	外科	鳩野 みなみ
11	高齢者乳がん患者の治療に関する研究	外科	鳩野 みなみ
12	呼吸器外科領域における希少疾患の症例検討	胸部外科	近藤 薫
13	看護研究業績収録(令和4年度)	看護部	長福 明美
14	令和5年度看護研究3題	看護部	長福 明美
15	開窓術後の新規治療戦略における有効性の検討	胸部外科	塩谷 俊雄
16	急性膿胸手術症例における予後栄養指数の有用性に関する検討	胸部外科	塩谷 俊雄
17	臨床病期I期非小細胞肺癌に対する底区域切除術と肺葉切除術の比較検討	胸部外科	塩谷 俊雄
18	高齢者気胸におけるPrognostic nutritional indexおよび大腰筋量の検討	胸部外科	塩谷 俊雄
19	当院ストーマ外来の現状～病棟におけるストーマケアの向上に向けて(仮)	看護部	宮本 佐和子
20	大腿骨骨幹部骨折による髓内釘術後の膝関節屈曲可動域に影響する要因	リハビリテーション科	田坂 優騎
21	臍切除後の脂肪肝および臍性糖尿病と臍管径を含む臍容積の変化との関連に関する研究	外科	青木 秀樹
22	臍切除における亜鉛値の変動と臍機能の推移に関する研究	外科	青木 秀樹

23	ドライボックスの導入と若手外科医の腹腔鏡手術に関する研究	外科	小川 俊博
24	上部消化管患者のサルコペニアの予防による術後合併症と予後に関する研究	外科	小川 俊博
25	岩国医療センターにおける急性期脳卒中治療の現状分析	脳神経外科	伊丹 尚多
26	リンチ症候群の拾い上げと臨床病理学的特徴の解析	外科	田中屋 宏爾
27	様々な遺伝性疾患のカウンセリング体制構築に関する研究	外科	田中屋 宏爾
28	大腸癌の分子遺伝プロファイルに関する研究	外科	谷口 文崇
29	進行胃癌に対する腹腔鏡下手術の検討	外科	渡邊 めぐみ
30	食道胃接合部癌に対する至適術式の検討	外科	渡邊 めぐみ
31	ロボット支援胃癌手術の導入	外科	渡邊 めぐみ

7.治験等

治験

	研究課題名	委託者	診療科
1	転移性非小細胞肺癌（NSCLC）患者に対する一次治療においてデュルバルマブ単剤又はデュルバルマブ+トレメリムマブに白金製剤を含む化学療法を併用した場合の有効性を検討する第III相無作為化非盲検国際多施設共同比較試験（POSEIDON）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
2	同時化学放射線療法の施行後に進行が認められていない限局型小細胞肺癌（ステージI～III）の患者を対象として、デュルバルマブ単剤療法又はデュルバルマブとトレメリムマブの併用療法を実施する第3相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験（ADRIATIC）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
3	ステージII及びIIIの切除可能非小細胞肺癌患者に対する治療として、ネオアジュバント/アジュバント療法におけるデュルバルマブ投与を評価する第III相二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験（AEGEAN）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
4	KRAS p.G12C変異を有する既治療の局所進行切除不能又は転移性NSCLC患者を対象としてAMG 510をドセタキセルと比較する第III相、多施設共同、ランダム化、非盲検、実薬対照試験	アムジェン株式会社	呼吸器内科
5	左室駆出率40%以上の心不全患者（NYHA心機能分類II～IV度）における罹患率及び死亡率に関して、finerenoneの有効性及び安全性を検討する多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験	バイエル薬品株式会社	循環器内科
6	上皮成長因子受容体（EGFR）遺伝子変異を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象に、一次治療におけるプラチナ製剤+ペメトレキセドの併用又は非併用下でオシメルチニブの有効性及び安全性を検討する第III相非盲検無作為化試験（FLAURA2）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
7	JR-142の小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象とした第II相試験	JCRファーマ株式会社	小児科
8	EGFR 変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象として一次治療としてのAmivantamabとLazertinibの併用、オシメルチニブ、及びLazertinibを比較する第3相ランダム化試験	ヤンセンファーマ株式会社	呼吸器内科
9	オシメルチニブが無効となったEGFR変異局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としてアミバンタマブ及びlazertinibとプラチナ製剤を含む化学療法の併用とプラチナ製剤を含む化学療法を比較する第3相、非盲検、ランダム化試験	ヤンセンファーマ株式会社	呼吸器内科
10	Actionable 遺伝子変異がなく、治療歴のないPD-L1高発現（TPSが50%以上）の進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象としたDato-DXd及びペムプロリズマブ併用療法とペムプロリズマブ単剤療法を比較する無作為化非盲検第III相試験（Tropion-Lung08）	第一三共株式会社	呼吸器内科
11	JR-142の小児成長ホルモン分泌不全性低身長症患者を対象とした第II相試験の継続投与試験	JCRファーマ株式会社	小児科
12	HERTHENA-Lung02：上皮成長因子受容体（EGFR）チロシンキナーゼ阻害剤（TKI）療法が奏効しなかった転移性又は局所進行の上皮成長因子受容体変異陽性（EGFRm）非小細胞肺癌（NSCLC）を対象としたパトリツマブデルクステカンとプラチナ製剤併用化学療法を比較する第III相無作為化非盲検試験	第一三共株式会社	呼吸器内科
13	NAS-L3Kの未治療前立腺癌患者を対象とした薬力学的同等性試験	ニプロ株式会社	泌尿器科
14	オシメルチニブ及び化学療法後に進行したEGFR遺伝子変異陽性進行又は転移性非小細胞肺癌患者におけるラゼルチニブ併用投与時のアミバンタマブ手動注入による皮下投与とアミバンタマブ静脈内投与又はOBDSを用いたアミバンタマブ自動注入による皮下投与とを比較する、第3相、非盲検、ランダム化試験	ヤンセンファーマ株式会社	呼吸器内科
15	左室駆出率が40%超の心不全患者にAZD4831を48週間まで投与したときの有効性及び安全性を評価するランダム化二重盲検プラセボ対照多施設共同後期第2相及び第3相連続試験	アストラゼネカ株式会社	循環器内科
16	Actionable 遺伝子変異がなく、治療歴のないPD-L1 TPS50%未満の進行又は転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象としたDatopotamab Deruxtecán（Dato-DXd）とペムプロリズマブの併用療法（プラチナ製剤化学療法との併用又は非併用）を検討する無作為化第III相試験（TROPION-Lung07）	第一三共株式会社	呼吸器内科

17	OPC-131461 の心性浮腫（うっ血性心不全）に対する、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間、多施設共同、用量探索試験	大塚製薬株式会社	循環器内科
18	オシメルチニブ投与中に進行したEGFR変異陽性でMET過剰発現及び／又は増幅を有する局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にsavolitinibとオシメルチニブの併用療法と白金製剤を含む2剤併用化学療法を比較する第III相無作為化非盲検試験（SAFFRON）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
19	プラチナ製剤を含む化学療法及び抗PD-1/PD-L1 免疫療法の投与中又は投与後に進行がみられた進行又は転移を有する非小細胞肺癌（NSCLC）患者を対象としてSacituzumab Govitecan をドセタキセルと比較する非盲検、国際多施設共同、無作為化、第3相試験	ギリアド・サイエンシズ株式会社	呼吸器内科
20	治療抵抗性肺Mycobacterium avium Complex症患者を対象としてEpetraborole経口投与の有効性、安全性及び薬物動態を評価する第2/3相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同 前向き試験（MACrO2）	メドベイス・ジャパン株式会社	呼吸器内科
21	複雑性尿路感染症又は急性単純性腎盂腎炎成人患者を対象としたセフェピム/nacubactam 又はアズトレオナム/nacubactam併用投与時の有効性、及び安全性の評価を目的としたイミペネム/シラスタチン対照多施設共同無作為化二重盲検比較試験（第III相）	Meiji Seikaファルマ株式会社	泌尿器科
22	HERMES：全身性の炎症を伴う左室駆出率が軽度低下又は保たれた心不全患者を対象とした、罹病率及び死亡率に対するプラセボと比較したziltivekimabの効果	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社	循環器内科
23	転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象に、SB27（ペムプロリズマブのバイオ後続品候補）とキイトルーダの有効性、安全性、薬物動態及び免疫原性を比較する第III相、無作為化、二重盲検、多施設共同試験	Fortrea Japan株式会社	呼吸器内科
24	Uncommon EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者を対象としたアフアチニブ投与における DFP-14323 を併用した際の有効性を検証する臨床第 III 相試験	Delta-Fly Pharma 株式会社	呼吸器内科

特定使用成績調査

	研究課題名	委託者	診療科
1	オプスミット錠10mg特定使用成績調査（長期使用）	アクリオンファーマシューティカス ジャパン株式会社	循環器内科
2	プラルエント 特定使用成績調査	サノフィ株式会社	循環器内科
3	ザーコリカプセル特定使用成績調査 －ROS1融合遺伝子陽性の非小細胞肺癌に対する調査－	ファイザー株式会社	呼吸器内科
4	ウブトラビ錠0.2mg・0.4mg特定使用成績調査（長期使用に関する調査）	日本新薬株式会社	循環器内科
5	ファセンラ皮下注30mgシリンジ特定使用成績調査（長期）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
6	リツキシマブBS点滴静注100mg 500mg 「KHK」 特定使用成績調査	協和キリン株式会社	血液内科
7	イミフィンジ点滴静注120mg・500mg 切除不能な局所進行の非小細胞肺癌における根治的放射線療法後の維持療法の患者を対象とした特定使用成績調査	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
8	タフィンラー®カプセル50 mg, 75 mgメキニスト®錠0.5 mg, 2 mg BRAF 遺伝子変異を有する切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査	ノバルティス ファーマ株式会社	呼吸器内科
9	ガザイバ®点滴静注1000mg 特定使用成績調査	中外製薬株式会社	血液内科
10	ネスプ注射液プラシリンジ特定使用成績調査 「骨髓異形成症候群に伴う貧血における調査」	協和キリン株式会社	呼吸器内科
11	ローブレナ錠特定使用成績調査	ファイザー株式会社	呼吸器内科
12	エンハーツ点滴静注用100mg 特定使用成績調査 - 乳癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討 -	第一三共株式会社	外科

13	保存治療の重症下肢虚血における特定使用成績調査	田辺三菱製薬株式会社	循環器内科
14	コラテジェン投与における長期観察の特定使用成績調査	田辺三菱製薬株式会社	循環器内科
15	ベレキシブル®錠 特定使用成績調査 再発又は難治性の中脳神経系原発リンパ腫(PCNSL)	小野薬品工業株式会社	血液内科
16	ビジンプロ錠 特定使用成績調査	ファイザー株式会社	呼吸器内科
17	エンハーツ点滴静注用100mg 特定使用成績調査 - 胃癌患者を対象とした間質性肺疾患の検討 -	第一三共株式会社	外科
18	ベネクレクスタ®錠 特定使用成績調査 - 急性骨髄性白血病を対象とした全例調査 -	アッヴィ合同会社	血液内科
19	エドルミズ特定使用成績調査 [がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌]	小野薬品工業株式会社	呼吸器内科
20	バベンチオ点滴静注200mg特定使用成績調査（根治切除不能な尿路上皮癌における化学療法後の維持療法）	ルクバイオファーマ株式会社	泌尿器科
21	エドルミズ特定使用成績調査 [がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌]	小野薬品工業株式会社	消化器内科
22	エドルミズ特定使用成績調査 [がん悪液質：非小細胞肺癌、胃癌、膵癌、大腸癌]	小野薬品工業株式会社	外科
23	「ダラキューロ配合皮下注」に関する特定使用成績調査	ヤンセンファーマ株式会社	血液内科
24	日本人RET融合遺伝子陽性NSCLC患者を対象とした セルペルカチニブ特定使用成績調査（全例調査）	日本イーライリリー株式会社	呼吸器内科
25	ルマケラス特定使用成績調査(全例調査)	アムジェン株式会社	呼吸器内科
26	ピヴラツ点滴静注液150mg 特定使用成績調査(長期観察)	イドルシアファーマシューティカルズ ジャパン株式会社	脳神経外科
27	エジャイモ点滴静注1.1g特定使用成績調査<寒冷疑集素症患者>	サノフィ株式会社	血液内科
28	クリースビータ皮下注 特定使用成績調査 - FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症患者の長期使用に関する調査 -	協和キリン株式会社	小児科
29	リンヴォック錠 特定使用成績調査 - 中等症から重症の潰瘍性大腸炎を対象とした安全性及び有効性に関する調査 -	アッヴィ合同会社	消化器内科
30	イジュド点滴静注25mg イミフィンジ点滴静注120mg・500mg 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	アストラゼネカ株式会社	呼吸器内科
31	潰瘍性大腸炎患者を対象としたジセラカ錠特定使用成績調査	エーザイ株式会社	消化器内科
32	コセルゴ®特定使用成績調査 神経線維腫症1型における叢状神経線維腫に関する全例調査	アレクシオンファーマ合同会社	小児科

使用成績調査

	研究課題名	委託者	診療科
1	気管支充填剤EWSの使用成績調査	原田産業株式会社	呼吸器内科
2	ビミジム点滴静注液5mg使用成績調査	バイオマリンファーマシューティカル ジャパン株式会社	小児科
3	リムパーザ錠100mg、150mg がん化学療法歴のあるBRCA遺伝子変異陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象とした使用成績調査	アストラゼネカ株式会社	外科

4	ヴァンフリタ®錠 一般使用成績調査	第一三共株式会社	血液内科
5	トレアキシン®点滴静注用使用成績調査 －慢性リンパ性白血病における重症感染症発現状況に関する調査－	エーザイ株式会社	血液内科
6	サムスカ 一般使用成績調査 (SIADHにおける低ナトリウム血症)	大塚製薬株式会社	呼吸器内科
7	レブラミド®カプセル一般使用成績調査 (再発又は難治性のFL及びMZL)	ブリistolマイヤーズ株式会社	血液内科
8	ジクトルテープ一般使用成績調査	久光製薬株式会社	呼吸器内科
9	ハイヤスタ錠10mg 再発または難治性の成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)患者における一般使用成績調査(全例調査)	Meiji Seika ファルマ株式会社	血液内科
10	ハーセプチン®注射用60、同150-般使用成績調査 －HER2陽性の根治切除不能な進行・再発の唾液腺癌－	中外製薬株式会社	耳鼻いんこう科
11	脊椎内固定器具「Associa ZiQueスパイナルシステム」の使用成績調査	京セラ株式会社	整形外科
12	アルンプリグ錠一般使用成績調査 「非小細胞肺癌」	武田薬品工業株式会社	呼吸器内科
13	ミダフレッサ静注0.1%一般使用成績調査	アルフレッサファーマ株式会社	脳神経外科
14	オブジーボ®一般使用成績調査(原発不明癌)	ブリistolマイヤーズ・スクイブ株式会社	呼吸器内科
15	ラパリムス錠1 mg(難治性リンパ管疾患)一般使用成績調査(全例調査)	ノーベルファーマ株式会社	整形外科
16	オンデキサ静注用200mg 一般使用成績調査	アストラゼネカ株式会社	脳神経外科
17	ジェセリ錠40mg一般使用成績調査(全例調査)	大鵬薬品工業株式会社	消化器内科
18	ボックスゾゴ®皮下注用0.4 mg/0.56 mg/1.2 mg 使用成績調査 軟骨無形成症患者における長期安全性及び有効性	BioMarin Pharmaceutical Japan株式会社	小児科
19	コラテジェン初回投与12カ月後までの安全性に関する一般使用成績調査	田辺三菱製薬株式会社	循環器内科
20	リムパーザ錠100mg、150mg BRCA 遺伝子変異陽性かつHER2 陰性で再発高リスクの乳癌患者における術後薬物療法を対象とした一般使用成績調査	アストラゼネカ株式会社	外科

副作用報告

	研究課題名	委託者	診療科
1	副作用「肺出血」に関する詳細調査	サノフィ株式会社	呼吸器内科
2	アミオダロン塩酸塩速崩錠100mg「TE」有害事象調査	トーアエイヨー株式会社	循環器内科
3	ポートルーザ点滴静注液800mgによる副作用詳細調査	メルクバイオフファーマ株式会社	呼吸器内科
4	ビムパット錠の副作用報告に対する詳細調査	第一三共株式会社	脳神経外科
5	レルミナ錠40mg の副作用・感染症報告(23-0135)	あすか製薬株式会社	産科・婦人科
6	エンハーツ点滴静注用の副作用報告に対する詳細調査	第一三共株式会社	外科

その他の研究

	研究課題名	委託者	診療科
1	APACERAM for PPS および PSV スパイナルシステムの操作性と併用使用の術後成績調査	HOYA Technosurgical株式会社	整形外科

編集後記

病院年報が完成しましたので、皆様にお届けさせていただきます。2023年度における病院の活動や成果についての情報を皆様にお伝えできることを大変嬉しく思います。

コロナウイルスの影響は5～6ヶ月毎に流行がやってきており、未だに落ち着かない状態です。病院の中は皆マスクを付けておりますが、市中に出ますとマスクを付けている人間のほうが少ない状態になり、日常が戻ってきております。学会も対面での開催が増えております。

2023年度も診療と学会活動が活発になっており、我々の診療の積み重ねが、よりよい治療をお届けできる礎になっているのではないかと思います。新しい年報を皆様にお届けできることを嬉しく思っております。今後ともよろしくお願いたします。

臨床研究部長 久山彰一